

学内広報

for communication across the UT



2006年(第56回)学生生活実態調査の結果



2007.12.7

No. 1366

目 次

調査の概要……………	2	第2部 学生生活の背景	
報告について……………	2	1 家庭の状況……………	21
第1部 学生生活の評価と将来の選択		2 生活費の状況……………	23
1 入学・進学・学業……………	5	3 通学・住居……………	24
2 就職……………	11	4 奨学金……………	25
3 心身の健康について……………	13	5 アルバイト……………	26
4 学内施設の利用……………	15	具体的記述……………	27
5 学内情報のメディア……………	17	資料1 (第56回(2006年)学生生活実態調査票)……………	51
6 大学への要望……………	18	資料2 (集計表)[学内広報では掲載しません]	
7 東大の活動をどこまで知っていますか……………	19	学生生活委員会学生生活調査室	
8 特殊分析(睡眠と心身の健康)……………	20		

調査の概要

1. 調査票の作成

2006年(平成18年)5月から10月にかけて、学生生活委員会学生生活調査室で調査内容の企画立案を行った。

2. 調査の期間

2006年(平成18年)11月下旬～12月下旬。

3. 調査の対象及び抽出率

学部男子・女子学生。学部・科類別無作為抽出法で、在籍者数の1/4を抽出。

4. 調査の方法

郵送調査で行い、対象者自身が記入する(自記式)方法。

5. 調査の内容

I. 基本的事項、II. 入学・進学・学業、III. 就職、IV. 心身の健康、V. 学内施設の利用、VI. 学内情報のメディア、VII. 大学への要望、VIII. 大学が行っている学生生活に係る事柄、IX. 家庭の状況、X. 生活費の状況、XI. 通学・住居、XII. 奨学金、XIII. アルバイト、XIV. 具体的記述

報告について

- 今回は、2005年(第55回)と同様に、学部男子・女子学生を対象として学生生活実態調査を行った。集計結果の分析に当たっては、学部学科間・年度間・男女間などの相違に注目し、特異な数値傾向の把握に努めた。
- 学内広報掲載の報告については、集計表を省略した。集計表については、ホームページ掲載の報告を参照されたい。
- 具体的記述については、記入したもののおよそ半数を掲載した。明らかに誤記と思われるものを除き、原文を尊重した。
- 本文中の「ポイント」は、総数の百分率(パーセント)を表す。

グラフと表について

- 今回、本文に掲載した経年変化のグラフと表については、1971年調査にまでさかのぼって取り上げた項目がいくつかあり、「表1」に1971年以降の調査の実施状況を表示した。
- 本文中に掲げたグラフについては、それぞれの年の比較を見やすくするため「無回答」及び「その他の分類」の項目について若干の数値を省略したものがあある。そのため、合計が100%に満たないものもある。また、個々の数値を四捨五入しているため、合計が100%に満たないものと100%を超えるものがある。
- 1984年調査で抜本改正を行なった家計支持者の職業分類については、2002年調査に引き続き三重クロス集計(「職業」×「勤務先の規模」×「雇用形態」)の一元化を作成した。「集計表IX-5表」125ページを参照されたい。

表1 学生生活実態調査実施状況一覧表

回数	調査年月	対象学生	抽出率	対象者数	回収率	調査方法
第21回	1971年12月	学部男子	1 / 4・1 / 15	797	67.3	郵送自記式
第22回	1972年11月	学部学生	男子 1 / 15 女子 1 / 5	648 107	68.2 78.5	〃
第23回	1973年12月	学部学生	男子 1 / 15 女子 1 / 2	794 340	76.2 75.0	〃
第24回	1974年11月	学部男子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,004	67.8	〃
第25回	1975年11月	学部男子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,041	75.3	〃
第26回	1976年11月	学部男子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,063	75.5	〃
第27回	1977年11月	学部女子	全 数	811	75.8	〃
第28回	1978年12月	大学院学生	男子 1 / 4 女子 全 数	862 315	66.1 66.3	〃
第29回	1979年11月	学部男子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,069	78.6	〃
第30回	1980年11月	学部男子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,064	73.8	〃
第31回	1981年11月	学部男子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,031	74.2	〃
第32回	1982年11月	学部女子	全 数	910	77.6	〃
第33回	1983年11月	学部男子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,008	75.0	〃
第34回	1984年11月	学部学生	男・女 1 / 10	1,380	76.1	〃
第35回	1985年11月	大学院学生	男子 1 / 2 ~ 1 / 4 女子 1 / 2 OM・OD 1 / 2	968 165 249	69.8 67.9 51.4	〃
第36回	1986年11月	学部学生	男・女 1 / 10	1,385	72.6	〃
第37回	1987年11月	学部学生	男・女 1 / 10	1,432	73.9	〃
第38回	1988年11月	学部学生	男・女 1 / 10	1,459	70.9	〃
第39回	1989年11月	学部学生	男・女 1 / 10	1,480	78.5	〃
第40回	1990年11月	学部学生	男・女 1 / 10	1,504	63.1	〃
第41回	1991年11月	学部学生	男・女 1 / 10	1,530	62.2	〃
第42回	1992年11月	大学院学生	男子 1 / 2 ~ 1 / 6 女子 1 / 2	1,496	59.8	〃
第43回	1993年11月	学部学生	男・女 1 / 10	1,593	64.8	〃
第44回	1994年11月	学部学生	男・女 1 / 8	2,005	60.6	〃
第45回	1995年11月	学部学生	男・女 1 / 8	2,011	64.0	〃
第46回	1996年11月	学部学生	男・女 1 / 8	2,004	60.9	〃
第47回	1997年11月	学部学生	男・女 1 / 8	1,990	60.2	〃
第48回	1998年11月	学部学生	男・女 1 / 8	1,964	60.3	〃
第49回	1999年11月	大学院学生	男・女 1 / 4 OM・OD 1 / 4	2,099	49.5	〃
第50回	2000年11月	学部学生	男・女 1 / 8	1,917	54.4	〃
第51回	2001年11月	学部学生	男・女 1 / 8	1,900	49.6	〃
第52回	2002年11月	学部学生	男・女 1 / 4	3,749	37.2	〃
第53回	2003年11月	学部学生	男・女 1 / 4	3,700	40.6	〃
第54回	2004年11月	大学院学生	男・女 1 / 4	2,539	40.6	〃
第55回	2005年11月	学部学生	男・女 1 / 4	3,534	38.7	〃
第56回	2006年11月	学部学生	男・女 1 / 4	3,455	32.8	〃

(注1) 「休学者」「外国人留学生」は、対象学生から除かれている。1992年調査は「外国人留学生」を含む。

(注2) 1971年調査で、抽出率に2つの数字が掲げられているのは、前者は医学部であり、後者は医学部を除く他の学部である。また、1974年以降の調査で抽出率に幅がある場合は、学部（大学院）の規模により、その数字の範囲内で抽出率をそれぞれ定めている。

表2 2006年(第56回)学生生活実態調査回収状況一覧

学 部	男 子				女 子				全 体			
	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率
教養学部(前期)	5,267	1318	445	33.8	1,222	305	131	43.0	6,489	1623	578	35.6
文科小計	1,927	482	153	31.7	730	182	74	40.7	2,657	664	228	34.3
文科一類	671	168	57	33.9	201	50	14	28.0	872	218	71	32.6
文科二類	654	164	43	26.2	113	28	11	39.3	767	192	54	28.1
文科三類	602	150	53	35.3	416	104	49	47.1	1,018	254	103	40.6
理科小計	3,340	836	292	34.9	492	123	57	46.3	3,832	959	350	36.5
理科一類	2,271	568	203	35.7	184	46	19	41.3	2,455	614	223	36.3
理科二類	911	228	74	32.5	286	72	36	50.0	1,197	300	110	36.7
理科三類	158	40	15	37.5	22	5	2	40.0	180	45	17	37.8
法 学 部	1,058	265	94	35.5	283	71	33	46.5	1,341	336	129	38.4
経 済 学 部	649	162	45	27.8	119	30	6	20.0	768	192	52	27.1
文 学 部	532	133	27	20.3	269	68	20	29.4	801	201	47	23.4
教 育 学 部	142	36	19	52.8	99	25	8	32.0	241	61	27	44.3
理 学 部	523	131	41	31.3	58	14	4	28.6	581	145	45	31.0
工 学 部	1,790	447	104	23.3	150	37	14	37.8	1,940	484	120	24.8
農 学 部	459	114	36	31.6	143	35	15	42.9	602	149	51	34.2
薬 学 部	119	30	13	43.3	60	15	6	40.0	179	45	19	42.2
医 学 部	370	92	23	25.0	98	26	14	53.8	468	118	37	31.4
教養学部(後期)	281	71	18	25.4	120	30	11	36.7	401	101	29	28.7
合 計	11,190	2,799	865	30.9	2,621	656	262	39.9	13,811	3,455	1,134	32.8
2005年(第55回)調査	11,424	2,857	1,050	36.8	2,692	677	317	46.8	14,116	3,534	1,367	38.7

注) 1. 「在籍者数」は2006年(平成18年)8月1日現在の学生数(休学者、留学者、外国人留学生を除く)である。
 2. 性別不明者が7名いる。(文科三類1名、理科一類1名、法学部2名、経済学部1名、工学部2名)

第1部 学生生活の評価と将来の選択

1-1. 入学・進学・学業

1-1-1. 入学について

入学の希望は「東大にどうしても入りたかった」54.7%
入学の動機は「社会的評価が高いから」54.4%
入学時に進学希望学部を決めていたのは59.4%

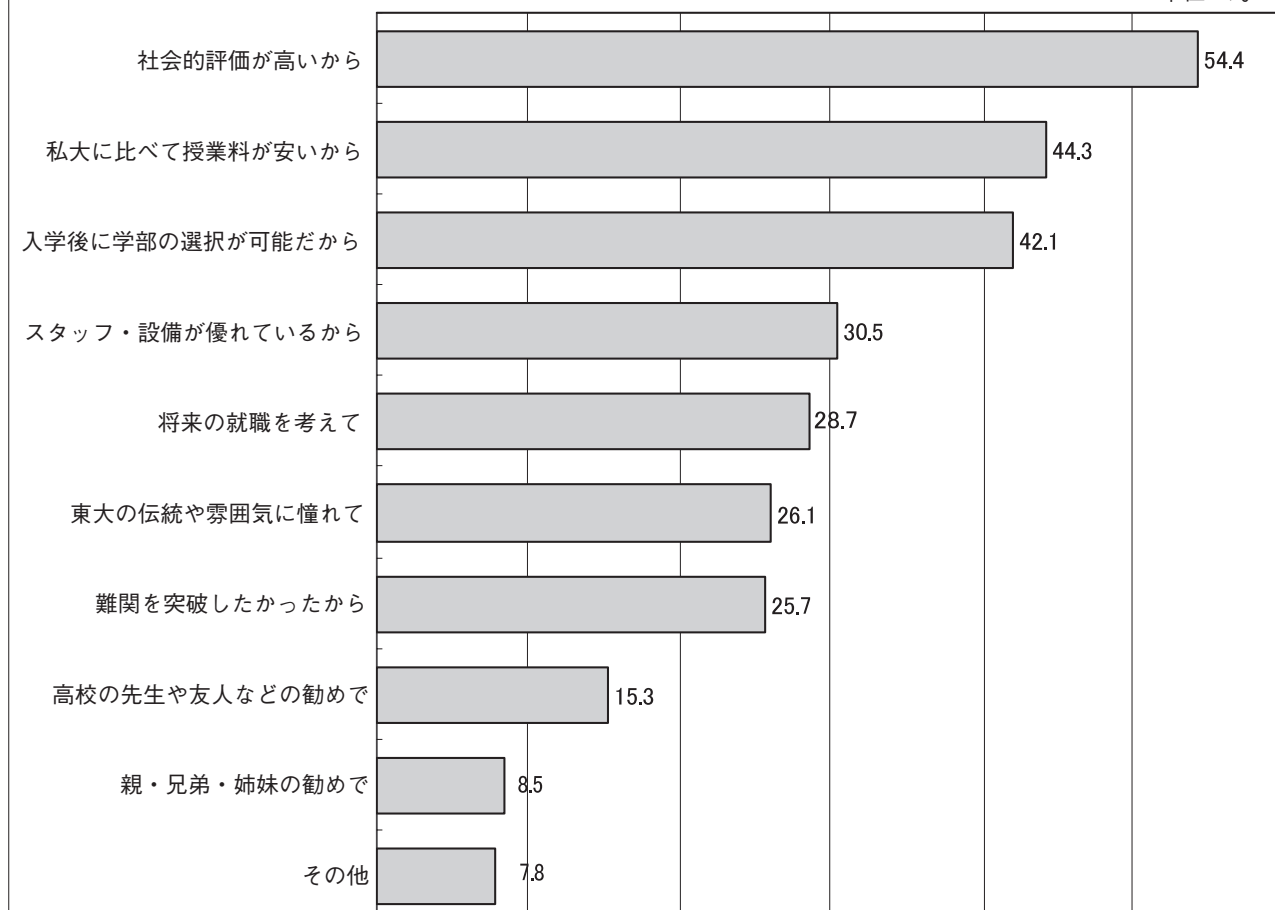
「東大に入学することをどの程度希望していましたか」の間では、「東大にどうしても入りたかった」という回答は、全体で54.7%、男子が55.5%で女子の52.3%を3.2ポイント上回り、「東大がダメなら他大学でもよいと思った」という回答は、女子が43.5%で男子の42.9%を0.6ポイント上回った。また、「どうしても入りたかった」という回答は、前回（2005年）調査と逆転して、男女共に理科系の方が文科系より高い割合となっている（集計表I-1表）。

「東大入学の動機」の間については、十の選択肢の中から三つを選ばせた。「東大の社会的評価が高いから」54.4%、「私大に比べて授業料が安いから」44.3%、「入学後に学部の選択が可能だから」42.1%が上位となっている（図1、集計表I-2表）。

「入学するときに進学する学部あるいは学科等を決めていましたか」の問いに対しては、「学科等まで決めていた」25.8%、「学部のみを決めていた」33.6%、「学部学科等は決めていなかった」40.5%となっている。学部あるいは学科等まで「決めていた」学生は、文科系では70.6%で、理科系の50.5%より20.1ポイント多く、前回（2005年）調査より、文科系で2.6ポイント、理科系で1.3ポイント下がっている（集計表I-3表）。

図1 東大入学の動機（3つまで選択）

単位：%



1-1-2. 進学について

「希望通り・ほぼ希望通り」進学決定（内定）したのは94.8%
在籍学部・学科等に「満足・まあ満足」している学生は74.0%
進学振分け制度「現行のままでよい」は39.7%

「学部・学科等の選択に際し、どのような点を重視しましたか」の問いに対しては、七つの選択肢の中から二つを選ばせた。「自分が惹きつけられた学問分野であること」という回答が81.7%で、次に続く「就きたい職業に必要な能力を磨けること」29.4%、「社会に役立つ度合いの大きい分野であること」23.8%等の回答を大きく引き離しているのが注目される。

また、「最先端の学問が学べること」という回答は、理学部、薬学部では42%台であるのに対し、経済学部、教育学部では3%台と極めて低い割合であり、文科二類ではさらに低割合で1.9%しかない。

「自分が惹きつけられた学問分野であること」という回答も、文科一・二類・理科三類やその上の法学部・経済学部・医学部では50%台から70%台の割合であるのに対し、文科三類や理科一・二類とその上の専門学部では80%台から100%の高い割合である。

「その学部・学科等の教員に魅力を感じること」という回答は、全体では13.4%の低割合であるが、前期課程では文科三類の31.1%が際立って高く、他は概ね20%以下の水準である。後期課程でも、文科三類の上の教育学部が25.9%、教養学部文科系が23.8%と高い水準にある。

「社会に役立つ度合いの大きい分野であること」という回答は、全体では23.8%で、学部間・男女間の相違は目立たないが、法学部・経済学部・農学部・医学部で30%台から40%台の比較的高い割合であるのに対して理学部で0%、文学部で6.4%と際立って低割合なのが目立つ。

「就きたい職業に必要な能力を磨けること」という回答は、全体では29.4%であるが、文科一類とその上の法学部で50%以上の高い割合であるのが目立つ（集計表I-4表）。

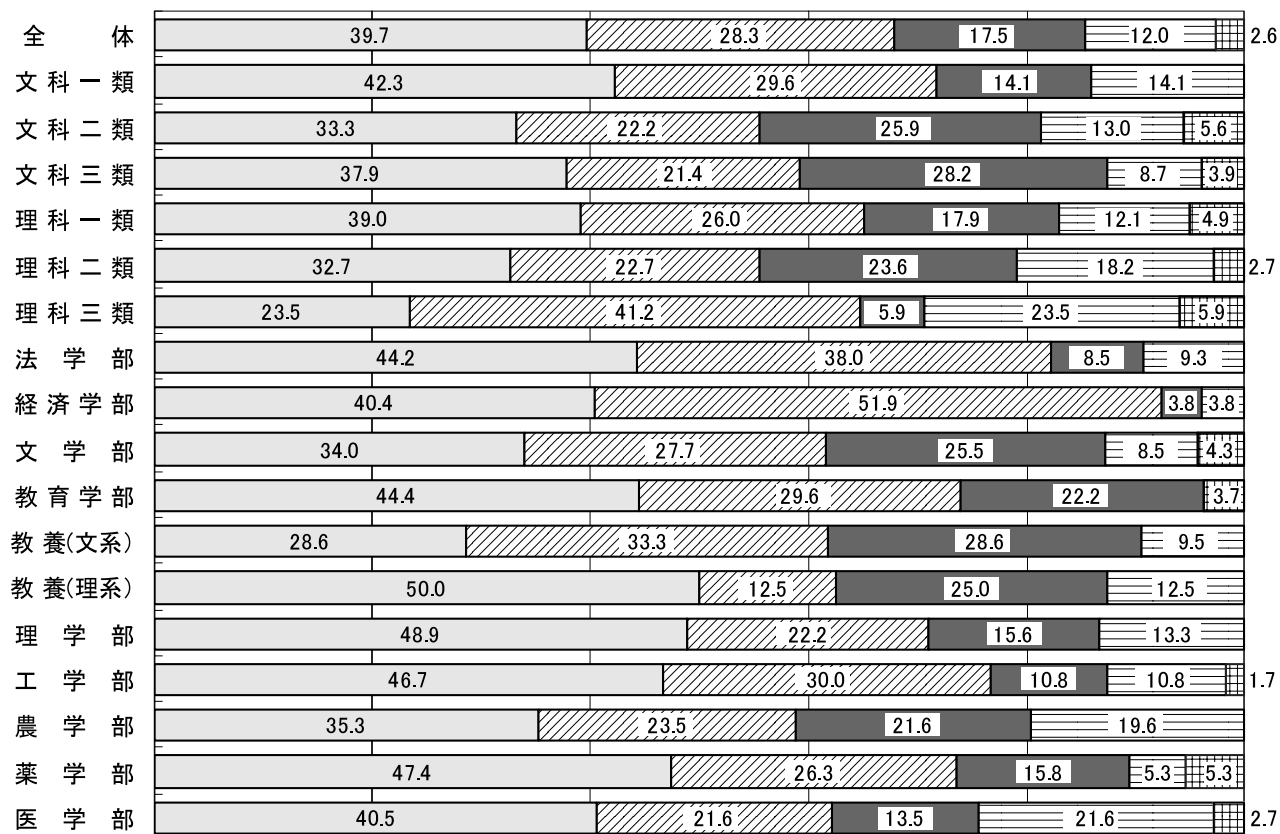
「進学の決定（内定）について」の問いでは、「希望通り決定した」「ほぼ希望通り決定した」「希望通りでなかった」の三つの選択肢から一つを選ばせたが、「希望通り決定した」81.2%と「ほぼ希望通り決定した」13.6%を合わせると、希望通り進学したと回答した学生が94.8%に達した。ただし、教養学部理科系では「希望通り決定した」という回答が25.0%と非常に低い割合である。「希望通りでなかった」という回答は、全体では3.4%であるが、教養学部理科系では上述の状況に対応して25.0%と高い割合なのが目立つ（集計表I-5表）。

「現在在籍している学部・学科等（科類）に満足していますか」の問いに対しては、「満足している」が40.7%、「まあ満足している」が33.3%で、これらを合わせると74.0%となり、満足している学生が94年調査以降70%前後の水準を保っている。（集計表I-6表）。

「進学振分け制度についてどのように考えていますか」の問いに対しては、「現行のままでよい」と「特にない」を合わせた割合が1997年（47回）調査から2003年（53回）調査までは42.2%から50.8%であったものが前回（2005年）調査で68.7%、今回（2006年）調査で「現行のままでよい」39.7%と「特にない」28.3%を合わせた割合が68.0%で前々回調査以前よりも20ポイント前後増加している（図2、集計表I-7表）。

図2 進学振分け制度についての要望

単位：%



□ 現行のままでよい

▨ 特に考えていることはない

■ 点数以外の振分け基準を取り入れた方がよい

☐ 入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい

▩ 無回答



安田講堂前広場

1-1-3. カリキュラムについて

カリキュラムに「満足・まあ満足している」は51.8%
カリキュラムの消化が「できる・まあできる」は80.7%

「現在のカリキュラムに満足しているか」の問いに対しては、「総じて満足」（「満足」と「まあ満足」の計）51.8%が「総じて不満」（「やや不満」と「不満」の計）29.3%を上回っている。90年調査では「総じて不満」が20ポイント程上回ったが、94年調査以降は逆転し、次第に「総じて満足」が多くなった。前回（2005年）調査ではその差が30.7ポイントであったが、今回の調査ではその差は少し縮まり22.5ポイントになった。「総じて満足」が薬学部で68.5%と高いこと、「総じて不満」が理科三類で52.9%の高い割合であることなどが目立つ（図3-1、集計表I-8表）。

「カリキュラムは消化できるか」の問いに対しては、「総じてできる」（「できる」、「まあできる」の計）と回答した学生は80.7%になり、前回調査より1.6ポイント上がり、84年調査以降でもっとも高い割合となっている。他方、カリキュラムの消化に困難を感じる学生は17.6%で、前回調査より2.8ポイント下がり、84年調査以降でもっとも低い割合となっている。「多少困難」という回答が理科三類で29.4%の高い割合なのが目立つ（図3-2、集計表I-9表）。

「カリキュラムの消化が総じて困難な理由」については、前回調査と同様に「講義の内容が高度すぎて理解できない科目がある」52.5%が第1位で、これに「授業への自分の意欲や努力が足りない」45.5%、「授業の予習と復習の時間が十分とれない」39.0%、「カリキュラムの組み方が不適切である」33.5%が続いているが、3位までは前回調査と同順になっている（集計表I-10表）。

図3-1 現在のカリキュラムに満足していますか

単位：%

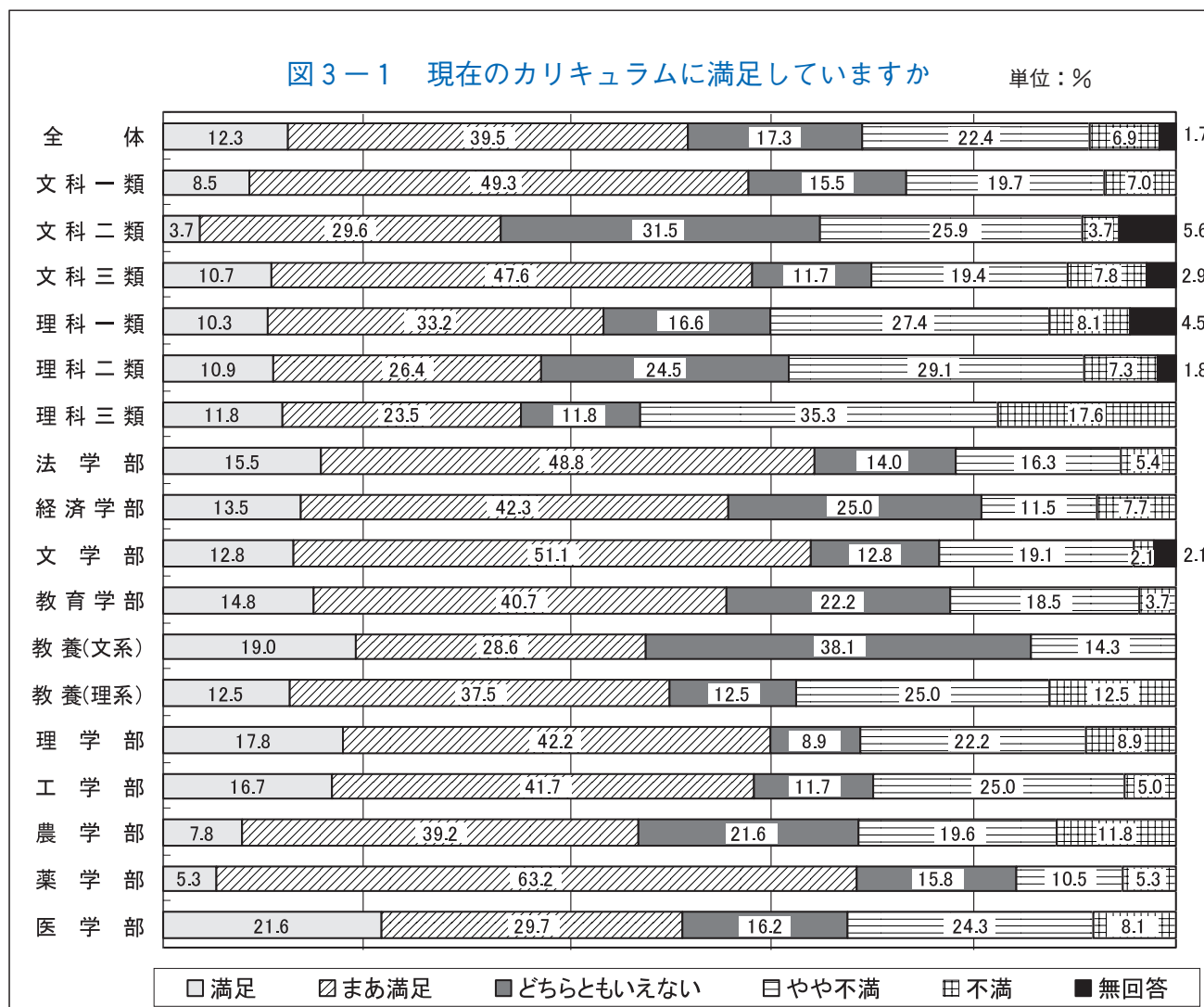
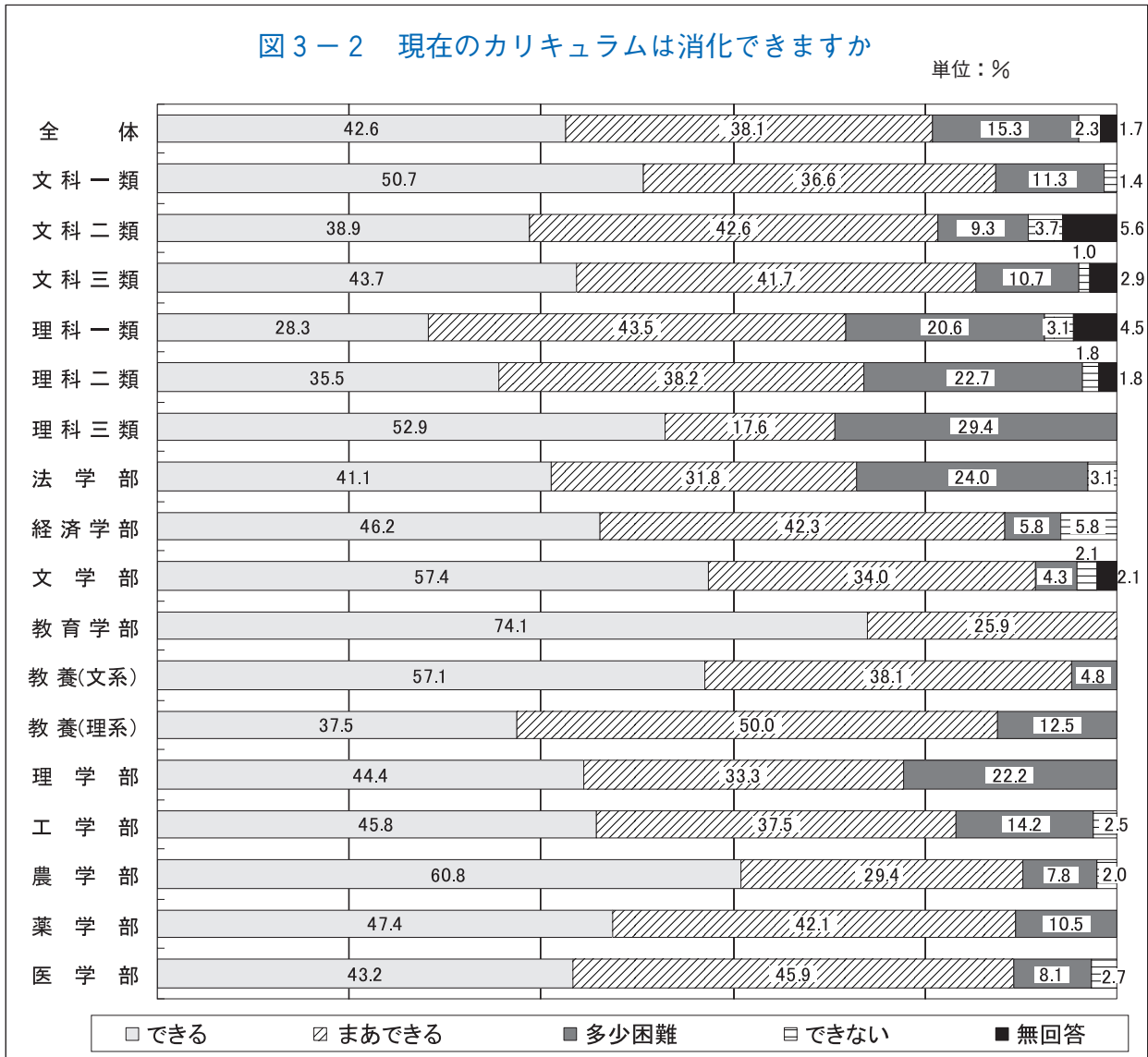


図3-2 現在のカリキュラムは消化できますか

単位：%



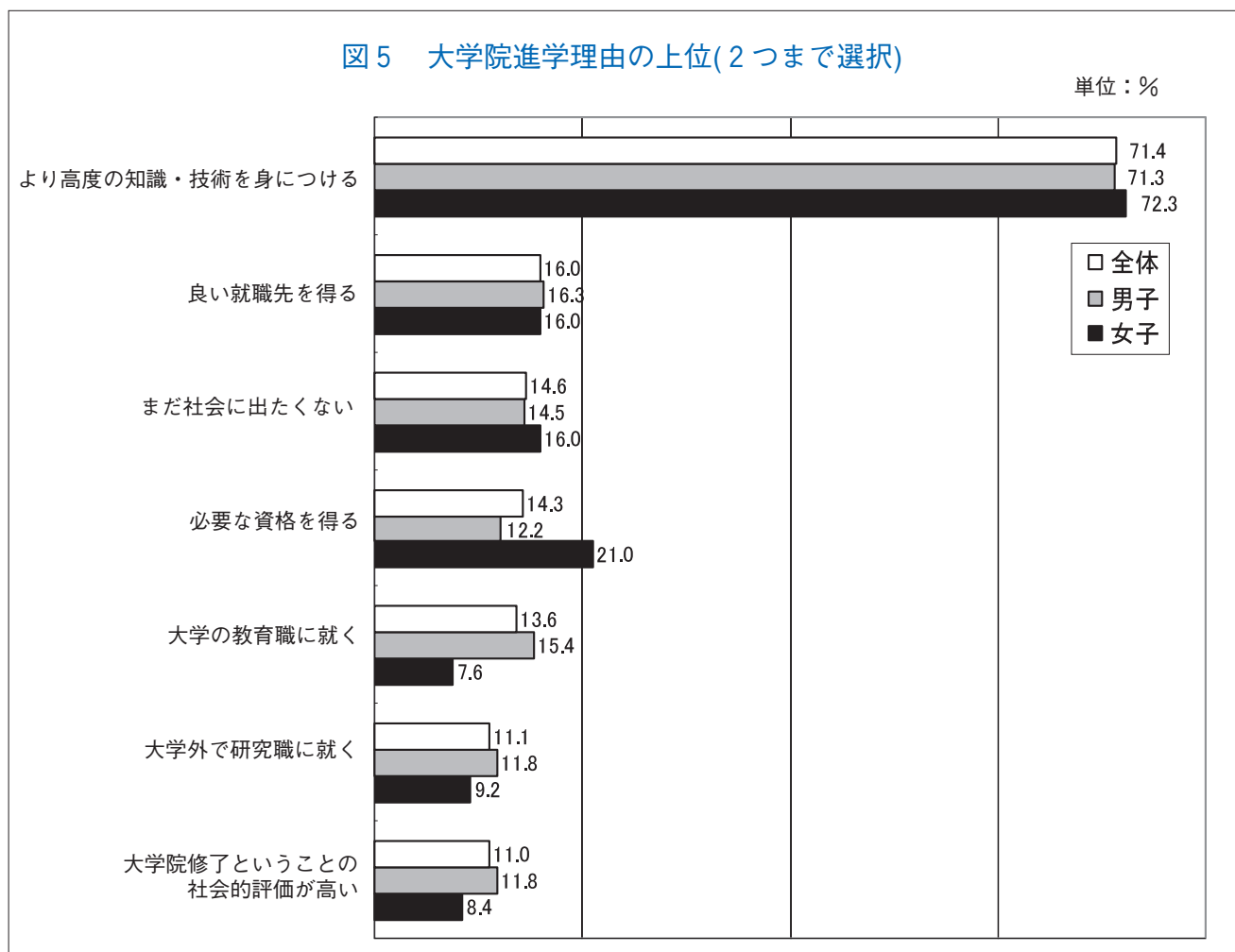
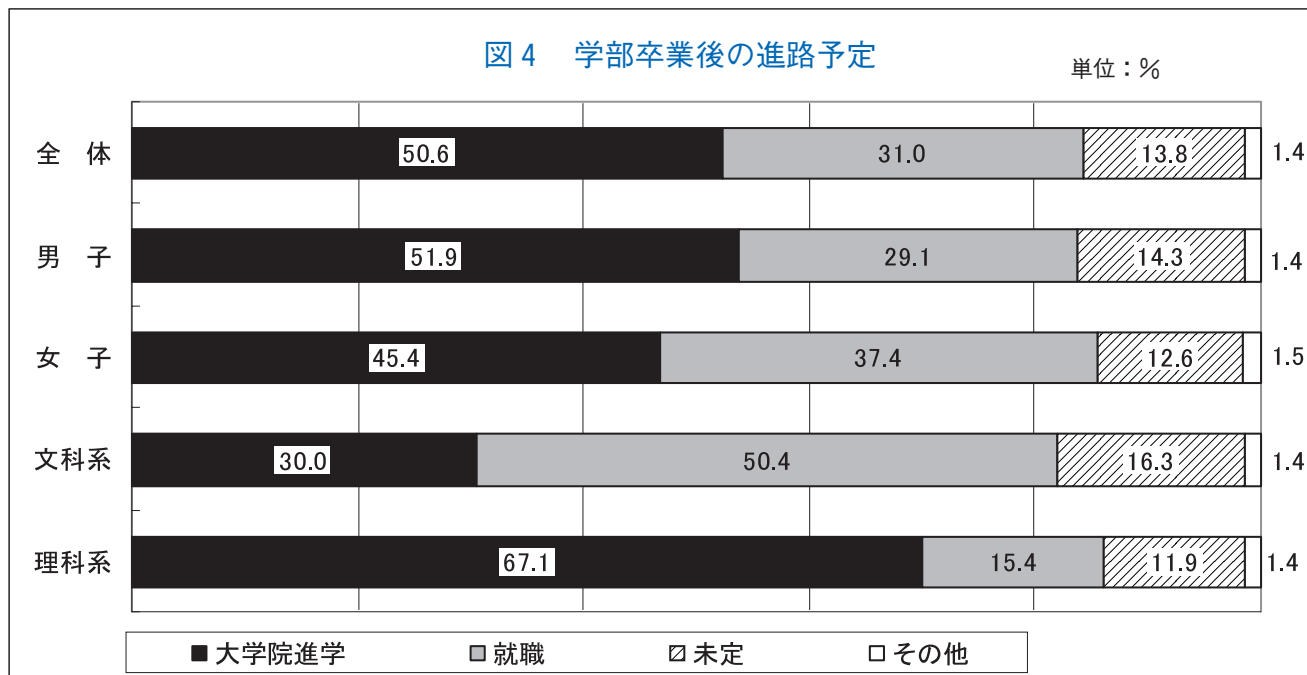
1-1-4. 学部卒業後の進路予定について

文科系は就職希望者が、理科系では大学院進学希望者が5割を超える
 大学院進学希望者では、文科系の専門職学位課程を希望する者が30%を超える
 主な大学院進学の理由第1位は、「より高度の知識・技術を身に付けるため」で71.4%

「学部卒業後、どのような進路を予定しているか」については「大学院に進学する」50.6%、「就職する」31.0%、「まだ決めていない」13.8%で、前回調査より「学士入学をする」を含めた「進学する」が0.6ポイント増加し、「就職する」が0.1ポイント、「まだ決めていない」が1.3ポイント減少している。文科系と理科系の比較では、「進学する」は理科系67.1%に対し文科系30.0%、「就職する」は文科系50.4%に対し理科系15.4%と、割合が逆転している(図4、集計表I-11表)。

「学部卒業後の進学予定」については、「大学院修士課程」までが59.1%、「大学院博士課程」までが31.0%、「専門職学位課程」までが9.1%となっている。文科系では、専門職学位課程への進学を希望するものが、31.1%に上っている(集計表I-12表)。

「大学院に進学する理由」については、二つまでを選択させたが、「より高度の知識・技術を身に付けるため」が71.4%で最も多く、「良い就職先を得るため」16.0%、「まだ社会に出たくないから」14.6%、「必要な資格を得るため」14.3%と続いている。「必要な資格を得るため」が文科系男女に多く、「まだ社会に出たくないから」が理科系の女子に多いが目立つ（図5、集計表I-13表）。



1-2. 就職

希望職種は「大学・公的機関の教育・研究職」43.6%
 希望職種に就きたい理由は「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」62.4%
 仕事や職場を選ぶ際に重視することは「やりがいがある」66.8%

どのような職業に就きたいかの問は、前回（2005年）調査と同様「大学・公的機関の教育・研究職」が43.6%で最も多く、これに「企業等の研究職」37.2%が続いている。また、「教育・研究職」を除くと、「専門職（医師、法曹、公認会計士等）」が34.7%、「行政職（公務員）」が34.0%が続いている。特に理科系は「企業等の研究職」を望む学生が男子57.6%、女子61.3%、「大学・公的機関の教育・研究職」を望む男子が57.0%、女子51.4%と文科系よりかなり多いが、文科系は男子が「専門職」48.1%、「行政職（公務員）」47.9%を、女子が「専門職」43.7%、「行政職（公務員）」45.7%と理科系よりかなり多い。理科系では第1位、第2位とも「企業等の研究職」、「大学・公的機関の教育・研究職」と研究職志向が高い。文科系では「専門職」「行政職（公務員）」への志向が高くなっている。（図6-1・2、集計表Ⅱ-1表）。

希望の職業に就きたい理由も前回調査と同順で、「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」が62.4%で最も多く、「人を助けたり社会に奉仕する」44.8%、「安定した生活が保証されている」33.3%がそれに続いている。職種の希望で文科系・理科系の差が大きかったのに比べ、ここでは両者の差が小さいことが特徴である（集計表Ⅱ-2表）。

仕事や職場を選ぶ際に重視するものも前回調査と同順で、「やりがいがある」が66.8%、「能力が発揮できる」37.3%、「給料がよい」36.8%、「技術や知識を身につけられる」22.3%と続いている。また、「仕事を行う上で男女の差別がない」を選んだのが、男子の0.2%に対し、女子は22.5%と4位を占め、男女差が際立っている（集計表Ⅱ-3表）。

就職活動をしたことがありますかの問いには、「ある」と回答した学生が全体では20.1%、後期課程でも女子が43.5%、男子が37.1%と、半数にも満たない（集計表Ⅱ-4表）。

就職活動としては、「インターネット等で、情報を収集する」96.9%、「企業等のセミナーや説明会に参加する」92.1%が他の選択肢を大きく離している（集計表Ⅱ-5表）。

就職する場所としては、前回調査と同様に「東京圏（東京近郊）を希望する」が51.9%と過半数を超えている。男女別では、男子の48.9%に対して女子が61.5%で6割を超えている。「海外を希望する」学生は低率ながら、前回の3.8%から5.3%に増加している。特に女子の前期課程では12.2%と高いが、後期課程では3.1%と激減している（集計表Ⅱ-6表）。

図6-1 就職希望職種(3つまで選択)

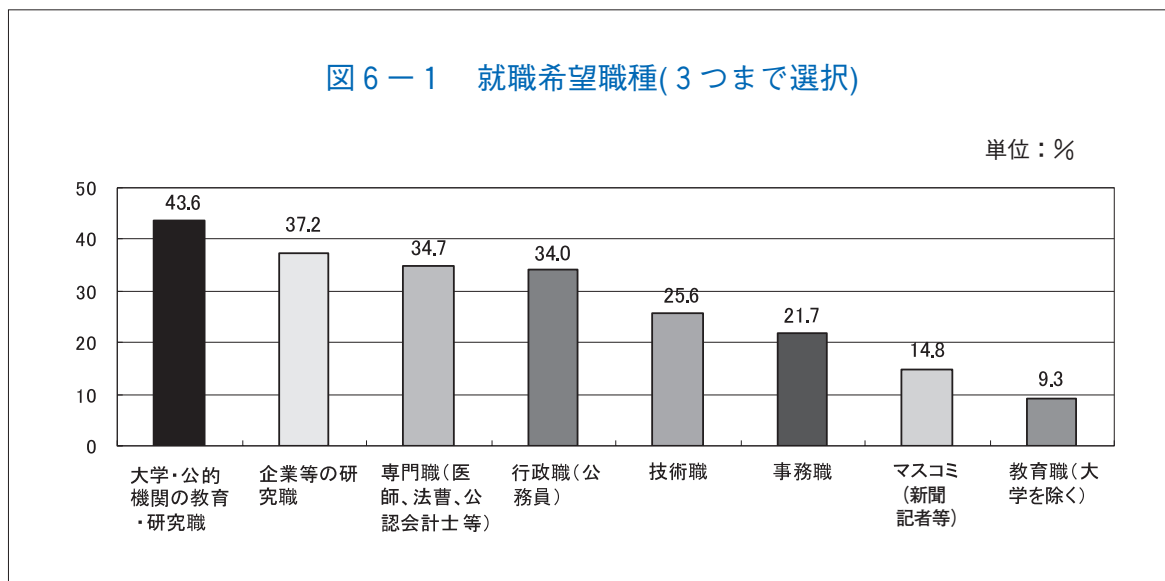
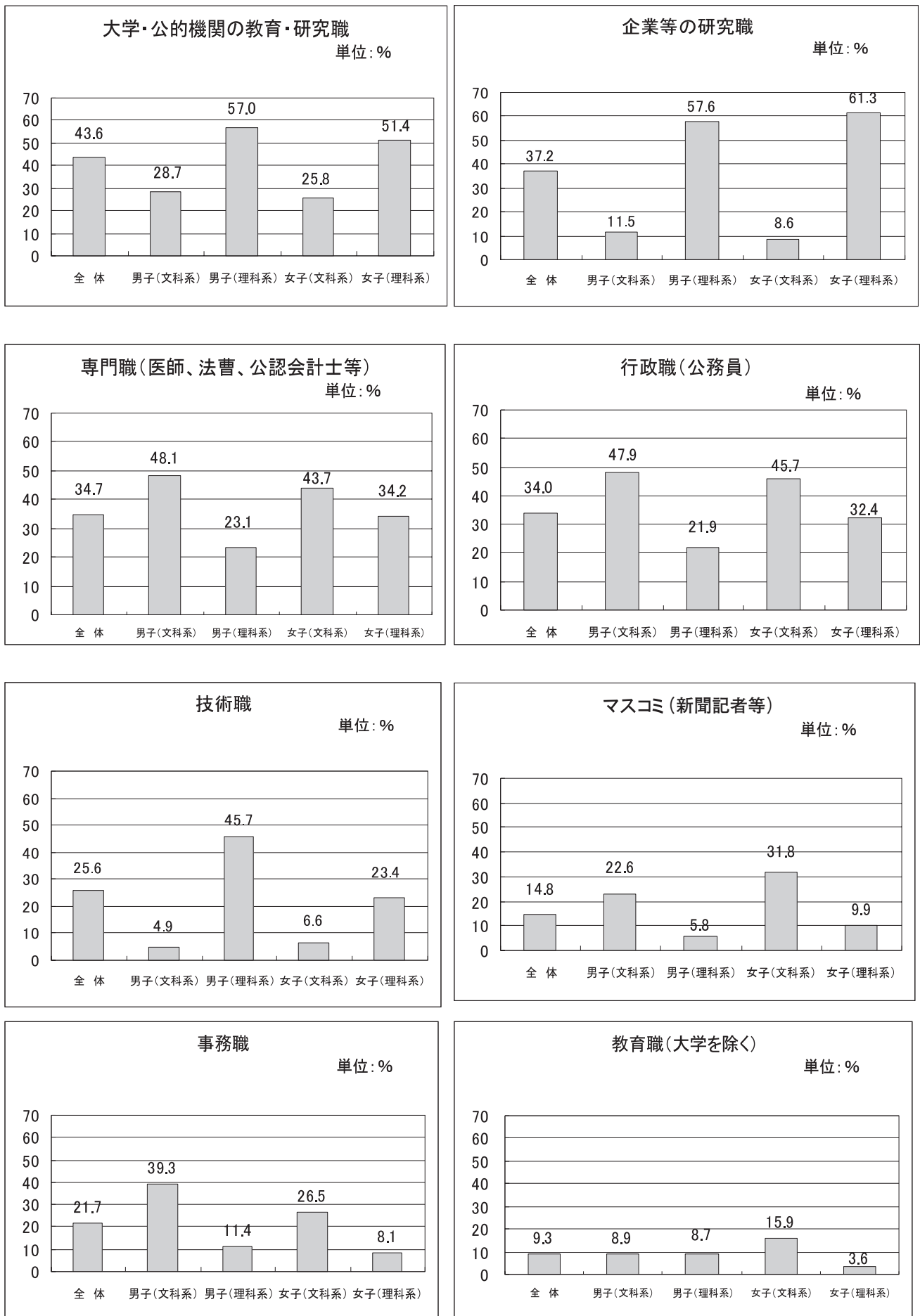


図6-2 就職希望職種(職種別内訳)



1-3. 心身の健康について

健康状態は「非常に良好」「良好」を合わせて89.9%
朝食を「ほぼ毎日」摂っている学生が73.4%
たばこを「全く吸わない」学生が89.9%
「将来の進路や生き方」に悩みや不安を感じている学生が81.2%
「よく相談する」相談相手は、学内外の友人・知人、母親、恋人

健康状態については、「非常に良好」が32.8%、「良好」が57.1%で合わせると89.9%で、これは前回までの調査（1986年87.9%、89年88.1%、93年86.4%、98年86.8%、02年87.9%）とほぼ横ばいである。これに対し「やや悪い」「悪い」が全体で9.5%もあり、「自宅」8.8%より「自宅外」11.1%の方が多い。とくに女子の場合では、「自宅」7.6%より「自宅外」12.3%が、「後期課程」8.4%より「前期課程」11.5%が高い割合を示している（集計表Ⅲ-1表）。

朝食については、「ほぼ毎日」が73.4%、「ときどき」が17.1%、「ほとんど食べない」が9.2%で、朝食を摂っている割合は、女子より男子の方が低く、とくに男子の「自宅外」は「ほぼ毎日」食べるのが58.9%、「ときどき」食べるのが27.3%で、13.8%が「ほとんど食べない」と答えている（集計表Ⅲ-2表）。

飲酒の頻度については、「ほぼ毎日」が2.6%、「週3・4回」が4.5%、「週1・2回」が35.8%、「ほとんど飲まない」が56.8%となっている（集計表Ⅲ-3表）。

喫煙については、「1日20本以上」が0.9%、「1日20本未満」が4.1%、「ときどき吸う程度」が4.8%、「全く吸わない」が89.9%（89年78.9%、93年83.8%、98年87.3%、02年88.0%）で「全く吸わない」学生が調査の度に増えている（集計表Ⅲ-4表）。

睡眠時間については、「6時間以上7時間未満」36.2%、「7時間以上」29.7%、「5時間以上6時間未満」25.3%の順となっており、6時間以上の睡眠を取っている学生は65.9%になる。これを、男女の自宅・自宅外で比べると、男子では「自宅」が65.7%、「自宅外」が68.9%で、女子では「自宅」が62.9%、「自宅外」が61.6%で、男子では「自宅外」の学生の睡眠時間が多く、女子では「自宅」の学生の睡眠時間が多くなっている（集計表Ⅲ-5表）。

健康維持増進のために心がけていることは（2つまで選択可）、「栄養のバランスを考え、食事の内容に注意している」が39.1%で最も多く、「スポーツをしている」33.4%、「なるべく歩くなど体を動かすようにしている」32.2%、「規則正しい生活をするように心がけている」20.7%が上位で続いている。これを自宅・自宅外で比べてみると、男子の「自宅」は「スポーツをしている」が、女子の「自宅」と男女の「自宅外」は、「栄養のバランスを考え、食事の内容に注意している」が高い割合を示している（集計表Ⅲ-6表）。

日常生活における心身の状態では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答したものを合わせてみると、「ここから楽しいと感じるときがある」については、83.6%、「毎日が充実している」についても77.1%、「大学入学前後を比べ、自分の成長を感じる」についても74.3%で上位となっている。また、「いつも頭がボンヤリしている」は逆に、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」を合わせると74.6%になっている（集計表Ⅲ-7表）。

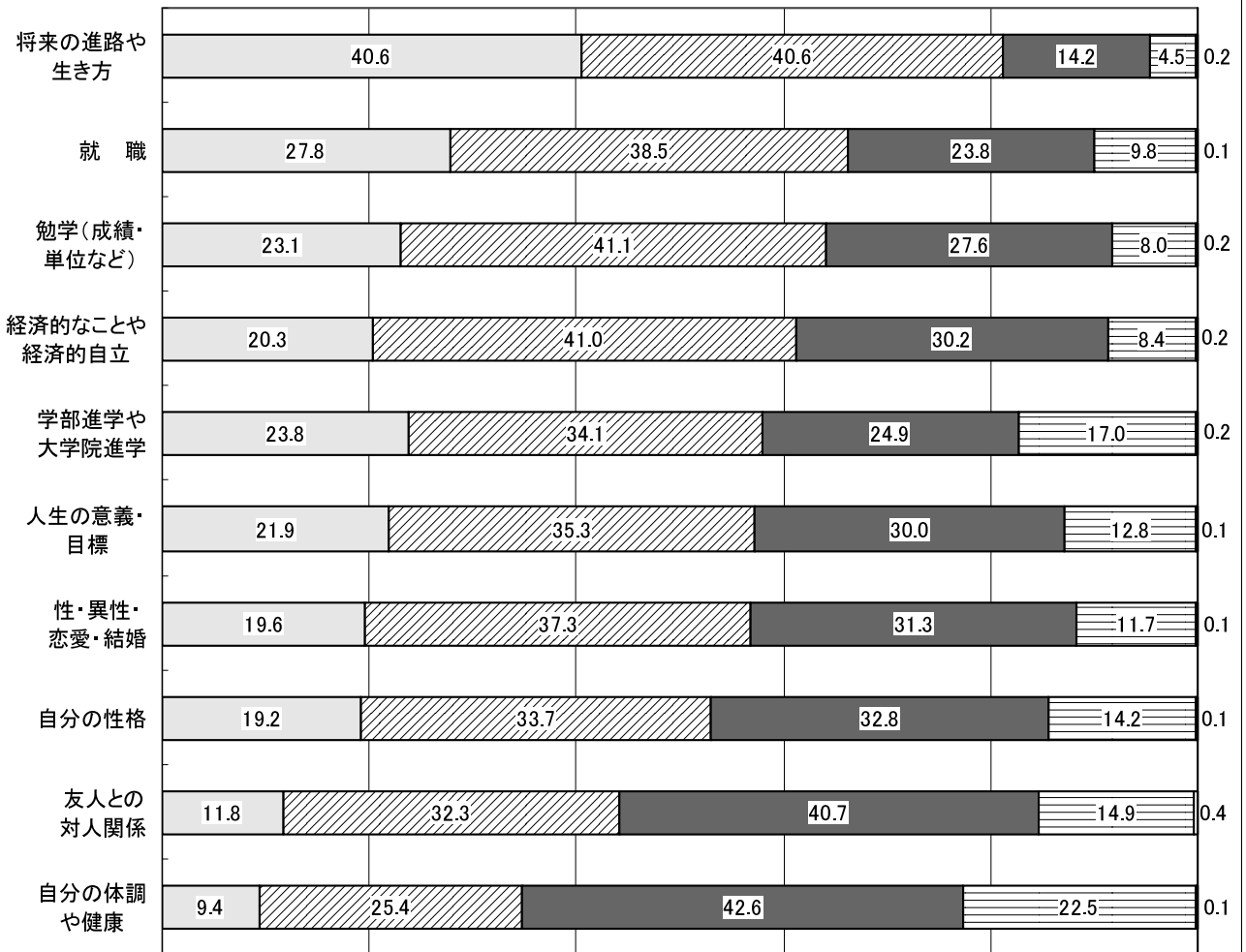
学生生活の中で、悩みや不安を感じたりしているものとして、「よく悩む」と答えたものをみても、「将来の進路や生き方」が40.6%で最も多く、「就職」27.8%、「学部進学や大学院進学」23.8%、「勉学（成績・単位など）」23.1%と続き、「ときに悩む」を加えると実に81.2%の学生が「将来の進路や生き方」に悩んでいることになる。また、「よく悩む」と「ときに悩む」を合わせた学生の男女比では、全ての項目で女子が男子を上回っており、とくに、「自分の性格」については、その差が11.5ポイントある。さらに、「よく悩む」と「ときに悩む」を合わせた全体の上位を前回（2002年）調査と比較して見ると、「将来の進路や生き方」が78.8%から2.4ポイント、「就職」が60.5%から5.8ポイント、「勉学（成績・単位など）」が61.3%から2.9ポイント、「学部進学や大学院進学」が54.6%から3.3ポイントそれぞれ上がっている（図7、集計表Ⅲ-8表）。

不安や悩みの対処法では、「よくあてはまる」「少しあてはまる」を合わせると、「趣味・スポーツなどで気を紛らわす」72.5%、「友人と雑談などで気を紛らわす」66.2%「他人に相談する」53.3%が上位で続き、とくに、「趣味・スポーツなどで気を紛らわす」は男子72.8%が、女子71.8%と高い割合を示している（集計表Ⅲ-9表）。

不安や悩みの相談相手（2つまで選択）は、「学内の友人・知人」54.9%、「学外の友人・知人」33.9%、「母親」31.7%、「恋人」21.8%と続き、下位は「大学の教員・職員」1.2%、「学生相談所、保健センター」0.9%、「学外のカウンセラー、精神科医」0.8%となっている（集計表Ⅲ-10表）。

図7 悩み・不安の程度

単位：%



□ よく悩む ▨ ときに悩む ■ あまり悩まない □ 全く悩まない □ 無回答

1-4. 学内施設の利用

学部等の図書館・図書室の利用者71.3%、情報教育棟（駒場）49.8%、総合図書館（本郷）の利用者53.0%、各学部の端末室・情報処理室（本郷）25.4%
学内食堂・喫茶室の利用者は88.0%、毎日利用する学生は28.4%

月1回以上使用している学内施設を回答の多い順にあげると、「学内食堂・喫茶室」が88.0%で最も多く、次いで「学部等の図書館・図書室」が71.3%、「総合図書館（本郷）」が53.0%、「情報教育棟（駒場）」が49.8%、「学部の談話室・ラウンジ・学生控室」が31.7%「サークル部室」が31.1%となっている。

本学では、前期課程学生は駒場地区、後期課程学生は本郷地区に所属することが多く、そのため、学内施設の所在地により、利用する学生集団に偏りがみられる。例えば、本郷地区にある「総合図書館（本郷）」の場合、前期課程学生の利用が26.0%であるのに対して、後期課程学生の利用は81.3%にのぼる。同様に、駒場地区にある「情報教育棟（駒場）」の場合、前期課程学生の利用が84.2%にのぼるが、後期課程学生の利用は僅かに14.1%となっている（図8、集計表IV-1表）。

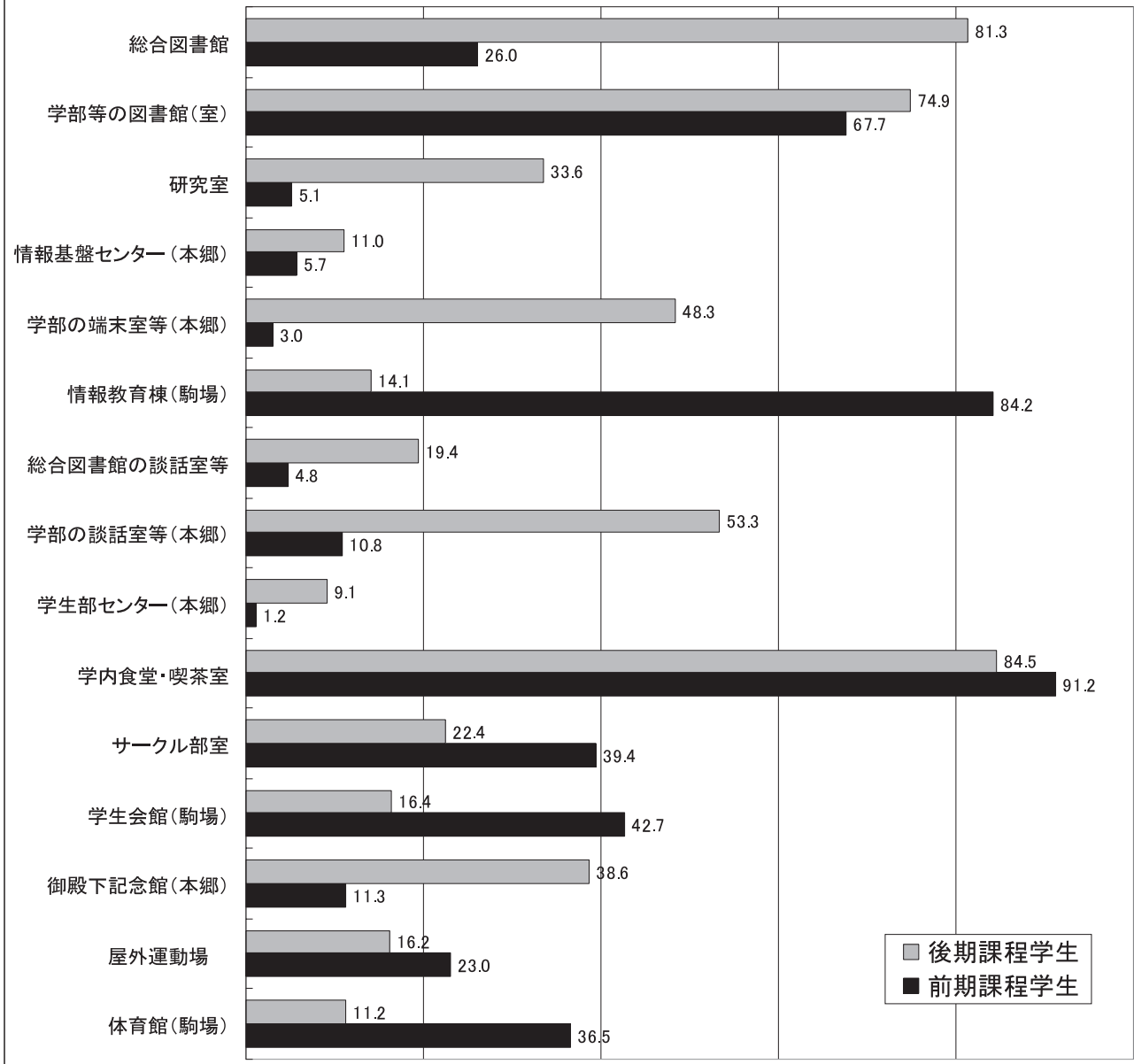
また、今回新たに満足度の設問を設けた。集計表IV-2表をもとに利用者（学内各施設ごとに、「利用していないのでわからない」「無回答」を除いた数値）の「満足している」と「まあ満足している」とした回答を合計して総じて満足している割合をみると、1位は「御殿下記念館」で74.9%、続いて「総合図書館（本郷）」が72.4%、「情報教育棟」が70.2%、「学部等の図書館・図書室」が69.4%、「研究室」並びに「食堂」が59.0%で上位になっている。逆に満足度の低い施設に関しては、総じて満足している割合の低いものをみると、「学生会館（駒場）」が最低で20.2%、続いて「学生部センター（本郷）」が32.6%、「情報基盤センター（本郷）」が33.5%、「体育館（駒場）」が38.2%、となっている。なお、「学生会館（駒場）」については、「やや不満である」と「不満である」とした回答の割合を合計すると52.6%と、唯一50%を超えており、学生の不満が高いことが伺える。



経済学研究科コミュニティラウンジ

図8 学内施設の利用度

単位：％



1-5. 学内情報のメディア

「掲示板」・「図書館の目録検索」「電子メール」が上位

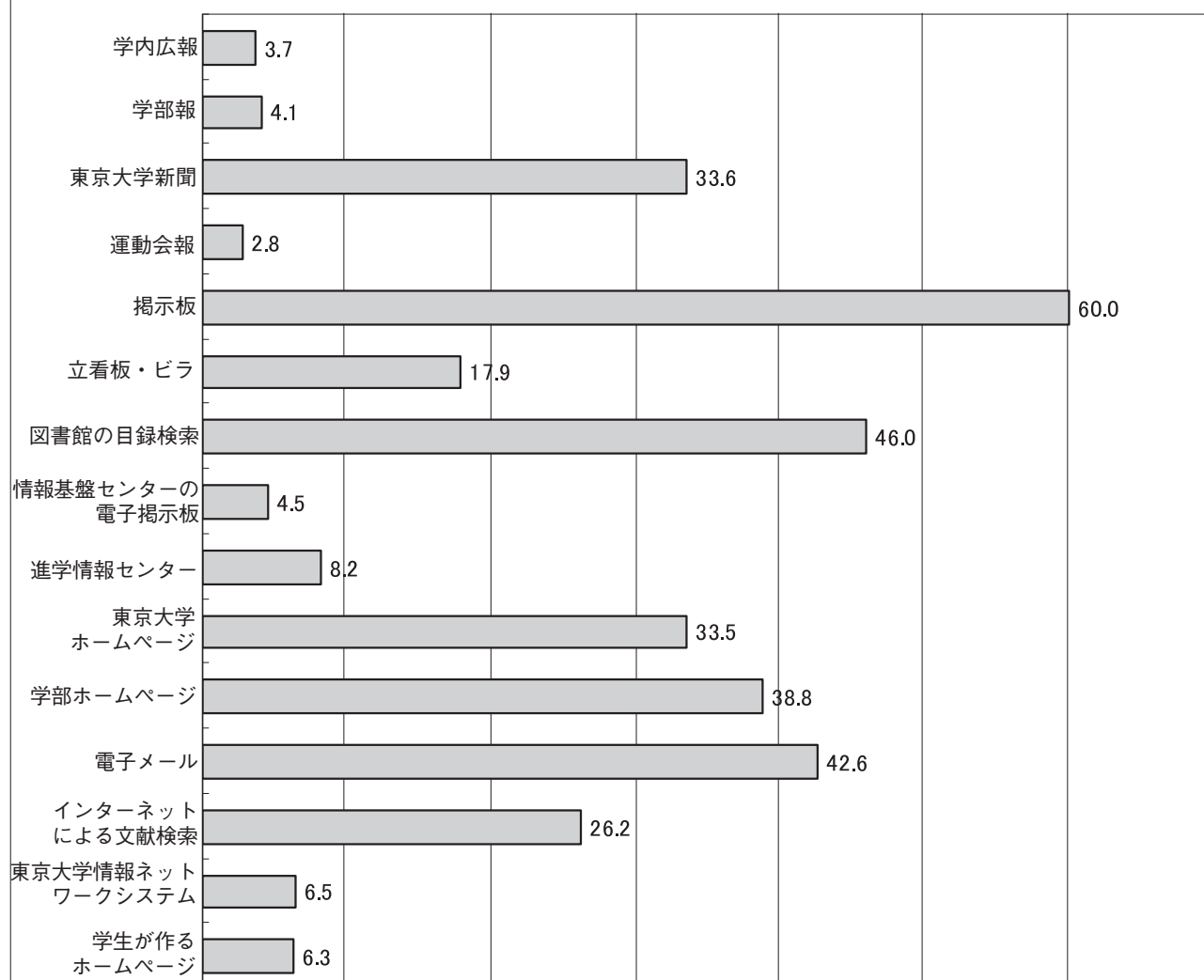
学生生活において、どのようなメディアを利用しているかを多項目選択で答えさせた前回1995年（第45回）調査以来11年振りで、今回は15選択肢のうち3つに変更を加え、5つまで選択可として得たデータ（集計表V-1表）がその集計結果である。

メディアの利用状況の上位を見ると、「掲示板」60.0%が最も多く、次いで「図書館の目録検索」46.0%、「電子メール」42.6%、「学部ホームページ」38.8%、「東京大学新聞」33.6%、「東京大学ホームページ」33.5%となっている（図9、集計表V-1表）。1位の「掲示板」を別にして上位は拮抗しており、多角的に情報収集している様子がうかがえる。

男女とも3位までは同順であるが、一般的に男子よりも女子の方が、前期課程よりも後期課程の方が、メディアの利用に対して積極的である。ただし、後期課程では学部間のばらつきがかなり大きい。「図書館の目録検索」については、前期課程36.3%に対して後期課程56.1%、文科系58.9%に対して理科系35.7%と、前期・後期別や文科系・理科系別の差が大きくなっている。

図9 学生生活におけるメディアの利用度

単位：%



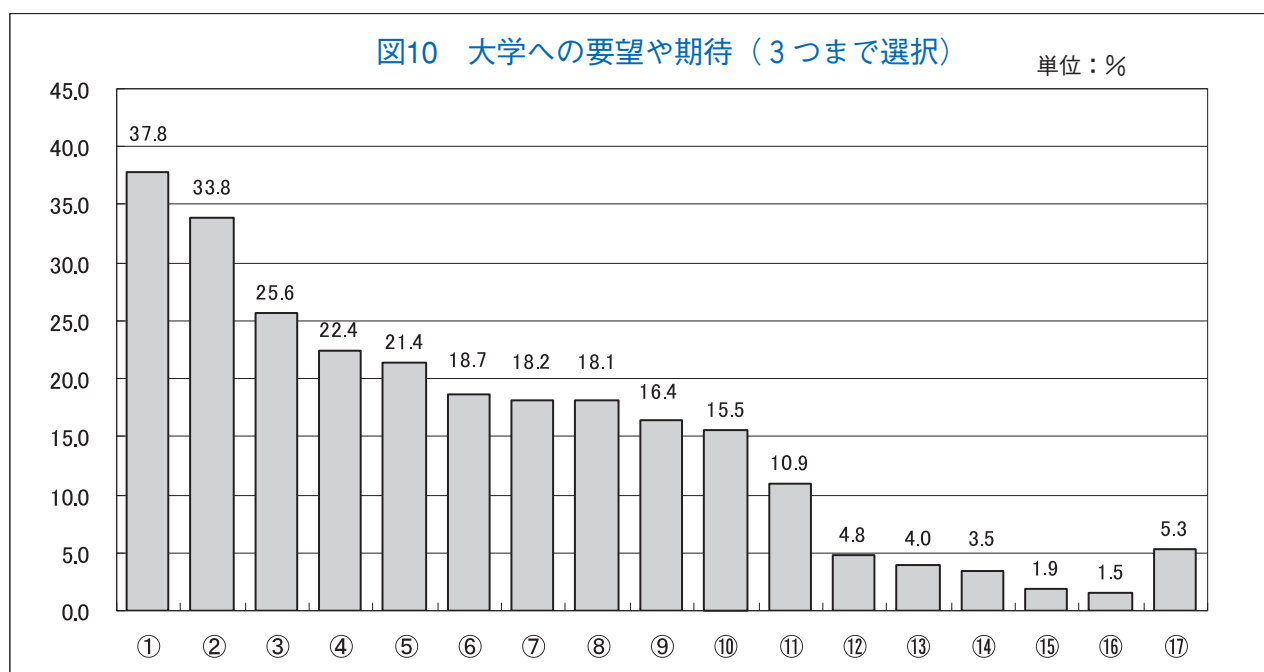
1-6. 大学への要望

「授業の方法の工夫・改善」が第1位、「カリキュラムの改革」が第2位、「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」「就職対策の充実」「教室の充実」「小人数教育の実施」が続く
大学の社会的貢献では「基礎研究を充実させる」、国際化では「研究者の交流をより積極的に進める」が第1位

大学への要望や期待することは、第1位に限って比較すると、「授業の方法の工夫・改善」が37.8%で前回（2005年）調査同様最も多く、次いで「カリキュラムの改革」33.8%、「奨学金・育英貸付金などの拡充や増額」25.6%、「就職対策の充実」22.4%、「教室の充実」21.4%が上位で20%以上を示している（図10）。

前期課程の学生のほうが後期課程よりも押しなべて授業やカリキュラムに対する要望が多い。すなわち、文科一類、文科二類、理科二類、理科三類で「授業の方法の工夫・改善」が、文科三類、理科一類、理科三類（授業の方法の工夫・改善と同率）で「カリキュラムの改革」が第1位となっている。一方、後期課程では、法学部が「小人数教育の実施」、教養学部（文系・理系）・工学部・農学部が「授業の方法の工夫・改善」、医学部が「カリキュラムの改革」が第1位と、カリキュラムや授業に関する要望が多いのに対し、経済学部・文学部・教育学部では「就職対策の充実」、理学部・薬学部は「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」が第1位となっていて、それぞれの学部によって違いを見せている（集計表Ⅵ-1表）。

大学の社会的貢献を促進または国際化を推進するための関連する事項としては、「非常に重要」「かなり重要」「重要」を合わせてみると、社会的貢献を促進するための事項は、「基礎研究を充実させる」84.1%、「産学協同をより推進する」78.1%が上位となっている。また、研究の国際化を推進するための事項では、「非常に重要」「かなり重要」「重要」を合わせると、全4項目が8割を超えた。特に、「研究者の交流をより積極的に進める」93.7%、「国際共同研究をより推奨する」が91.2%と9割を超える結果となっている（集計表Ⅵ-2表）。



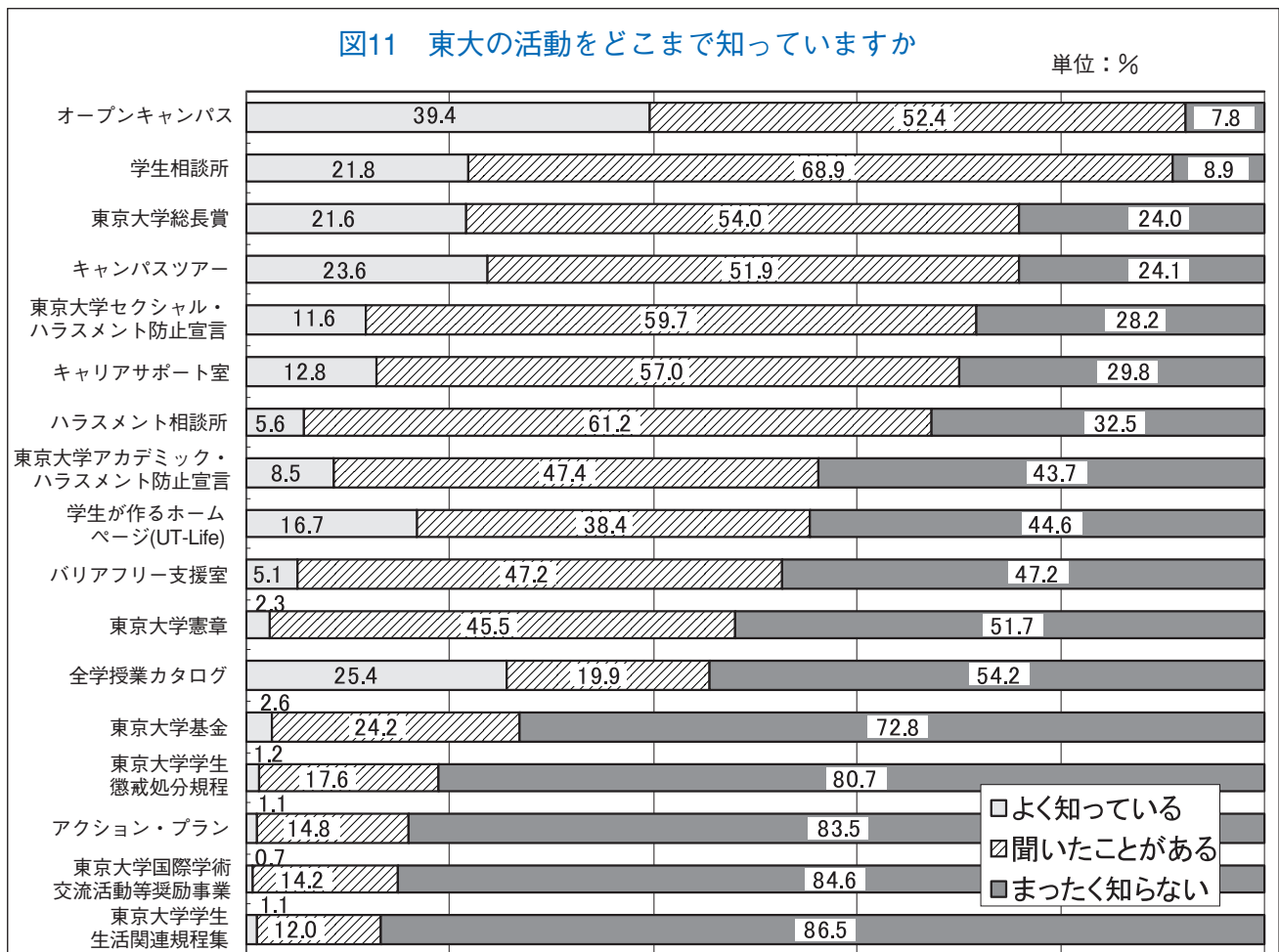
- | | | | |
|-----------------|----------------|-------------|-------------------|
| ①授業の方法の工夫・改善 | ②カリキュラムの改革 | ③奨学金等の拡充や増額 | ④就職対策の充実 |
| ⑤教室の充実 | ⑥少人数教育の実施 | ⑦図書館の充実 | ⑧進学振分け制度の改善 |
| ⑨単位認定や学年試験を緩やかに | ⑩教育スタッフの充実 | ⑪実験室や実習室の充実 | ⑫カウンセリング・相談体制の充実 |
| ⑬キャンパスの拡大・移転・統合 | ⑭単位認定や学年試験を厳しく | ⑮学生自治の尊重 | ⑯学生自治に対する適切な助成と助言 |
| ⑰その他 | ⑰無回答 | | |

1-7. 東大の活動をどこまで知っていますか

学生相談所やセクシュアル・ハラスメント防止宣言は知られている
 東京大学憲章を知らないものは51.7%、アクション・プランは83.5%

学生にもっとも知られているのはオープンキャンパスである。その次は学生相談所で、「よく知っている」が21.8%にも上り、「全く知らない」は8.9%でしかない。また比較的知られている例としてはセクシュアル・ハラスメント防止宣言がある。全体で見れば、11.6%が「よく知っている」、59.7%が「聞いたことがある」と答えており、「全く知らない」は28.2%である。大学が全体としてこの問題に真剣に取り組んできたことがこの数字に表れているように思われる。しかし、男子や前期課程ではまだまだ周知のものとはいえない。「全く知らない」と答えたものは、女子17.9%に対して男子は31.3%、後期課程の13.3%に対して前期課程では42.6%である。一方アカデミック・ハラスメント防止宣言は、「全く知らない」が全体の43.7%に上っている。学部学生が調査の対象であるためなのだろうか。ちなみに、この点では文科系と理科系の違いはない。また、現在のところハラスメント相談所は学生相談所ほどに知られていない。

東京大学憲章やアクション・プランは東京大学がどのような目標に向かって努力しているかを示すものであるが、憲章については51.7%が、アクション・プランは83.5%が「全く知らない」と答えている（図11、集計表Ⅶ-1表）。



1-8 特殊分析（睡眠と心身の健康）

1. 睡眠時間と主観的健康

睡眠と心身の健康との間には強い相関があることは、多くの研究者が指摘している。昨年度の特分析（増える学習時間、減る睡眠時間）において、1998年度の調査や2001年度の調査と比較して2005年度の調査では、学生の睡眠時間が大幅に短縮している（2001年度に比べて11分、前々回にくらべれば26分短縮）という、心身の健康の観点から気掛かりな分析結果が報告されている。

そこで保健センター精神科スタッフの協力を得て、今回の調査結果から、学生の睡眠時間と主観的に感じる健康状態との対応関係を調べた結果が図12である。主観的に感じる健康状態については、「非常に良好」（32.8%）と「良好」（57.1%）を合わせて89.9%の人が「心身ともに健康である」と答えている。約9割の学生が「健康である」と感じているとの結果は、前回までの結果とほぼ一致しており、また他大学での調査結果ともほぼ一致している。一方、大学を含め周囲の人々からのなんらかの助けや相談が必要だと思われるのは、心身の健康が「悪い」（2.1%）または「やや悪い」（7.4%）と答えた約9.5%の学生である。この学生たちに着目して図12を見ると、睡眠時間が6時間台から、5時間台、5時間未満と減少してゆくに連れ、主観的健康状態が「やや悪い」か「悪い」と感じる学生の割合が増加している。このことは学生の中にも睡眠不足で健康状態を悪くしている人が少なくないことを意味している。なお「7時間以上」でも調子の悪い人は増加しているが、これは何らかの病気で調子が悪く、1日に9時間、10時間と寝なくてはいけない人もここに含まれているからではないかと推測される。次回の調査では、「7時間以上」を上限にするのを改める必要があると思われる。

2. 睡眠を促進する脳・身体活動と、睡眠を妨げる脳・身体活動

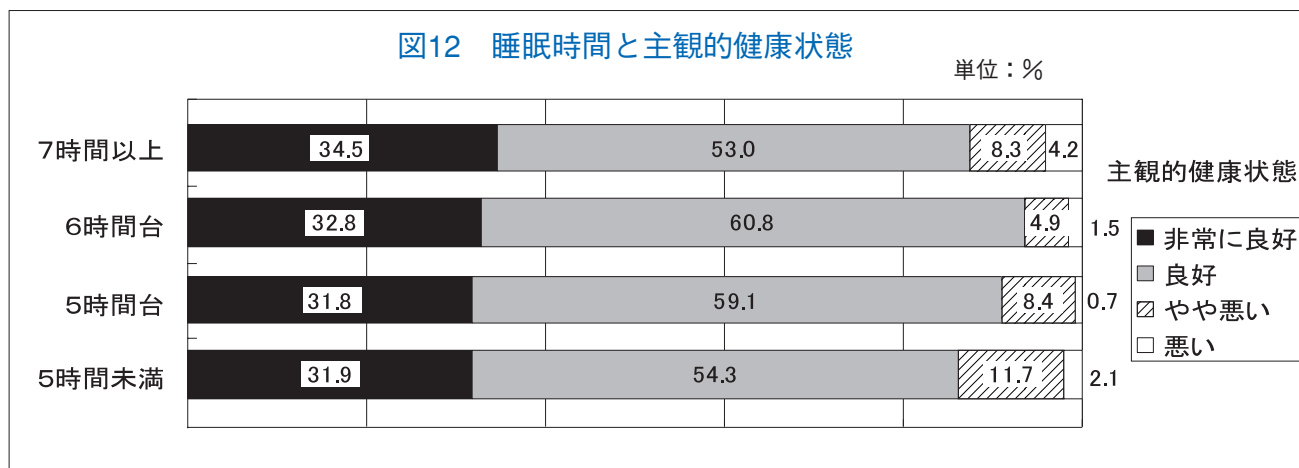
睡眠時間が5時間未満の学生でも、8割以上の人々が「健康である」と答えていることから、睡眠時間よりも睡眠の質の方が、主観的健康状態とより強い相関があると予想される。ただ、アンケート方式で自分の睡眠の質を答えてもらうのはなかなか困難である。

近年の睡眠研究から、脳の多くの神経細胞は、睡眠時には休養のために活動を低下させているのではなく、睡眠時に特有の活動パターンに切り替わって活動していることが知られている。そして、ネズミを用いた研究によると、（1）睡眠時の脳活動が、目覚めたあとの脳活動に大きな影響を与える、だけでなく（2）覚醒時の脳活動が、その後の睡眠の形成や睡眠時の神経細胞の活動に影響を及ぼすことが報告されている。

それでは、その後に良質の睡眠を促進するような覚醒時の脳・身体活動とはどのようなものだろうか。その後の睡眠を妨げる脳・身体活動とはどのようなものだろうか。これらの知識にもとづいて、睡眠不足で調子を悪くすることを避けられないだろうか。今回の調査では心身の健康に関する一般的な項目を調査しており、睡眠に特化した詳細な質問ではないので、あまりヒントが得られないように思える。それでも、たとえば「健康維持増進のために心がけていることは」という質問を「よく眠るために心がけていることは」という質問に読み替えて調査結果を見てみると、健康維持増進のための脳・身体活動と睡眠を促進する脳・身体活動との間にかかなりの共通項目があることがわかる。健康維持増進のために心がけていることに関しては、「栄養のバランスをとり、食事の内容に注意すること」（39.1%）、「スポーツをする」（33.4%）、「なるべく歩くなど体を動かす」（32.2%）、「規則正しい生活をする」（20.7%）が上位を占めているが、これらは睡眠を促進する脳・身体活動でもある。また、学生生活や日常生活での悩みや不安という脳活動は、睡眠を妨げる大きな要因でもある。

自分の健康状態は自分の脳が一番よくモニターしていることを考えると、主観的健康状態と睡眠との関連を今後詳細に解析し、その結果と適切なアドバイスを学生にフィードバックすることは非常に重要だと思われる。もちろん、主観的健康状態と睡眠との関連の知識は、学生だけでなく全世界の人々に共通して有用であろう。

図12 睡眠時間と主観的健康状態



第2部 学生生活の背景

2-1. 家庭の状況

家庭の所在地は56.4%が関東
 主たる家計支持者は「父」が87.8%、職業は「管理的職業」が37.7%
 年収額は950万円以上が47.8%

家庭の所在地は、「東京都」25.0%、東京都以外の「関東」が31.4%、合計すると56.4%で、前回（2005年）調査と比較して1.4ポイントの減少となっている。男女別では、「東京都」と「関東」で男子の56.4%に対し、女子は56.1%ではほぼ同じになっている（図13-1・2、集計表Ⅸ-1表）。

主たる家計支持者は「父」が87.8%を占め、「母」は6.8%となっている（集計表Ⅸ-3表）。

その職業は、「管理的職業」37.7%、「専門的、技術的職業」23.0%、「教育的職業」13.5%と続いており、前回に比べて「管理的職業」が大幅に増えている（集計表Ⅸ-4・5表）。

家計支持者の年収の分布状況は、「750万円未満」が35.3%、「750万円以上1,050万円未満」が36.2%、「1,050万円以上」が28.5%となっている。前回調査との比較では、「750万円未満」は34.1%から1.2ポイント増加し、「750万円以上1,050万円未満」は37.0%から0.8ポイント、「1,050万円以上」が28.9%から0.4ポイント減少している（図14、集計表Ⅸ-6表）。

家計支持者の年収額のうち「950万円以上」は、前回調査で50.7%で50%を上回ったが、今回は47.8%と50%を切った。男女別に見ると、男子における「950万円以上」の比率が45.7%であるのに対して、女子における比率は54.7%であり、男女差が顕著である（図15-1・2）。

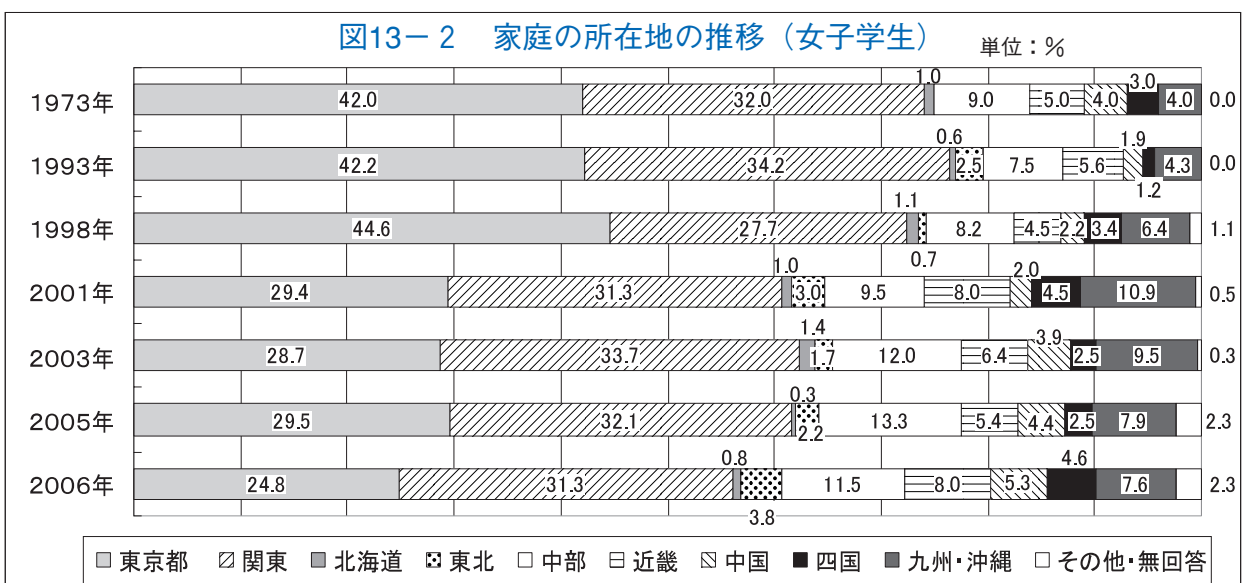
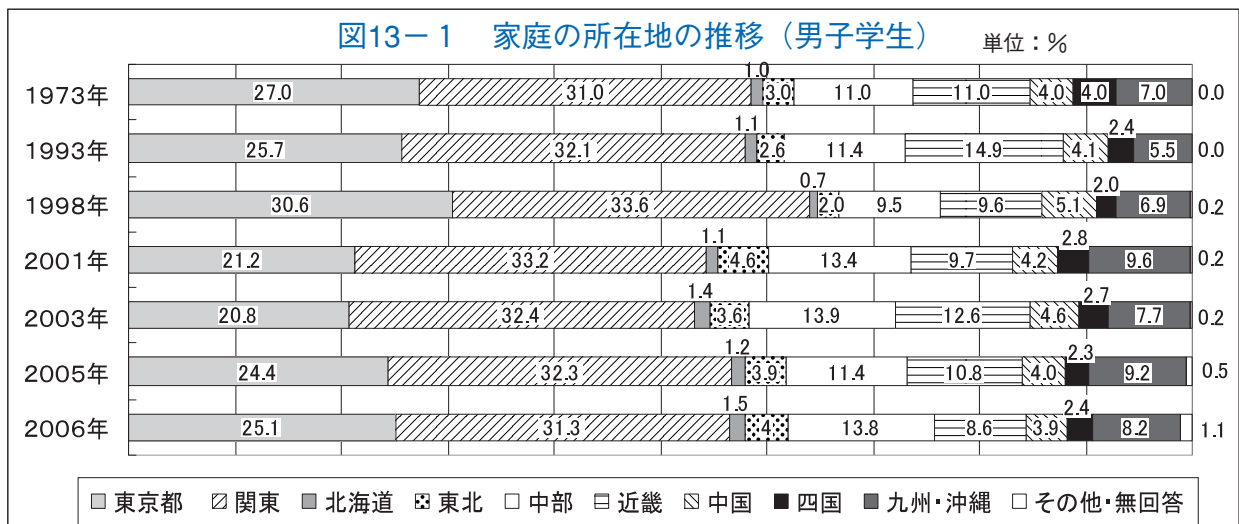
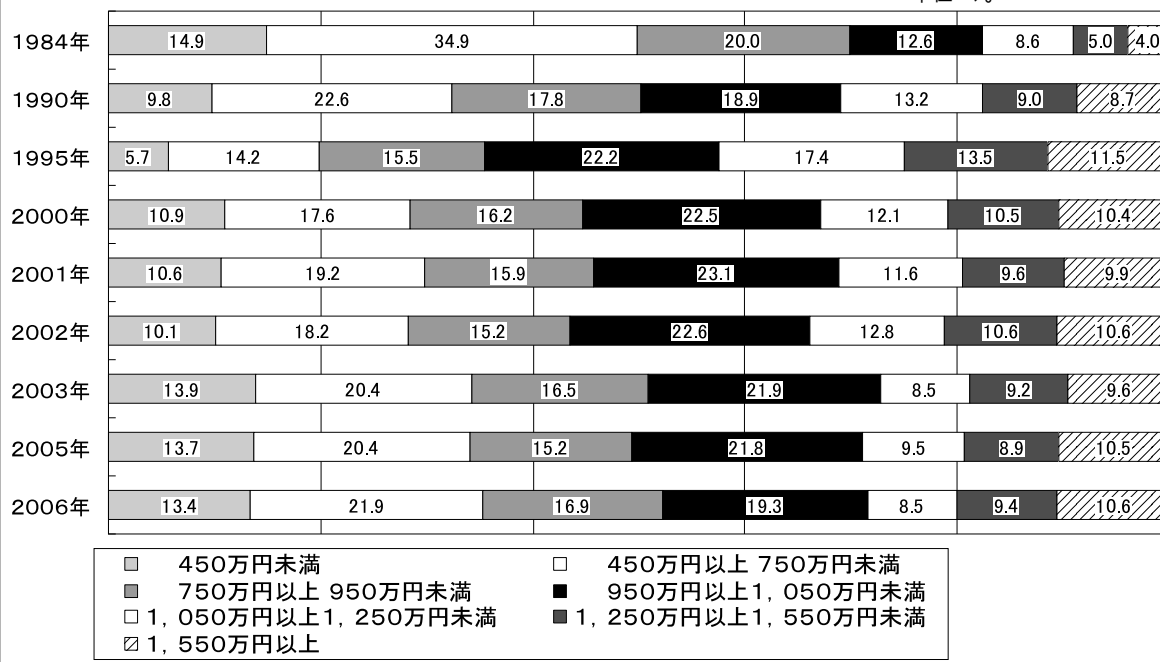


図14 主たる家計支持者の年収額分布

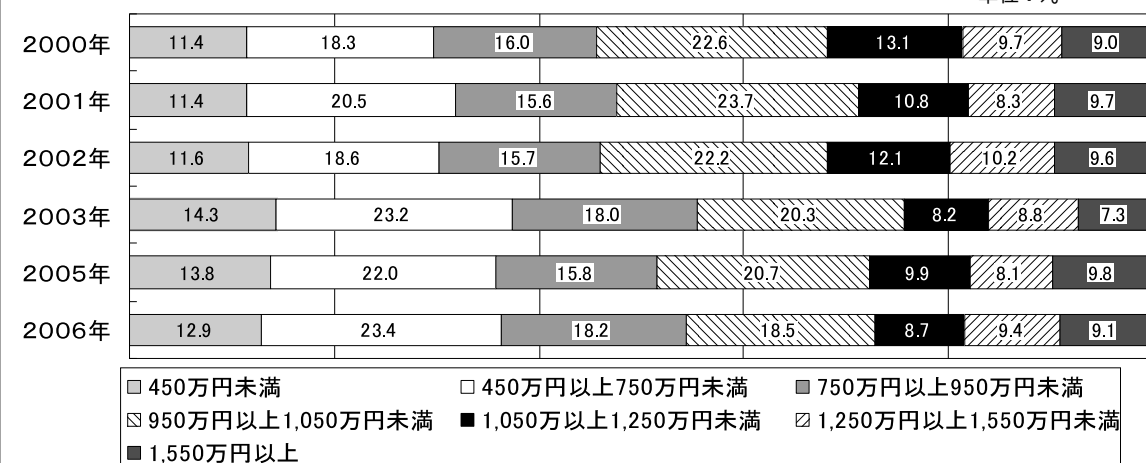
単位：%



- 450万円未満
- 450万円以上750万円未満
- 750万円以上950万円未満
- 950万円以上1,050万円未満
- 1,050万円以上1,250万円未満
- 1,250万円以上1,550万円未満
- ▨ 1,550万円以上

図15-1 主たる家計支持者の年収額分布（男子学生）

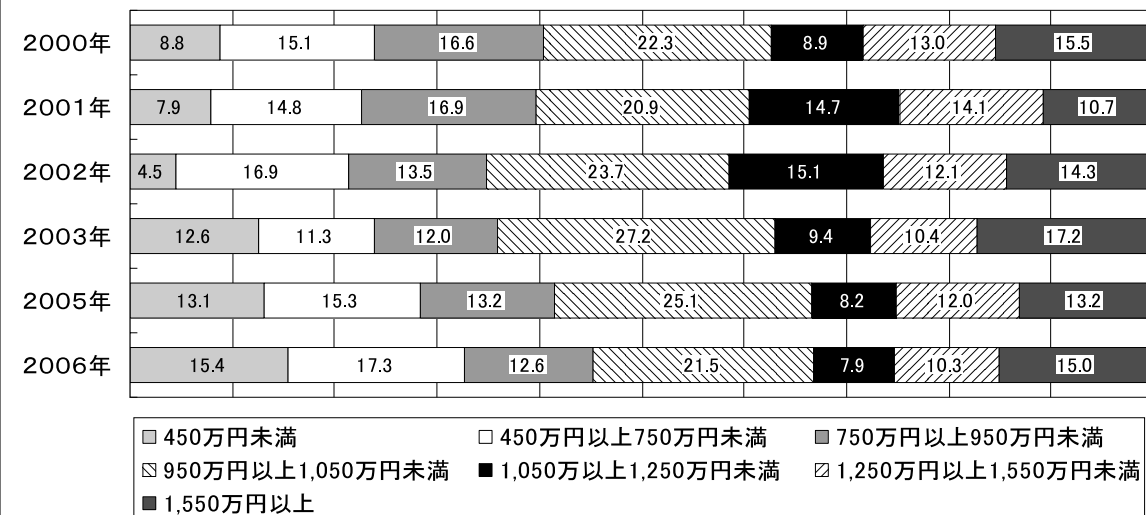
単位：%



- 450万円未満
- 450万円以上750万円未満
- 750万円以上950万円未満
- ▨ 950万円以上1,050万円未満
- 1,050万円以上1,250万円未満
- ▨ 1,250万円以上1,550万円未満
- 1,550万円以上

図15-2 主たる家計支持者の年収額分布（女子学生）

単位：%



- 450万円未満
- 450万円以上750万円未満
- 750万円以上950万円未満
- ▨ 950万円以上1,050万円未満
- 1,050万円以上1,250万円未満
- ▨ 1,250万円以上1,550万円未満
- 1,550万円以上

2-2. 生活費の状況

生活費は自宅生68,300円、自宅外生148,600円
 自宅外生の「住居費」は支出総額の46.1%
 収入で大きな割合を占めるのは、自宅生が「奨学金」、自宅外生が「家庭からの仕送り」

1か月当たりの生活費（100円未満四捨五入）をみると、「支出総額」は、自宅生68,300円、自宅外生148,600円で、前回（2005年）調査と比較すると自宅生が5,200円、自宅外生が900円減っている。

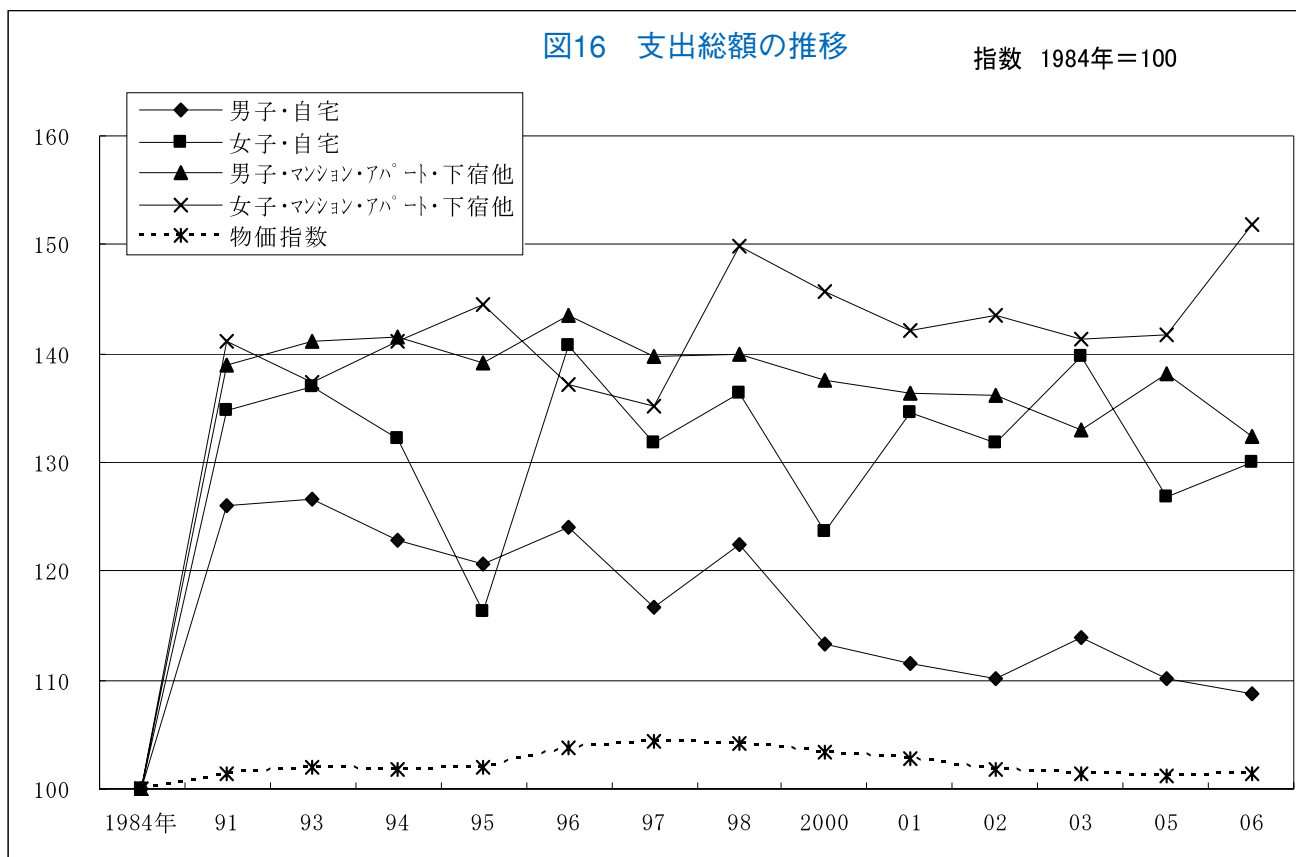
自宅外生の「住居費」は、68,500円で、前回調査と比べ1,000円増えている。支出総額に占める割合は0.9ポイント増えて46.1%になっている。「通学費」は、自宅生9,700円、自宅外生5,500円で、支出総額に占める割合は自宅生が14.2%、自宅外生は3.7%である（図16、集計表X-1・2表）。

一方、「収入総額」は、自宅生65,000円、自宅外生152,600円で、前回調査と比較すると、自宅生で1,200円減って、自宅外生で3,100円増えている。自宅外生の生活費は自宅生に比べ、支出総額では前回調査より増えて2.2倍、収入総額は前回調査と同じ2.3倍となっている。

収入のうち、「家庭からの仕送り・小遣い」は、自宅生32,600円、自宅外生112,000円で、前回調査と比較すると、自宅生が1,400円、自宅外生が800円減っている。「アルバイト・雑収入」についても、自宅生43,900円、自宅外生44,200円で、前回調査と比較すると自宅生が1,700円、自宅外生が2,800円減っている（集計表X-3）。

収入形態の推移をみると、「仕送り+アルバイト・雑収入」が最も大きな割合を占めている（集計表X-4）。

授業料の捻出は、85.2%が「家庭からの仕送り・小遣い」で占めている。自宅外学生の全体を平均してしてみると「奨学金」が6.2%、「授業料免除」が3.9%であるが、「東大学寮・三鷹国際学生宿舎」の男子では「奨学金」が20.0%、「授業料免除」が16.7%、また、女子でも「奨学金」が17.6%、「授業料免除」が23.5%と他の自宅外学生よりも高い割合を示している（集計表X-5表）。



2-3. 通学・住居

現在の居住地は74.2%が「都内」、59.0%が「23区内」
 自宅外生では、「賃貸マンション・アパート（バスつき）」が72.4%
 自宅外生では、「負担が増えても学寮の建築促進希望する」48.4%
 「通学所用時間」は平均46.9分、自宅生は自宅外生の倍以上の66.1分

都内在住者は74.2%で、「23区内」59.0%、「23区外」15.2%となっている。

自宅生の現住所分布は、東京都50.7%（23区内35.6%、23区外15.1%）、神奈川県24.1%、埼玉県11.5%、千葉県11.4%の順で、前回（2005年）調査との比較でおのおのについてみると、23区外で3.5ポイント増加したほかは、神奈川県で2.8ポイント、千葉県で0.5ポイント、23区内で0.4ポイント減少し、埼玉県では増減なしであった（集計表XI-1表）。

自宅外生の住居区分は「賃貸マンション・アパート（バスつき）」が72.4%で最も多く、他は「その他の寮」9.3%、「東大寮」8.1%が続いている（図17-1・2、集計表XI-2表）。

今回、新たな設問として「多少入居者の負担が増えても学寮・学生宿舎等の建設を促進すべきだと思いますか。」を設けた。自宅外の学生では、「そう思う」が48.4%、「どちらとも言えない」が27.1%、「そうは思わない」が15.3%、「自分には関係がない」が8.4%と続いた。また、「そう思う」自宅外学生は女子学生より男子学生の方が、前期課程より後期課程の学生の方が高い割合を示している（集計表XI-3表）。

通学に利用する交通機関では、後期課程の学生で「自転車」の利用が比較的多く、とくに後期課程の男子では「電車」61.4%に次いで32.6%となっている（集計表XI-4表）。

通学所要時間は、片道平均46.9分で前回調査とほぼ同時間となっている。自宅生は自宅外生29.6分の倍以上の66.1分を要している（集計表XI-5表）。

図17-1 自宅外学生の住居区分の推移（男子学生）

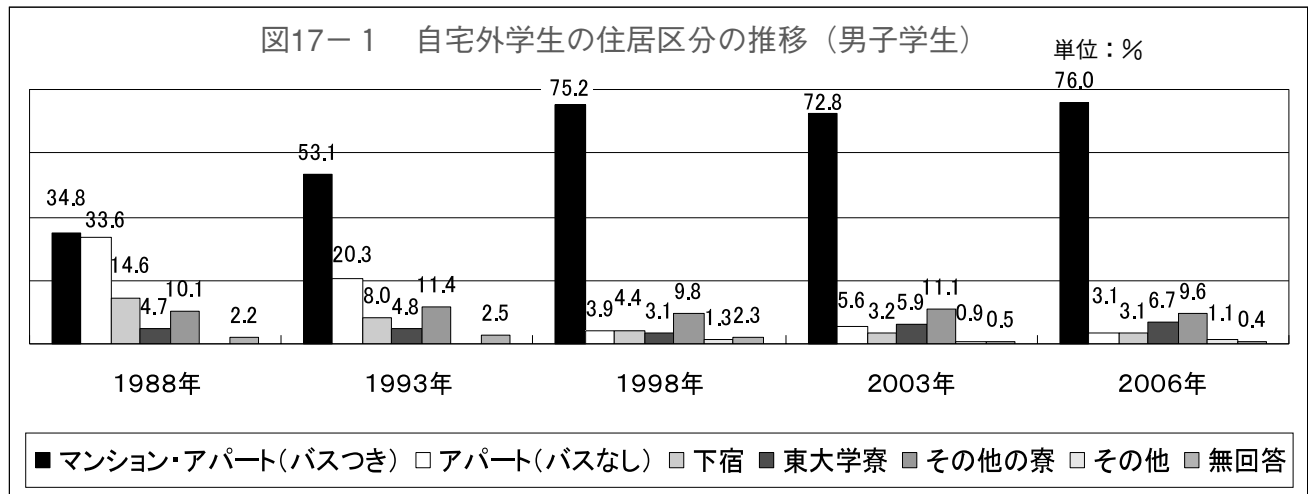
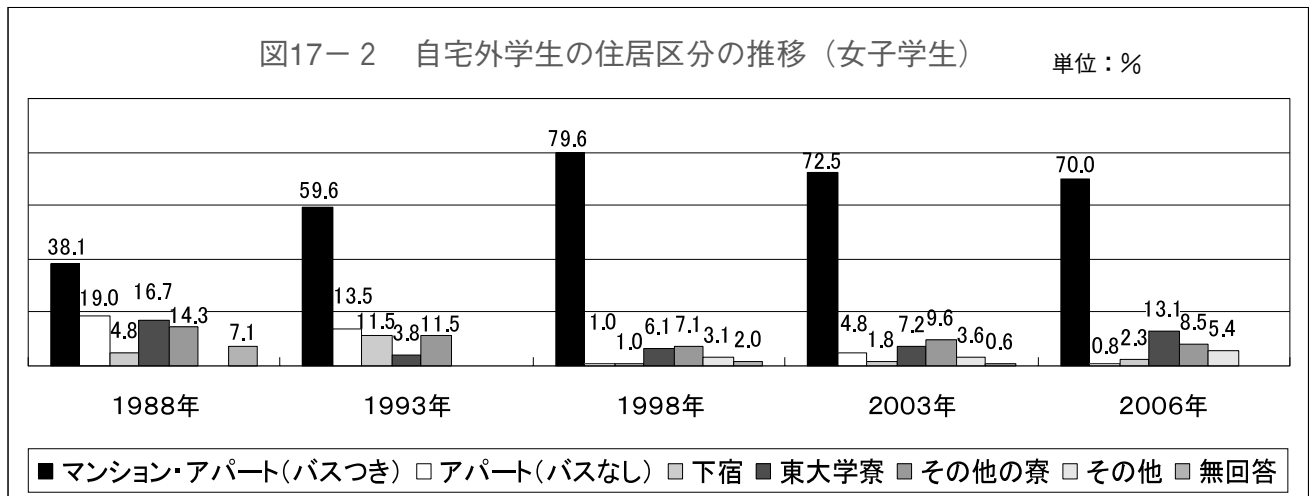


図17-2 自宅外学生の住居区分の推移（女子学生）



2-4. 奨学金

奨学金を希望している学生が38.4%
 奨学生のうち87.1%が日本学生支援機構から貸与を受けている
 用途は「生活費」、「奨学費」、「教養・娯楽費」、「授業料」が中心

奨学金を希望している学生は、「受けている」22.6%「受けたいが受けられなかった」15.8%合わせて38.4%となり、前回（2005年）調査との比較では1.3ポイントの増加がみられる（図18、集計表Ⅻ-1表）。

「受けたいが受けられなかった」または「受けたくない」と回答した理由としては、「貸与なので申請しなかった」26.8%が最も多く、次いで「資格がない」23.8%、「出願はしたが採用されなかった」14.7%、「掲示等に気が付かなかった」12.6%「事務手続きが煩雑だから」6.9%の順となっている（集計表Ⅻ-2表）。

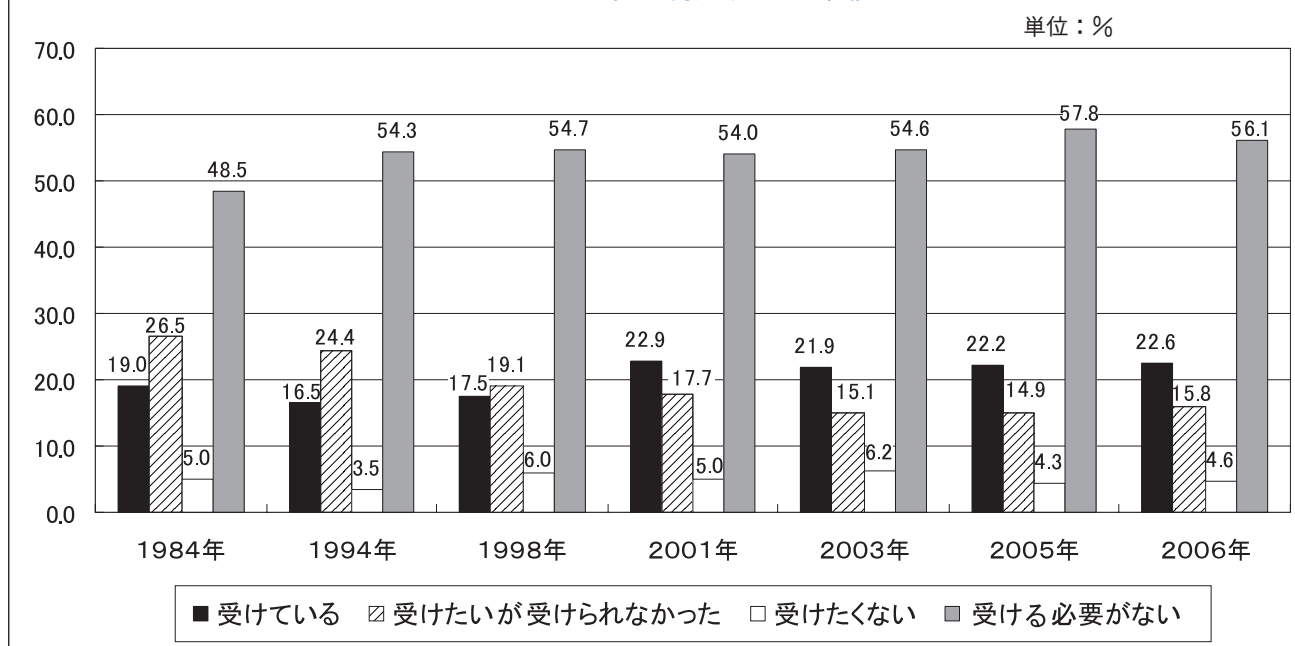
また、「受けたいが受けられなかった」または「受けたくない」と回答した学生の59.7%がこれから受けたいと答えている（集計表Ⅻ-3表）。

利用している奨学金の内訳は、「日本学生支援機構のみ」が74.2%で、これに「他の奨学金との併用」12.9%を含めると日本学生支援機構から貸与を受けている奨学生は87.1%を占め、前回調査と比べると3.2ポイント増加している（集計表Ⅻ-4表）。

奨学金はどんな面で役立っているかについては（2つまで選択可）、例年どおり「家庭の経済的負担が軽減される」が77.0%で最も多く、次いで「奨学金があるので生活が成り立っている」34.4%、「多少ともゆとりのある生活ができる」28.5%が上位になっている（集計表Ⅻ-5表）。

奨学金の主たる支出目的（用途）（3つまで選択可）は、前回調査と同順で「生活費（衣・食・住居費）」75.4%、「奨学費」48.0%、「教養・娯楽費」38.7%、「授業料」35.9%、「貯金」12.5%の順となっている。また、前回調査との比較では、「生活費（衣・食・住居費）」が1.8ポイント、「貯金」が1.7ポイント減少し、「授業料」が3.6ポイント、「奨学費」が1.1ポイント、「教養・娯楽費」が4.4ポイント増加している（集計表Ⅻ-6表）。

図18 奨学金利用状況の推移



2-5. アルバイト

アルバイトをしている学生が78.8%
 アルバイト収入の使途としては、「生活費」がほぼ50%に定着
 紹介先はインターネットが急増 週に11.4時間、月額で48,800円

アルバイトをしていると回答した学生は、全体の78.8%（「継続的」53.7%、「臨時」11.6%、「継続的+臨時」13.5%）で、前回（2005年）調査との比較では全体で1.4ポイントの減少となっている。また、男子学生の77.2%に対し、女子学生は84.4%で、前回調査と同様女子が男子を上回っている（集計表ⅫⅢ-1表）。

アルバイトの種類は（2つまで選択可）「家庭教師」37.2%、「塾講師」33.3%、「販売・セールス・サービス業」27.6%が上位で、男子の場合は「家庭教師」34.9%、「塾講師」34.1%、「販売・セールス・サービス業」24.6%、「試験監督・採点」16.5%と続き、女子では「家庭教師」44.3%、「販売・セールス・サービス業」36.7%、「塾講師」30.8%、「一般事務」15.4%と続いている（集計表ⅫⅢ-2表）。

アルバイトの従事時間数は1週間当たり11.4時間、1か月当たりの収入額48,800円で、前回調査と比べると、時間では週当たり0.4時間、収入では月額1,600円の増加となっている（集計表ⅫⅢ-3表）。

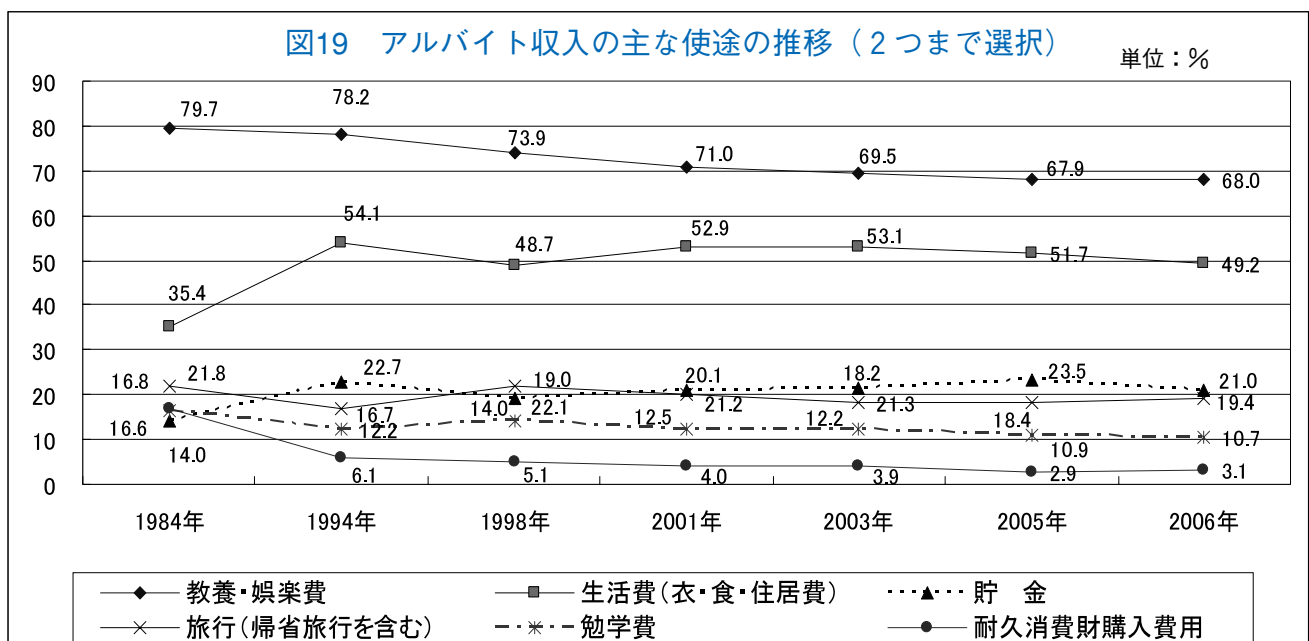
アルバイトの紹介者（2つまで選択可）は「友人・知人等」39.1%、「インターネット」35.3%、「アルバイト先と直接」24.3%、「新聞広告・アルバイト広告誌」17.2%、「大学の担当事務」10.2%と続いている。インターネットによる紹介が2003年に比すると倍増した（集計表ⅫⅢ-4表）。

アルバイトをした理由では、「学生生活を楽しむため」を挙げている学生が34.3%で最も多く、「生活費を稼ぐため」32.1%「社会経験のため」24.5%と続き、前回調査と同順となっている（集計表ⅫⅢ-5表）。

アルバイト収入の使途は、「生活費（衣・食・住居費）」が1984年の35.4%から1994年の54.1%に増えて以来50%前後に定着している。それと対照的に「教養・娯楽費」は1984年の79.7%から今回調査の68.0%へと着実に逓減している。アルバイトをめぐる学生生活状況は明らかに厳しいものに変化している。（図19、集計表ⅫⅢ-6表）。

「継続的アルバイトが勉学の妨げになりませんか」という問に、「かなり妨げになる（なった）」と回答した学生と「多少妨げになる（なった）」と回答した学生を合わせると51.2%になるが、前回調査より4.6ポイント減少している（集計表ⅫⅢ-7表）。

現在の暮らし向きについては、80.8%の学生が普通以上であると答えている（「かなり楽な方」25.1%、「やや楽な方」21.4%、「普通」34.3%）。反面、15.7%の学生が苦しいと答えているが（「やや苦しい方」13.8%、「大変苦しい方」1.9%）、前回調査より1.5ポイント減少している（集計表ⅫⅢ-8表）。



10年後の東大についての提言

〔文一男子〕

- 外国の客員教授が増え、Ivy Leagueとの学生交流が盛んになれば良いと思います。世界に通用する東大を実現するためには、入学試験の撤廃、高校と連携した学生評価に基づく入学選考、教授のリストラクチャリング、単位認定要件の厳格化、学生の教員評価の公開、教室の設備改善、少人数授業の拡充を行うべきだと思います。
- 「グローバル化」を声高に叫ぶ割には、他大に比べて留学システムが脆弱すぎる気がする。もっと多くの学生が海外で学べるシステム（単位互換制など）を取り入れるべきだと思う。
- 卒業生が真に誇りに思えるような、他の追随を許さぬ超然とした教育機関であって欲しい。それには先ず、入学者の質を確保すべきであり、全国での説明会など、日本中の才能あふれる若者を余すなく引き入れるべきである。昨今、「東大よりも医学部」へ。この風潮も強いが、単なる職業教育機関としての医学部よりも、東大の魅力が優れていることを、今よりも大々的に宣伝すべきである。
- 他大学が入試科目削減や教養科目を軽視しているが、東大は今の姿勢を貫いてほしい。また国立のわりに授業料が高いので、全ての人に開かれた大学となるよう、授業料を安くすることを検討してほしい。
- 総長の唱える「知の構造化」を実践していくべきだ。例えば学術俯瞰講義を東大の教官全てが参加するものとし、入学した一ヶ月は生徒全員がそれを受講する。カリキュラムを組むのをその後にすればより有効な教養教育が行えると考える。また基礎演習も年間講義にしてより徹底したものにするのも良いだろう。いま一つは英語教育の充実。英語一列はあまり意味がない。3～4人の生徒での少人数英会話授業の実現を期待する。東大の国際化にも通じるだろう。
- 日本の大学をひっぱり存在として常に改善を行い、学生及び社会から評価されるべきである。私は文科系なのですが、文科系の人間は大学から全く放置されていると感じます。私は法学部への進学を希望していますが、もしそうなり法学部へ行ったとしても、法曹あるいは公務員になろうとする際、ダブルスクールといって数十万の自己負担がかかります。国家のエリートを養成すべき東大は、実は個人の金銭的負担によって成立しているという事実は残念である。このままでは学生はみな高給料の民間に流れ、結果東大の地位は低下しかねないのではないのでしょうか。
- 能力（学力）だけに頼らず、理念や世界観も入学試験の基準に含め、よりアカデミックな場としての東京大学を作るべき。多少コストがかかっても、面接を選考基準とするべきでは。大学の世俗化に歯止めをかけ

ることが必要と思う。

- ①急務は無駄な履修制限・障壁の撤廃。理系のみしか履修を許可されない科目、学部によるシラバスの分散などは、学際性を重んじる世界の高等教育に東大が大きく遅れていることを如実に示している。②入学試験科目を増やすべき。特に文系における数学、社会科、各科目の知識の不足は、専門性を身につける上で大きな障害になっていると思われる。③大学運営の改善。教室の開放や図書館・教務課の営業時間延長など。東大外部に「開かれた」大学であるのはよいと思うが、内部生に「閉じた」大学であるべきではない。
- 東京大学憲章やアクションプランで掲げられているような、“世界におけるリーディングユニバーシティ”であってほしい。そのためには、成果が早急に出ない研究や具体的に社会に役立つとは限らない研究に対しても十分に資源を投ずる必要があると思われる。社会的有効性や資金獲得にとらわれない広い視野を持った教育・研究の展開を望んでいるし、またそれこそが東京大学にしかできない特色ある活動だと思われる。学問の細分化や産学協同が進む今だからこそ、この点に十分な注意を払ってもらいたい。
- 東京で下宿を行う費用はきわめて高いので、奨学金などを充実させて、地方からしっかりと人材を集めるような大学であってほしい。教養課程（前期）について、もっと充実したありかたであってほしい。

〔文一女子〕

- 東大は、日本やアジアの将来を背負って立てるような人材をもっと輩出できるような大学を目指し、ブランド名のみで頼るのではなく、実力も伴った人間を育てる努力をしなければならぬと思う。前期課程に身を置く者として実感していることは、この自由な2年間を有効に活用できれば幅広い実力を付けることが可能だが、ほとんどの学生が何を勉強したらいいのか分からず無為に過ごしてしまい、そのまま専門に進むこととなる、というのが実情ではないか、ということである。どの分野に進む人は、最低限どのような教養を身に付けるべきか、または望ましいかの指標を何らかの形で明示してほしい。（学生全員に強く意識されるように）
- 東大を卒業した人が第一線で活躍する一方で、犯罪を犯してニュースなどで報道されるのを見るのは非常に悲しい。卒業生が全員、社会的に地位があったり、お金を持っていたり、という意味ではなく立派に社会の構成員としてのルールを守って生活しているようになってほしい。しかし、そのために何をすべきかはわからない。

〔文二男子〕

- 世界でひんぱんに“University of Tokyo”という

文字を見られるような存在。理科学系のテクノロジーや文学面だけでなく、優れたビジネスマンや世界的なリーダーを多く生む大学。そうした東大を成り立たせるために必要なピースの1部として、自分は世界的に名をはせるようなビジネスマンになりたい。特に環境を意識したエコビジネスを成功させたい。ドイツなど欧州の国に負けられないような環境保護の使命に燃える日本の建設に対しても、東大には貢献してほしい。

- より多様な人材が生まれるように様々な努力をするべきだと思います。例えば学士入学制度の充実を図り、1・2年の教養知識に加え、2分野以上の専門領域を知る優秀な人材を生み出すことは多様化する社会において必要と思われます。また、卒業生に対して幅広い聴講を許可し、促進することで、常に「ホーム」である東大があるといいなと思っています。また、入学試験を見直し、後期試験は平成20年度以降の制度を維持しつつ、前期試験は文理のみの枠（理Ⅱ除く）とし、文（←文Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、理Ⅰ（←理Ⅰ・Ⅱ）、理Ⅱ（←理Ⅲ）の3科類体制がレイト・スペシャリゼーションに適していると思います。
- 東大はおそらく現在では日本で学術研究レベルは最高である（どの分野も）と思われるが、10年後はもっと日本のみならず、世界的にもトップクラスの研究レベルを持っているという地位を確固たるものにしてもらいたい。近年では東大の世界的なレベルは若干低迷していると感じている。この目標は東大自身のみならず、日本の世界的な文化・学術地位の向上、さらには日本の国力にも繋がっていくことと思う。まずは有能な研究者になりうる人材が東大に全国いや世界中から集まり、研究に集中できる環境が必要である。学費の軽減、学生寮の充実、研究費の増大が必要であるが、それには“国立大学”のままでも良かったのではないか、と思う。
- 教養学部の性格と進学振分け制度が衝突しない、もっと自由に勉学とその他の学生生活を学生が満喫できるようにしてもらいたい。進学振分け制度が成績による学生の選別を行っていくなら本当の意味で自由に興味のある分野を勉強することは出来ないと思う。
- 日本だけでなく世界をも代表するLeading Universityであれば良いと思う。そのために、自分としては東大の学生であることに誇りを持ち、常に自分自身の成長を志向し続けること、東大としては、積極的な国際交流の推進、世界を代表できるだけの質の高い教育機会の提供、研究内容の充実といったことを進めていくべきだと思います。
- 「改革」「改革」とあおるのではなく、大学が恐るべきディスコミュニケーションの場と化していることを何とかするべきです。試験を済ませて足早に去っていく学生の群れ。答案を集めて黙って研究室に向かう教授。彼らは一体何のために大学に集まっているのでしょうか？ 科学技術の発展のため？ 愛する日本のた

め？・・・あまりにナンセンスな光景です。

- 授業を動画配信する。書類は全て電子化して提出物もレポートもどこにもどの先生にもいつでも出せるシステムを作ってほしい。掲示板はいらないので、全てUTask上に情報をのせる。掲示板にある情報は全てUTask上に（両方見なきゃいけないのは非常にめんどろ）。持ち込み可のランチルームを作ってほしい。90分座っているのもう少しまともなイスを入れてほしい（冬は冷たいしケツが痛くなる。）前後の間隔がせまい。いるだけで疲れる。
- 経済学部は理系から進学することにし、もっと数学を基礎からみっちり勉強する必要があると思う。今の経済学部で、数学をほとんど使わない分野は、文系から進学することにし、名称を変更して対応すべきだろう。
- 今はほとんど社会の方を向いていない。大部分の学生は学者・研究者にはならず社会に出ていくという明白な事実を無視し、伝統という名の硬直的なカリキュラムに縛られている。法人化された今、私大から学ぶべきことは多いはず。

【文二女子】

- 今以上に「開かれた大学」であるべきだと思います。エリート養成機関としての役割はかなりうすくなっていますが、それでも「よく知られること」があってこそ、東大の伝統や質を守ることができると思います。自分の出世や就職のためだけに東大を利用する（そして、それを何の恥らいもなく公言する）大学生が増えているように感じます。東大側がもっと謙虚になれば、というアピールをしてはどうでしょうか（あまりに幼稚な提言ですが・・・しかしそのような東大生・東大出身者が東大の品位を落とすのはあまりにしゃくなので）。
- 運動会に対する補助を増やして、スポーツでも活躍できる大学になってほしい。

【文三男子】

- 必修が多すぎ（特に語学）。全部予・復習をしてサークル活動も行うと、総合科目の勉強や自分の興味に向いた本を読む時間がとりづらい。また、語学を増やしても、各科目（英1と英2）の先生の間で連携がとれていないので各授業が目標としていることなどがわかりづらい。総合科目の時間割を改善してほしい。興味はあるけれど、かぶってとれない講義がいくつもあった。進振りの新しいシステムはシビアすぎると思う。
- 現代の学生は昔と比べて高校時代からのいわゆる古典に触れる機会に恵まれていない。東大が掲げるリベラル・アーツにとって、古典への理解を培うことはこれからますます大切になってくる。たとえば、国際化の中で東大生には古典の教養がないというのは問題である。しかし、現行のカリキュラムでは必修科目に当てる時間が多く、予習などで古典を読む時間がとりに

く。カリキュラムの中に古典を読むコースを増やすなど、学生が1・2年生のうちから、自律的に余裕をもって大部の本でも読める環境を作っていくべきである。

- 今年度から始まった、全ての履修科目の点数が進振りに利用される制度は学生の知的好奇心を削ぐので撤廃すべき。必修のコマ数を学期毎に均一化すべき。現行のカリキュラムだと1年はやたらと忙しく、2年になるとやたら暇になる。大学は学生のやる気を削がないように、上記のように苦心すべき。10年後だろうが、何年後だろうが、大学は自由であるべき。
- とりあえず進振りや成績に関する不明瞭さを無くし、わかりやすくするべき。学生が一番気にしているのは結局は点数であることが多いから、教養学部というシステムを維持しつつ、現状のよくわからん採点制度とかを改めてほしい。あと文理の融合の促進をもっとしてほしい。特に文→理については制限が大きいように感じる。
- 学生一人一人が選び取った分野について誇りと安心感を持って勉強できるキャンパスであって欲しいと願います。国際的にも通用する人材はこういった環境の中から生まれるものと思います。大学としては入試時か出来る限り早い段階で学部を定めておいた方が良いでしょう。進学振り分けの為に点数を取るだけの勉強では曲学阿世の徒を生産するのみです。
- 現総長が「世界一」を目指すとしてから10年強、ということになる。このことを考えれば、その目標が達せられている、あるいは見通しが立っていれば良いと思う。このためには、目先の要求だけでなく、基礎研究に至るまでバランスよくレベルを高める必要があるだろう。学部学生であるわたしのレベルとしては、よく勉強し他者とよく交流する「良い学生」となり、その姿を外部に示すことが必要である。(少なくとも「学生の質」は世間一般の大学の評価に直結している)。大学としては、基礎研究のレベルを維持・拡充しつつ、社会的貢献を図ること、研究者・学生の積極的な海外交流の促進をすることなどが考えられる。ともあれ、最も重要なのは「世界一」の統一されたヴィジョンであることは論を待たない。
- 日本や世界をリードするエリート的人材を輩出するような大学であれば良いと思います。現在、小宮山総長の掲げている目標が、高い程度で実現する事が望ましいとも思います。自分としては実感として、文系の学生の中に気概不足や「だれ」を感じているので、成績評価や進学をもう少し厳格にしたり、入学者数をもう少し減らしてもいいような気がします。学生の自律性も重要であると思いますが、学生があまり熱心でない傾向があると思うので、多少、制度的に厳しくしても良いように思います。
- 学部間での交流が活発となってほしい。研究者間はもちろんのこと、学生も「東大生」としてあらゆる分野の人との接点を持つのが望ましい。そのために

は、学部ごとに情報発信（シンポ、勉強会etc）を定期的に行う。特に学際という点で情報学環の存在に期待している。多大学の専門学部との交流もすべき（お茶など）。

- 実学重視の流れに逆らうわけではないが、広く教養を身につけた人材を送り出す場であり続けて欲しい。一方で社会性が無い等のイメージや実態を講義の中である程度社会と関らせることで解消して行って欲しい。近年はマスコミの目を気にするあまり、合格してしまえば遊びに興じてしまう極端な生徒も少なくない様にも思われる。大学、特に東京大学が学生時代に何を生徒に求めるか、予めメッセージを。
- 学長は「教養の重視」などと言っているが、理系のことしか考えていない。私のような文学部（に進学する）学生は無価値などと考えているのではないかと。私にはそう思える。どうも東大は人文科学の軽視をしているように思います。
- 生活費を稼ぐだけで精一杯の学生と親のお金で裕福に生活している学生との格差が大きすぎます。三鷹寮にさえ入れず、学生へのサポートがしっかりしているのか疑問です。10年後といわず、来年にも改善して頂きたいです。

〔文三女子〕

- 教養課程の講義が高校レベル程度でつまらなく感じることがあるので、基礎的なことよりもっと専門的なことをやってほしい。英Iつまらない。今年からとった授業すべてテストを受けなければならなくなったが、やめてほしいと思う。テストをうけた段階で途中放棄したい場合もある。文科の基礎科目（人文・社会科学）はとくに単調な授業でつまらない。
- 進学振り分け制度が点数だけでの評価ではなく、面接や論文といった、学生の意欲やその分野への興味をはかれる要素によって行われるようになって欲しいです。そのために、学生は1年のうちから自分のやりたいことを真剣に考え、大学側は面接等の受け入れ体制（教員等）を充実させる必要があると思います。
- 教養課程を維持して、文理の壁なく勉強できるような環境の維持に努めてもらいたい。また、もう少し学生の海外留学をサポートしてほしい。
- 科類はなくした方が良いでしょう。文3・理1・2ばかりが進振りに悩まされるのは不平等。
- 日本の最高学府として、今以上に日本を代表するような研究を行っていくことで、世界的に貢献してほしい。もう少し、教員による研究だけでなく教員による人材育成にも力を注いでも良いのではないかと。特に留学制度を充実させてほしい。現在は教養以外の学部で、単位互換性のある留学の機会が不足していると思う。学費はこのままだと私立と変わらなくなり、国立としての特徴・価値がなくなる。
- 学生の質を上げるために学生数を減らすべきだ。前期教養学部は殆どの学生が無為にすごしてしまうの

で、なくしてしまうか、1年未満にすべきだ。テストなどの評価が甘すぎる。大教室での受け身の授業を減らすべきだ。

- 10年後の東大は多様な国から来た学生達が集い、切磋琢磨する環境であると良いと思う。そのためにはもっと留学生を増やすといいと思う。また、知力・体力・人間性という3点を在学期間中磨けると良いと思う。そのためには体育の授業の増加、ボランティアや学生団体、NPO等課外活動に取り組む学生を奨励してほしい。
- 本郷をきれいにしてほしい。駒場はきれいになったのに、本郷は幻滅です。生協とかトイレとか。進振りが第2外国語の教員やまわりの学生(クラス)との相対評価できまる。それなら英Iみたいに統一試験にしてほしい。
- ・もっと留学制度があったらよいと思う。AIKOMでいかれる人数がすくなく奨学金もとれないことが多い。そのためにもっと多くの交換制度を作してほしい。
・授業料をあげないでほしい。

[理一男子]

- 進学振り分け制度は東大のアイデンティティであるので、残して欲しい。「知の構造化」もいいが、「知の体系化」が必要である。例えば、力学などの基礎科目は数学の知識を前提としておきながら、1学期に開講され、内容の重複が起こっている。土台からしっかり積み上げられていく科目設定が必要である。また、進学振り分け制度においてもっと文 \leftrightarrow 理の柔軟性を大きくしたほうがよい。文I、文II、理IIIの自堕落さは目に余る。これらの学部生は単位認定を厳しくしたり、他学部からの理 \leftrightarrow 文転を激しくし、大どんでん返し、競争を活発化させてほしい。基礎科目の設定のせいで文 \leftrightarrow 理転がしにくく、進学振り分けの意義が狭く感じ、非常に残念である。これを改善するような基礎科目の認定を望みたい。また、基礎科目もいいが、取りたい総合科目がもっとたくさん取れるカリキュラムにほしい。
- もっと現実社会と接点の感じられる教育を受けたい。私は今、理系の1年生だが、特にすべての理系科目の授業は原理や定理の紹介と問題演習に終わっていて、これでは高校授業の延長でしかないし、受ける側も興味を持ちにくい。もっと授業内容に工夫をこらすべきだと思う。東大が日本の教育の先頭に立っていることをより自覚すべきだと思う。あとは学費、高すぎる。ある程度稼ぎがあっても兄弟姉妹のいる家庭(地方出身者)には厳しすぎる。
- もっと危機感を持った方がいいのでは？(学生がかく言う僕は留年しましたが、勉強は一年時からかなりしています。中国やインドのハングリー精神旺盛な若者に負けたくないの、途上国の人が死に物狂いで頑張っている現状を伝えるとよりいいのではないかと

思います。

- 日本人の典型である勤勉横並び人間が現在多い気がするのですが、もっと自発的な創造力にある人間が増えると、とてもよい大学になると思います。そのためには「進学振り分けの制度」を絶対に変えるべきです。私はまだはっきりと自分が本当にしたい事が決まらず、大学で深く勉強して決めようと思い、東大に入りました。しかし現状は、深く理解するより速く理解することが求められる期末テストによって成績が決まり、担当教官によって大きく差が生じるというバカバカしい制度でした。受験勉強より短期的な記憶力でもって速く理解したふりをして、全ての教科を平均的にこなすのが、今の東大生に一番求められている能力です。是非改善を。
- 学生の探究心が低すぎる気がする。諸外国と比較しても日本の大学生は勉強しないと言われているが、東大でさえ今のような状況なら、そう言われるのは至極当然である。対応としては、少人数制の実施や入試で全員に面接をかすなど、入試で点が取れるかどうか以外の能力も計ることができればいいが。いっそ、大学の定期テストをやめてしまって、ヤル気ある人だけ勉強すればいいというシステムを作ってみてはどうだろうか。
- 入学して感じたのですが、僕が話に聞いていた過去の東大の良さが失われつつあるのではないのでしょうか？ 具体的には、話に聞いていたよりも講義の内容が平易だと感じました。その割に出席が厳しい場合があり、ここが嫌です。これからの東大(の教員)には、学生に迎合するようなことはして欲しくないです。ただ、質問とかにはしっかり答えてもらいたい。つまり、まともな授業をして下さい。
- 進学振り分けに大反対だ。私の所属する理科一類は特に進学振り分けが厳しく、点数のことばかり気にするはめになってしまう。よってのびのびと有意義な勉強をすることができない。大学入試で学部だけでも決めてしまうべきだと思う。(全科類の制度は残しておくべき。) また、必修科目で学生を縛りつけ過ぎだと思うので、これも減らすべきだと思う。ついでを言えば、上記の理由で私は京大を受け直そうと思っている。
- 10年後の東大 \rightarrow 日本の英知の集合場所 \rightarrow 教養前期課程で必修を減らして(特に理科系)より様々な総合科目を受講できるように改善していただきたい。
- 教養学部制度を残していること自体は評価出来るが、カリキュラムに関して、特に基礎科目については学生間で公平な水準で提供する、という点ではやや不満があるので、まず駒場のカリキュラムを(現在の状態から更に)整備した上で、本郷との連携(=後期課程との結びつき)を強化すれば、10年後には総合大学として最高の環境になるのではないのでしょうか。
- 社会に貢献する人材を多く輩出する。入試において、人間的な面も評価できる制度を作る。豊かな人間をつくるという面で、スポーツ、芸術等の活動も力を入れ

る。日本をリードする大学であるために学問、勉学において、皆が進んで勉学に励めるような環境作り、教育体制を作る。

- 必修が多すぎる。総合科目が偏りすぎている。とくに4、5時間目にかたまっていて、とりたい科目がとれない。そのあたりをもっとフレキシブルにできれば、たのしく勉強できる人がふえるのではなかろうか。
- GDPで日本は世界2位の大国なので、大学の調査でもハーバードについて2位になってほしい。そのために、将来つかわない第2外国語は必修でなく、選択科目にしてほしい。また、教養課程を1年間にし、進振りを廃止してほしい。
- とにかく授業料が安くあってほしい。学問がお金に余裕がある人だけのものになってしまうことは社会的損失も大きいと思う。そのためにどうすればよいのかはまだわかりませんが・・・。
- 私の進学理由や「東大観」によるところですが、産学連携にしばられない、人類の根本的欲求としての好奇心を満たす大学であるべきと考えます。確かに「今の」要求-即ちより現実的な必要性に応える研究も重要ですが、それでも国内最高峰の総合大学の使命はこちらだと思えます。
- 完全禁煙実施、進学振分撤廃。
- 本郷の教官が駒場に来て講義を行う機会を増やし、興味のある分野の研究を文章や説明だけでなく、実体験をしてから学部学科を選べるようになっていけばよいと思う。
- ・日本の将来を担う大学として学費を取るのをおかしい。国立大学が独立行政法人になったのだから、東大として収入を得て学費が全くかからないようにすべき。そうすれば志願者も増えて学生の質も向上する。
・理系学部の政治力向上に力を入れるべき、文系の全く勉強していない人たちと同等に扱われるのは困る。
- 東大出身の政治家が増えるよう、文系理系を問わず、政治への道をより広く開いてほしい。東大生とはいえ、家が貧しければ、資金的面で政治家を目指しにくい。未だに政界は世襲の伝統があり、さほど実力もない議員が跋扈している。本当に頭の良い東大出身者が政治を為すことでのみ、日本は正常に機能する。野心をもった学生への援助など、東大は積極的に政界への道を整えるべきだ。
- 学生からの教員に対するアンケートをもう少し反映してほしい。明らかにやる気のない先生もいるし、どうせ受けなければならない授業ならば前向きに受けたい。授業をする先生のやる気がないと、こちらのその科目に対するやる気までなくなる。駒場の新しく出来た生協・食堂は電力使い過ぎだと思う。省エネルギーというのは大事にした方がいい。進学振分け制度はあまり意味がないと思う。現状で教養が身に付いているかという疑問が残るし、友達も作りにくいと思う。
- 理系の学生を対象にした実験学の授業で、実験に必要な知識、例えば誤差の処理とか基礎的な道具の使い

方(対数グラフの使い方、キャリパー、マイクロメーターなどの使い方)について、しっかりとした授業、あるいはしっかりとした教科書の紹介をしていただきたいと思います。今の基礎実験の様子を見てみると、教官方は学生がそれについて知っていることは当然のことのように思って授業をしているのですが、実際に理解している学生は少ないので、もっときちっとやった方がよいと思います。

- 東大に限ったことではないが、特に国立大学法人の大学は学費を下げるべきである。社会全体の発展ということを考えても、今の高学費が続くことは良くない。私の周りにもお金に困っている学生や、大学進学をあきらめざるをえなかった人たちがいる。その人たち自身にとってはもちろん、学問全体にとって貴重な損失である。学びたい人誰もが安心して学べる大学を作してほしい。そのためには、学内での努力だけでなく、国への積極的はたらきかけが必要。
- 学業面では前期課程ではもう少し多様な(心理、医学系の)授業を後期課程では授業数の減少を(特に理系で)期待いたします。また、生活面では奨学金のより一層の充実、大学近辺への寮等住宅設備の増強等をすれば、より充実した大学生活を送る学生が増えると思います。さらに短期、長期にかかわらず留学を行いやすい環境を整え、自国以外に世界観にふれる機会を提供し、世界に日本の文化を発信していくべきだと思います。
- 少なくとも、専門に入ってから授業に対する教授たちの力の入れ様と、教養前期におけるそれが著しく異なり、後者の方はやっつけ仕事のな面も見られる教授もいる。幅広く学ぶことを目的とした前期課程は、進振りにおける点数競争もあって活かされていない面があるので、10年後そこが解決した東大があると良いかもしれない。
- 学内者だけでなく学外者にももっと身近に感じられるような懐の深い大学であってほしいと思う。もちろん、研究や教育の面で世界から一目おかれるようにもなってほしい。そのために、大学の教員や学生を外の世界、社会に放出し、かつ外部の人やかつて大学にいた人を柔軟に受け入れられる財務的体力、また研究者の業績をアピールできる機関がもっと充実してくればよいと思う。
- 現在一般的に持たれている東大に対する先入観・固定観念(ポジティブ・ネガティブ両方とも)を取り除き、より各個人に対して評価がなされるようなものとなるべきだと思う。東大自身の働きかけとしては、大学は具体的に何をしているのかということをやよりオープンにしていくことが必要だと思う。
- 他大学、企業との分け隔てない、開放した大学。社会的イメージの拭しょく。東大はこんなことをしている(悪い点も良い点も含めて)ということをや社会に伝えるために、メディアをさらに活用すべき。
- 他大学との単位交換を広く認め、生徒を広く受け入

れ、自分が東大生であるためには他とどのように違えばよいのか学えれる環境を作ること。大学別コンペティションのような、ただ単にスポーツ、学力の一点のみを計るのではなく、全体を評価する活動を積極的に開催すればよいと思う。(もちろん単位を認め)。

- 戦争に携わるようにならなければよい。もっと学生全体が過去を知るべき。
- 欧米との交換留学を増やし、単位の規則は緩め、卒業の基準は厳しくすべき。より、学生に課す責任を重くすることで、自由な学生生活の中で学生の自主性を引き出す。また授業は問題解決や自己主張、能力を伸ばせる内容にして出る杭を伸ばすようにすべき。
- 日本のトップの大学として、大学教育を重視すべき。そのためにも、まず大学の授業(特に教養)における質をあげる。大学の講師の育成をしっかりとすべき、また英語は授業体系を見直すべき。
- 学ぶことと働くことの距離がもっと近くなればよいと思う。今だと、勉強すればするほど、アルバイトする時間を圧迫してしまい、思う様に勉強や課外活動に専念できない。最低限でよいので、勉強することで生活ができる様にするために贈与型の奨学金などをつくってほしい。
- 基礎研究等の他の機関(企業等)では、あまりできない様な事柄を充実させる。あまり直接的な利益を追い求めすぎないことが重要。
- 自分は学部のことしか分からないが、(自分を含め)もっと学生のレベルが高くあるべきだと思うことが多い。年に三千人も入学させなくても良いのではないのでしょうか。世の大学は山ほどあるわけですし。
- 理系で研究職を希望する視点で言わせてもらえば、東大はもっと研究成果を発信し、社会からの評価を得るべきだと思う。研究者にもより魅力のある場所になるはずだ。

[理一女子]

- 日本をリードする大学として、多くの学生に門戸を開くこと(経済的な理由で進学できない人をなくすように努力すること)、学生の意見を取り入れた活動を行うこと。社会に役立つ研究を行うこと(ただ利益を求めめるのではなく、環境や倫理に配慮した活動)。様々な考えをもった人で構成される大学であってほしい。自由な研究・活動のできる大学であってほしい。
- 入試形態について、理系・文系の枠は仕方ないにしても、それ以外の分類はなくすべきだと思います。志望学部により必要な選択科目を提示すれば、問題はないのではないかと、思います。
- 日本を代表する大学として研究体制をより良くし、学生に対する教育を今よりずっと充実すべきだと思います。研究を産業などとあまり関係付けずに、大学独自に純粋に学問としての研究を重視してほしいです。また、奨学金制度や寮などを充実させて、学費を心配せずに学べるようにして行ってほしいです。

- 「勉強が好きな生徒」を受け入れるような大学。(偏差値で選ぶのではなく。)そのために入学してから卒業するまでを厳しくするアメリカ的なカリキュラムにすべきである。

[理二男子]

- 受験戦争を勝ち抜いた強者のみを受け入れるのではなく、夢をもった学生を得るべきである。そのために、ある水準の学力は要求するが、その志も評価に入れるような入試法も取り入れるべきではないかと思う。
- 学費を安くし、海外からの留学生をより多くとる。また、授業の出席を重視し、底辺、落ちこぼれを救済してほしい。東大のさまざまな組織及び団体の透明化。
- 東大の持つ進振りというシステムが学生の進路決定の良き足がかりとなるために、教養学部(前期課程)の講義内容を見直すべきである。具体的には、必修科目の教科書、講義内容、評価方法の統一を主張する。私も周囲の友人もよく言うことなのであるが、高卒レベルの知識で入学してきたのに、急に微分方程式を解けと言われても無理である。講義の内容がいきなりハイレベルで、講義で紹介される教科書も難し過ぎることが多かった。実際、私は高校レベルから講義レベルまでの差の埋め合わせに時間がかかり消化不良を起こした。最低限必修だけでも、大学で高卒レベルから丁寧に教える教材を作り、担当教官の当たり、はずれで身に付く実力と評価に差が付かないようにすべきである。
- 施設面や人材面では学びの場として今でもよいと思うが、やはり学費、奨学金の面では世界の大学と比べると遅れをとっていると考えられる。特に大学院では、海外の有名大学では学費がタダ、むしろお金をもらえる所も有るのに、日本では逆に高い学費を払わなければいけない。これでは、これからは優秀な学生を十分に確保できないと思われる。現に高校時代、特に優秀だった友人らの何人かはアメリカの有名大学に行ってしまった。日本を代表する大学であるだけに、本当に優秀な学生が喜んで来る大学になってほしい。
- まず、経済的困難により東大で学ぶことができないという学生をなくせるようにしてほしい。奨学金の充実も需要だが、同様に寮を充実させてもらうとものすごく助かります。本郷に行くとき寮を出ないといけないため、経済的に苦しいです。寮の充実は返還する必要のない奨学金をいただくのと同じくらいの効果がありますのでよろしくおねがいます。また、前期課程の充実をはかってほしい。本郷の授業よりも教員のモチベーションが低く感じられる。単位認定も甘いので、この時期が非常にもったいなく感じられます。
- やはり私の希望としては東大には世界の大学として、常に上を目指して行って欲しい。10年後はハーバードやUCBと肩を並べるような大学になっていると良い。そのためにも大きな優れた研究を出来るような環境、教員をととのえることが大切だと思う。個人的

には日本の大学は学生に甘いと思う。東大ぐらいは多少オーバーワーク気味の量を学習させて「お前等ついてこい！」の様な感じでもいいのではないだろうか。

- 理学系の学科を中心とする基礎研究で世界をリードする大学。日本は地下資源etcに乏しい国なので、人的資本で外国に対抗する必要がある。ただお金を増やすだけでなく、その次のステップ、かせいだお金を元に世界へ知識を提供するべき。それらを実行する人間を育てる大学、研究機関たるべき。
- 世界をリードする、もっと国際性を持った大学になっていることを望みます。そのためにはまず様々な海外の大学と提携を結び、授業も他の大学の先生を招いてもっとactiveにやってくれれば楽しいと思います。また交換留学制度も教養学部後期課程だけでなく、他の学部においても盛んにやってほしいと思います。
- 学生間のコミュニティが多い空間であれば良いと思う。知り合でない人と話すことが必要。そのような空間の中で周りの人達がどのようなことを真剣に考え、生きていっているのか、大いに参考になると思うし、自分がその中で自己を見つめる時間が得られれば、それは非常に良いことだと思う。
- 1、2年生のカリキュラム、特に2年生の現行のカリキュラムが理系にしてはゆるく、少し無駄に感じることがあります。学生が学業に集中できるよう、学生の生活面でのサポートを拡張し、教育していくべきだと思います。
- 授業の形式を大講義型から少人数の対話型にすべき。大教室は先生対生徒の対話形式にするなど。

[理二女子]

- もっと基礎的な授業をやっているときでも、関連する最先端の研究の話も一緒にきかせてもらえたら、興味ももてて、教養学部でも楽しく学べるようになると思う。教科書で初学者には理解の難しい本が多すぎる。もっと工夫したものを指定されるようになればいい。家計が苦しくても大学に通えるように人に応じて学費はある程度調節ができればいい。
- 東大（内部）生ながら恐縮だが、東大への（国内において）権力その他の一極化は避けるべきだと思う。現行入試は地方生等には不利だし、優秀な人材が上位そのまま入ってくる訳でない。重要！！ 10年後の東大は国内的には今よりも権限が分散して弱いけれども、自他共栄（柔道のことば）して世界的には今よりもより栄えていることを望む。
- 駒場と本郷があまり交流をもたない状態は駒場の学生にとってプラスにならないと感じられるので、サークルなど以外で1、2年生と3、4年生が同じ授業を受けるようにするなど、風通しをよくするべきだと思う。また、教養学部が学際性を謳っているが、実情は細分化・専門化しているように思う。

- 大学入学後の努力が報われる進学振り分けの制度が導入されているべきだと思う。大学全体としては、もっと社会に密着して貢献していくべきだと思う。その為、駒場で行われているような「高校生のためのセミナー」などをふやし、一般の人にも研究結果を発表する場を増やしていくべきだと思う。
- 今の東大の仕組みだと、1年生及び2年前期の前期課程（進振り前）は良く言えば自由で主体的に過ごせる時間だが、悪く言うと大学から野放しにされたような状態である。今進学先での授業を受けて教授や研究室が身近な存在であることが楽しく、勉学への興味も深まる。駒場時代にも、そのような体験をもっと増やすべきだと思う。10年後は教授と学生がもっと近い存在になってほしい。

[理三男子]

- 10年後、東大は世界に通じる人材を育成する機関であるとともに、そうした人たちが研究を行える場所であるべきだと考える。本郷で専門課程の講義を受けていない駒場の学生として、東大がなすべきことについて考えると、以下ようになる。東大の特徴の1つは、いまだ教養学部が残されている点であり、これにより文系・理系という（ナンセンスな）区分けにとらわれることなく講義を聴くことができる。しかし、自分の周りの多くの学生は、それを生かすことなく、単位の取りやすさをベースに聴講しているように感じられる。駒場の初めの2年間（実質1年半）をどのように使うかについて、学生に啓発していくのがよいと思う。
- 性別・年齢・国籍の多様性をより一層豊かにし、夜学を設けるなど幅広い「学び」の形態を提供できる場であってほしい。
- 駒場に入學してその予備校的な雰囲気には絶望した。興味を持って勉強する友人は少なく、いい進学先のためにいい点を取ろうと小細工に走る人が多い。またそのような空気を察してか、教養学部の教官にも教える気が感じられない。やる気のある高校生なら自分で勉強してしまえるような内容の授業だった。もちろんこのだらけた雰囲気の中から勉学以外に学ぶことが多かった。しかし、大学はあくまで学問を中心にしなければならない。前期課程の間に学問への姿勢を底上げしなければ、今後の世界で活躍できる人材を輩出する大学であり続けられるとは思えない。

[理三女子]

- やはり大学は良い教育機関であるべきだと思います。大学は自分で学ぶ場所ではあると思いますが、何の説明もなしに新しい概念や記号を用いて授業をするのでは、もともと仕方なく受けている必修の授業に対する意欲はそがれるばかりです。日本一の大学、日本一の授業と誇れるような大学になっているといいと思います。

〔法男子〕

- 10年後にも日本を代表する大学、就中、相対的にではなく絶対的な地位を保ってほしいと思う。日本中の優秀な学生が、「やはり東大で勉強したい」と思えるような大学であってほしい。これは社会的な評価も関係するので一概に東大がこうすべきというのは難かしいが、東大としても研究活動を大いにやるのみならず、人を育てるということにも重きを置いたらよいのではないか。残念なことだが、黙っていても勝手に勉強する学生が大半だった時代は終わってしまったのである。
- ・研究分野においては、他大学では資金的余裕・時間が足りなくて行けぬこと（例：基礎的研究、資料収集に膨大な手間のかかる研究）を行い、長期的視点に立った学術発展を担うことを考える。
・講義においては、学部時代も重視し、大学院に科目を先送りしない。先送りする場合においても、学部生との合併にするなど、学部生が講義を受けることができる様にする。
- 特に法学部について、もっと学習上のアドバイスやケアがあるといいと思う。
- 伝統にこり固まっていて多少不便に感じなくもないが、捨てるのは簡単だが積み上げるのは難しいので、古くさいとか時代錯誤とか言われるくらいの方がいいと思います。ただし、バリアフリーとかそういうのはちゃんとやっていった方がいい。
- 教養は批判されるけど、残した方が良くと思います。大学という場で実務に役立つ専門教育をやるべきだという意見には賛成できません。私の場合、法律を勉強していても、何のために法律を勉強しているのかと疑問が深まるばかりです。あまりにも現実とかけ離れている気がするのです。その中で社研のM先生による労働法の講義は、学説などの細かい点よりも現実の問題とのかかわりを重視する点ですごく良かったです。
- 私は文Iから法学部に進学しましたが、駒場時代には総合科目で法律以外の様々な科目を履修し、授業にも積極的に出席していたほうだとは思いますが、身についたものは少なかったです。自分の努力不足によるところは大いにありますが、方法論基礎や総合科目のなかのそれぞれの科目をどのようなパッケージで履修すると体系的かつ学際的な知識が身につくのか、について何通りかのパターンを学部の方で提示してもらえると、より多くの学生が駒場の2年間の学習でより多くのことを学べるのでは、と考えています。
- よく言われることではありますが、時代の流行廃りに流されない地道な基礎研究の場として東京大学が発展することを願っております。およそあらゆる学問分野について一定の研究水準を保ち続けることが、国立総合大学の社会的使命です。産学連携の重要性を否定するつもりは全くありませんが、大学の本分を見失わないよう注意を払う必要はあると思っております。
- 真の意味で「日本一」の大学を目指すのであれば、

入学時だけの難関大学であってはならない。卒業要件や単位認定がかなり甘いので、入学後に学生が勉学に熱心に取り込むことは少なく、東大を卒業することは、入学と比べて何でもないと言える。基準の引き上げが必要かもしれない。・・・といいつつ自分自身もその基準の甘さに助けられたが・・・それから、国際的地位の相対的低下を防止するためにも、より一層国際的競争力を高める対策が必要だ。現在、韓国に留学中だが、こちらの大学はかなり国際化に力を入れていることを肌で感じた。

- 文理にかかわらず、学問分野における最先端、権威あるレベルを維持又はそのレベルに発展させてもらいたい。このためには、学生の教育・施設に支出を積極的に行ってもらい、学部間での不均等な施設・設備利用状況を改善し（特に文理で建物などの不平等ぶりは顕著）、学生の勉学へのインセンティブを高め、質の向上を図ってほしい。また、特に文系分野において学問の社会貢献性の高い（そしてそれが明確にわかるような）講義又は研究分野が開発されるべき。時代に適合すべく、もっと積極的にコンピュータ・ネットを利用したサービスも考えるべき。多数学生を完全放置という状況は見直すべきでは。
- 教育機関であることと研究機関であることとの両立、さらにその充実。現在は学生の質を頼りに教育的配慮が欠けていると考えている。大学外に授業料を払うのはばからしいので、せめて語学と志望者の多い追加教育（各種資格、公務員試験等）は学内で実施してほしい。また学生が研究に触れる機会も多い方がよい。その際に学部の壁をなくしてほしい。授業カタログの記述を充実させたり、インターネットで（学生からの評価とともに）増補して公開できないか。
- 価値を創造し、社会に還元する役割を果たす機関であるべきだと思う。また、具体的な政策提言なども積極的に行っていくべき。論文提出、引用数などで世界の中の位置付けを意識することはナンセンス。また同窓生の結束を強めていく必要がある。多様な分野に巣立ち活躍している仲間との交流は様々な刺激をもたらすのではないか。
- 日本・世界の将来を担う人材を育成することに尽きると思う。「10年後の東大」などという狭い視野ではなく、東大は「これからの日本・世界」について考えるべき立場にあるのではないかと、思ったりします。ホームカミングデイとか「東大ブランド」とか、視野が狭くなってきていませんか。別に他大と競争する必要はないのではないのでしょうか。東大にかせられた使命はもっと次元のちがうところにあると思います。
- 実業界とのつながりを強めるのも結構だが、他大ではできない基礎研究や高度の学問性を追求し気高さを守ってほしい。
- 世界的にも誇れるような研究水準を達成・維持する。そのため、応用のみならず、むしろそれ以上に基礎的研究に力を入れるべきである。同時に、学際的の分

野の開拓・研究にも力を注ぐべきである。

- 3～4年生での語学教育(英語やその他の言語含む)をもっと充実させた方がよい。専門教育をやるようになって、英語や第2外国語等の重要さに気付く人も多いのでは？
- 日本のトップに行く大学として国際的に開かれた大学であってほしいと思います。各分野で、東京大学を中心とした国際的なシンポジウムを開いていくべきだと思うし、留学制度をもっと充実させるとよいと思います。
- 絶対的日本のトップ大学であるべき。そのため、法学部においてはあからさまな落ちこぼれが生まれにくい様、積極的介入が望ましい。駒場と本郷で求められる学習のクオリティーの落差もあまり好ましくない。基礎演習やゼミ等、教官と触れ合う場をもっと増やすべきだ。
- 基礎的な研究に力を入れるべきである。10年後、20年後といった短期的な期間で成果の出ない研究をも大事にすべきであると考えます。(文理問わず)
- 授業を快適に受けられるよう設備環境を徹底的に整備すべき、例えば授業の際、講師の声が聞きとりづらいなどというのは論外。
- 東大には優秀な教授陣・研究者がいると思いますが、審議会等で時間をとられ過ぎていると思います。向こうの都合もあると思いますが、もっと彼らが研究に打ちこめるような環境を整備すべきであると思います。
 - ・基金の運用も考えるとよいと思います。
- 今以上に社会のニーズに答えた研究機関であって欲しい。そのためには、企業の寄付講座等を招致するなどして、学生と社会の接点を増やすとともに、研究者の大学・企業間の交流をさらに増やしていくべきだと思います。このことは理系のみならず、法学・経済学の分野でも実現していければ良いのでしょうか。

[法女子]

- 今の現状では、授業料、生活費を考えるに、誰もが平等に入れるとは思えません。入りたい人が入れるようもっと経済的負担を軽くすべきです。
- もっと国際化を進めていくべきだと思います。留学制度が学部によっては少ないので、さらなる充実を求めます。
- 現時点で抱えている思いとして2点あります。1つ目は、もっと大勢の学生、卒業生が愛校心を持つ大学であってほしいということ。端的な方法としては、学生スポーツの推進。運動会活動の推進、広報の推進。私が個人的に学生スポーツを好きだからという事もありますが、他大に比べ東大は応援の数が少なく、応援歌を知っている人も少ない。この状況は寂しいと思います。2つ目は、1つ目と重なる部分もありますが、研究成果が社会に貢献していること、社会生活とつながっていることを、より積極的にアピールすること。

(産学連携の推進には賛成、先年の泡盛の発売は喜ばしいニュースでした。) 様々な最先端の素晴らしい研究が社会に役立っていることをより多くの人に知ってもらい、親近感を持ってもらいたいです。日本の最高学府としての権威と、その権威にあぐらをかいているようなイメージから、「東大」と聞くと敬遠したり、いらぬ畏怖を抱く人が多いと私は感じます。優秀な研究、優秀な人材を輩出していること等に対し、正当な評価を受けるためにも、社会の人にもっと東大のことを知ってもらい、愛され慕われる大学であってほしい。そして、私を含め学生や卒業生にも、大学のことをより深く知ろうとする努力・姿勢が求められると思います。

- 10年後の東大が、学生に支持される存在であれば良いと思います。現在、独法化以降の学内改革の流れの中で、学内全体の雰囲気、過度に「社会へのアピール」に傾倒し、大学が生産する社会的資源のうち(研究はともかく)学生の育成が、ややないがしろにされている気がします。東大は現在、留学生の招致に力を入れているようですが、留学生達は大学からのアピールよりも、高校や大学の先輩などを通じた情報網をはるかに信頼しています。近頃、募集要項に示された有利な記載が選抜後に撤回されたとか、住環境が事前に聞いた条件に比べて厳しすぎるといった苦情を耳にしたこともあります。留学生に対しても日本人学生に対しても、マルチ商法のようなアピールの仕方ではなく、現実を伝えると共に、学生が「大学が提供するもの」を通じて成長する、という成果を大事にしてください。

[経済男子]

- 東大は日本の代表的大学として、常に世界のトップに君臨しなければならないでしょう。そのためにも、今現在、総長が行っている種々の取り組みに大いに賛成します。ただ、ちょっと気になるのが、産学連携について。企業と協力して研究をしていくという姿勢は結構なことですが、しかし企業に利用されているだけになることだけは避けて、常に大学として何を得られるのかということを考えながらやってほしいです。
- 特に文科系の学部ではゼミや少人数講義をもっと取り入れるべき。指定された教科書を読めば満点近く取れる講義は存在意義がない。少人数による討論・議論を通じて、プレゼンテーション能力、批判力、創造力が向上していく。教科書丸写しの講義は何の力もつかない。せいぜい試験前につめ込み勉強するだけ。3日後には忘れていく。東大生なんてもてはやされているけれど8割以上の学生はそんなもんである。学生も自覚を持つべきだが、教育する方が甘やかしすぎている。
- 日本の大学の目標となるような教育機関になってほしい。学生が自立した個人として勉強できる場を提供し、研究者が自分の研究を負担をあまり感じることなく行える場を整える必要がある。外部講師をもっと活用したりしてはどうだろうか。

- 学生が興味を持つような授業、社会に出るときに使えるような授業、自分の専門の中でもより広い範囲の内容を身につけた授業をしていただきたいです。とにかく授業がその人の専門分野の細かい所を自己満足でやっている先生がまだ多くいらっしゃる。
- ・世界一の大学。
 - ・もう少し、学生に勉学を促す。経済学部などは楽すぎる。
- 目先の利益や要望に左右されず、大学たる王道を行き、日本の大学のあるべき姿を示すべきと思う。その為にも研究の促進だけでなく、内部に向けた広報等のアプローチを充実させ、学生同士、OBと学生の結び付きを増やし、豊富な人的資源をより活用できる様な環境を整えるべきである、と思う。私大などからも良い点は学び、改善していくべきだ。
- 国際的に通用する大学。学部レベルでも海外の学生と議論するなどの交流がある。学問と実務のバランス。経済学部の講義は理論に重点を置くあまり、現実にもどのようにそれが利用されているのかや、トレンドなどがわかりづらいから。
- どの面においても一番の大学であり、外国からもぜひ留学したいと思われるような大学。学生の多様性が尊重され、勉学を重視したい人、サークル活動に時間を費やしたい人、それぞれに適した環境が整えられているといい。また、教官が授業に対して向上心を持って望んでもらいたい。
- まず、留学制度を開設して各学部1%~5%ぐらいの人が毎年（短期でもよいので）交換留学に出れるようにすべき。学校の奨励する語学学校・アパート・ホームステイなどを学生に紹介して、学生の海外留学の需要に対応できる機能を備えるべき。次に前期の駒場はかなり意味がない2年間となった。自分は経済学部4年で来年から総合商社に入社するのだが、今になってみて駒場の語学や総合科目のレベル・質・内容には意義を感じられない。将来のために生きないものばかり。とくに総合科目はムダかつ魅力ないものばかり。

[経済女子]

- 世界でトップ10に数えられる大学であってほしい。大学の教員数、学生数、研究費などの規模のわりには東大は国際的貢献度、知名度は低いと思う。その原因は東大関係者の意欲の低さにあるのではないか。埋もれている研究成果をもっと積極的に公にするとともに、講師や学生の国際交流を推進するべきである。私は経済学部3年生だが、進路を決めるこの時期にあって留学を志す知人が一人もいないことに驚いている。これは元来学生が海外志向でないだけでなく、今まで留学の機会に恵まれなかったことに起因しているのではないかと思う。
- 日本でトップであることはいうまでもなく、さらに世界でもトップクラスの大学と肩を並べるようにあるべきだと思う。学生たちが、東大に入ったことに満足

せず、さらに向上心を持って社会的に、あるいは国際的に活躍できるよう大学側からも積極的なアプローチがあるとよい。留学生との交流の機会を増やす交換留学のプログラム、外国人講師による講演などで刺激を与えていくことが有効かと思われる。

[文男子]

- 学生が東大生であることを誇りに思うような大学。誇りに思うことと東大ブランドを利用するのは別の問題である。東大というネームバリューにひかれて入学したにせよ、入った後は学びを通してより学ぶことを楽しく思えるような授業内容、システムにすべき。（進振りはどうも点数競争の面でも受験のようであり、好きでない。）また、地方からの学生の負担を軽減するため、学生寮や奨学金制度を充実させるべき。文京区は（及び近べん）家賃が高い。
- 東大が他の日本の大学をリードしていくことを継続してほしい。その割に、東大生自体はやゆされる対象にある気がして悲しいです。
- 研究のプロだけでなく、社会に出て働くためのプロも養成すると思う。例えば、プログラミングや各種資格に対する専門学部を設ける等。
- 他の大学との連携を進め、単位の交換などを認めて行き、学生がより自分の興味に即して、学べるようになればよいと思います。
- 大学は知を探求する場です。その「知」に偏りがあるのはいけません。お金に容易に結びつく「知」に重点を置いて、他の分野がおろそかになってはダメです。「こんな研究には、研究費が出ないなあ・・・」と言うような人のない大学であるべきです。実学・虚学ともに振興する大学であって欲しいと思います。

[文女子]

- 時代のニーズに応じることも必要かと思いますが、目先のうつろいやすいニーズに応じるだけではなく、今までつちかわれてきた古典（新しいモノが必ずしもイイモノとはかぎらないと個人的には少々思いますので）や世間では時代遅れとして切り捨てられがちなものこそ守っていけるのが、東京大学の強みだと思いますので、時代の流れの中で、大切なものをあっさり切り捨てることなく、これからもそれらを守り、伝えつつ歩まれていって下さい。よろしくお願いします。（特に文学部や理学部にご理解をと思います。）又、大学の先生方の雑用を減らして、研究に専念できる時間がより増えるとうろしいかと思っています。
- 文学部生として個人的に感じるのは、直接的に社会（経済）に貢献しない学問も守り、発展させていく義務が大学、特に東大にあるということです。そのためには東大には文学部のような学部にも十分な予算とサポートを充ててほしいし、そのような学問をやる人間（私も含めて）も、学問に閉じ込められず社会とのつながりを見つけ、間接的にでも貢献するべきだと考えて

います。

〔教育男子〕

- 世界に並ぶ研究機関であり、世界に通じる人材を育成する教育機関であってほしい。前者は現時点でもある程度達成しているが、人材の交流を深めて、より研究の最先端に行くようになってほしい。また、政策提言など政府のブレインとしても活躍してほしい。後者として、授業の改善は必要である。大学は遊ぶためにあるというレジャーランド化は東大にも当てはまる。ノートを読みあげるだけのマスプロ授業は廃止すべき。本を読めばこと足る授業はいらない。
- 法人化して「大学経営」として主体的に「金策」しなければならないのはわかりますが、だからといって産学連携だけに尽力したり、基礎研究を疎かにしてしまわないよう、継続的に注意を払うことが必要です。直接的にお金に結びつかない様な研究もしっかり行なうことこそ東大の役目であると思います。とはいえ、世間に背を向けてしまうのはいけません。どういった研究を行い、どのような成果が得られたのか、様々な手段を通じて広報していくことが一層求められると思う次第です。
- 「東大」ブランドの価値が相対的に下がればよいと思う。それは研究や学問のレベルを下げろということでは決してなく、他大学のブランド価値が東大と比肩するようになり、「東大＝最高学府」という言葉が誤用であるとみなが認識することである。それが日本の教育水準全体を上げることにつながるのではないか。東大はそのためにはこれまで通り自負を持って研究・教育し、また他大学との交流を深めていくべきと考える。
- 東大がどうあるべきなのか、ということを考えるのは難しい気がする。大学教育全体ではなく「東大」ということに微妙なイメージが浮かんでしまう。確かに東大のやることは影響力が大きいので、改革を行うならば進んでやっていく存在でなければならないだろう。知力だけでなく、人間性も伴った、そんな教育がなされる場であってほしいと思う・・・。

〔教育女子〕

- 学生の要望を聞くのは必要なことだと思うが、東大がどこを目指しているのかという軸はぶれないでほしい。新しいものに飛びついたり、流行りに乗ったりはしてほしくない。少しぐらい大学に不満があっても、ころころ方針の変わらないどっしりした雰囲気が欲しい。私立のようなちゃらちゃらした雰囲気ではなく、50年前も50年後も変わらず同じように時が流れているような浮世離れた空間であることに、東大の魅力はあるように思う。

〔教養文男子〕

- 最近、先生たちが学生の出席をとりはじめた（とら

ざるを得なくなった）ことに違和感をおぼえます。大学の教育は学生が主体的にかかわっていくものだと思います。ゼミの発表なら参加にある程度強制は必要ですが、講義形式の授業で出席をとる必要はないと考えます。また学内に商業施設が多く入ってくるのも少し抵抗を感じます。浮世と離れた感覚を守ってほしいので、現在の駒場くらいがちょうど良いと思います。

- 授業料を所得額に応じて徴収するような制度を作り、学生の負担の実質的な平等を目指す。アフリカ地域文化研究学科の創設。
- 全面禁煙。駒場キャンパス内もしくは近郊に飲食店誘致。
- 産学連携という言葉がもてはやされているが、そんなことをしては“お金にならない”研究をやる場所がなくなってしまう。お金になる研究は企業は放っておいてもやるものだから、基礎研究や人文などにもっと力をいれ、特色ある大学にした方が良いと思う。

〔教養文女子〕

- 第一線で活躍する人材を輩出し、かつ学問研究の先端であってほしい。本音をいうとネームバリューを保ってほしいということ。また専門分野の知識・技術のみならず、幅広い見識と良識的判断力を伸ばす全人格涵養の場であるべき。学部・学科の図書室や図書館の充実、前期教養課程のあり方の見直し、就職サポートの改善、ドロップアウトしそうな人への救済が必要と思います。

〔教養理男子〕

- どのような人材を育成するのか、独法化した今、明確にすべき。そしてその理念に従った人材育成を徹底してほしい。「教養ある市民を育てる場＝東大」であるならば、専門教育より教養教育や学生相談に力を入れるべきだし、「スペシャリスト、エリートを育成する場＝東大」であるなら専門教育により力を注ぐべきだ。

〔理男子〕

- 学部時代から国際的交流が盛んな大学であるべき。そのためには、留学生にとって魅力的であるよう研究の一層の充実を図るとともに、日本人学生の留学の条件を緩和し、又は支援を無料でを行い、経済的援助をすべき。
- 近年、学生としての自覚に欠ける東大生が増えていられるように思われる。特に野放しのサークル活動がそれを助長しているように思われ、改善が望まれる。確かに東大では今なお厳しい競争がくり広げられているが、競争の意味を理解せず単に“乗り切る”ことだけを考える学生が非常に多い。本当に素晴らしい学生もいるが、周囲がこの有り様ではモチベーションが上がらないと思う。しかし、一番問題なのは、大学側がこの現状を把握しきれていないことにある。大学は積極

的に学生と意見の交換を行い、それこそ10年かけてでもあるべき大学の姿を取り戻さなければいけないと思う。

- もう少し入学を簡単にして卒業を難しくさせると学部生の間の競争が促されて、もっと学生が勉強するのではないのでしょうか。さらに優秀な生徒にチャンスを与えるためにも授業料の免除などお金のことをあまり考えないで研究できる仕組みを作ってみるのはいかがでしょうか。
- この4年間、特に苦勞することもなく単位が取れ、もう少しで無事に卒業することができそうです。本当にありがとうございました、と言いたいところですが、ちょっと甘すぎやしませんか。授業に出席しなくても単位を取得できるとはどういうことでしょうか。これでは大学側としても、東大で学ばせることに意味がないように思います。学生の意識の問題とも言えますが、学生の質を上げたいのなら、大学としてもっと動くべきです。学生はバイトやサークルと忙しいですが、学生の本分は学問であることを大学が忘れてる気がします。以上、甘さに甘えてきた自分を棚に上げての提言でした。
- 安心して大学院に進学出来る大学であって欲しい。この為には修士課程の募集人数を無闇に増やさない、修士、博士卒の就職活動への支援などができるだろう。産業の役に立つ研究のみならず、「何の役にも立たない」学問をも支えられるような余裕のある大学であって欲しい。
- 日本のそして世界のトップレベルの大学であるために、教育・研究をさらに充実させるべきだと思う。海外との交流やさらなる企業連携を行っていくべきであろう。学生の人数が多い気もするので、少子化に伴い入試の定員を2/3程度にしても良いと思う。

〔理女子〕

- 世界をリードする大学であってほしい。学生が自ら進んで勉強する大学であってほしい。

〔工男子〕

- もっと学生の生活を支援してくれる大学になってほしいと思う。東京は家賃が高いため、家庭があまり裕福でない人たちにとって東京で生活していくのは辛い。具体的には支援の策として寮の数を増やし、受け入れ人数を増やすべきだと思う。家賃の安い寮ができれば、アルバイトで忙しく勉強する時間がないという人たちにとって大きな助けとなるであろうし、学生同士の交流が深まることと思われる。
- 高度な教育、研究ともに充実した学府であるべきであり、同時に学生、教職員とも「入学したこと」ではなく「所属していること」を誇りに思える大学であるべきと思う。自分が研究に熱心であるのは当然であるが、東大の側でもその教育側の立場から熱意を受けとり、さらに高められるよう、質を高く保つべきである。

権威によってはならない。これに加え、人材の多様性への寛容さも高めるべきだ。

- 東大は10年後も国のNo.1大学であり続けてほしい。大学という場所は教育機関であり、研究機関であるので、その両者の分野において、日本で最も充実した大学であるべく、努力すべきだと思う。そのためには、2つを分離させることが重要。教育のための教師と研究者の住み分けが必要。今のように研究者（教授）がやりたくもない授業をいやいややっているのはよくない。例えば、英会話教室を誘致するような試みは、すばらしいことだと思う。
- 基礎知識をしっかりと身につけ、学術に対し意欲のある人間を育てる大学として、他大の見本となるような大学をめざすべきである。そのために、大学は学生により意欲のわくようなカリキュラムを構成するよう努力すべきである。
- 総合大学の特色を生かし、柔軟なカリキュラムの下、国際的に十分通用する学力を備えた卒業生を輩出する大学。学生が参加できる形で先進的な取り組みを多く実行に移し、また留学生を積極的に確保し、受け入れる。
- 具体的な細かいことはどうあれ、伝統と今の社会的地位を保ち続けていければ良いと思う。そのためには各々の分野で卒業生が大きく社会的貢献をし、またそのようなことができる人材を育成することが大切だと思う。
- 世界の中での競争力を持てるような大学になって欲しい。そのためには、色々な人の能力をのばせる様なカリキュラムにした方が良い。
- 最高学府らしい、世間に流されない大学であって欲しいです。
- 日本で一番ということではなく、世界でも有名、影響力を学術的のみならず、産業、政治にも及ぼしうる存在であってほしい。それに直接影響するのは教員等の質であるが、大学入学段階での学生の質も、継続性（質の維持に関する）について考えれば重要である。東大がどのような人物を求めているかを示すのに現実的なのは、入試方法、問題、進振り制度により示すことと考える。
- 社会から求められる人材を輩出する機関となるべきである。具体的には、①Communication能力の創出、②事務処理能力を身につける。①として、DiscussionやPresentationを強制させるカリキュラムを設ける。出来が悪けりゃ留年、放校。②として、Word、Excel、PowerPoint etc、社会に出る上で必要とされる最低限の能力を身につけさせる。
- 独立行政法人化後、研究内容について、予算がとりやすいかどうかでフィルタがかかることが予想されます。しかしながら、日本一の大学として純粋な興味から来る研究に対し、その研究者が肩身が狭くなる思いをさせてはいけないと思います。そのために、外からお金をとってくる所は、とにかく外からお金をとって

このような状況を促進すること、基礎研究に対する理解を徹底すること（工学部へ、理学部の研究発表など）が必要だと思っています。外へ出る（就職する）私が、東大出身ですと、言って誇れる大学であって下さい。

- 国際的に見ても、世界的に通ずる大学。英語教育（特にコミュニケーション）の充実化、留学生とコミュニケーションをとる機会の拡大。
- 日本の利益のみにとらわれず、全世界の役に立つことを重視し、長期的な視点から必要不可欠な基礎的研究を増やすべき。
- 工学系の分野でTopであり、常に最先端、最新設備をそろえておく必要があり、義務である。

〔工女子〕

- 留学がしやすい制度・環境がもっとあると良い（単位、授業料等含む）。

〔農男子〕

- 近年東大の教育は多角化すべきだ、という説が多いが、私は現在のように学問・行政のリーダーのみを育てるエリート校としての風格を残すべきだと思う。近年若手の政治家や起業家等は教養に欠ける専門家ばかりであり、自分の専門分野には詳しいが、広い視野からの価値判断が全くできていない。日本を背負う人材を送りこむための東大を残していくべきだ。
- 学部生が学びたいことを自由に選べて深く学べる環境が整っていて欲しい。後期課程の講義があまり前期課程と変わらないマス講義であるのが残念。ゼミナールやFWをもっと充実させていけば解決できると思う。東大の優秀なactionを起こす学生は学外で活動している人が多いように思う。そんな魅力ある学生を大学がつながるような形にしてほしい。大学院生へのサポートに比べて学部生は放置されているように感じる。留学生も同様に感じるので、互いにもっと助け合えたらいい。
- 現在の東大は確かに知の一大拠点となっているが、とかく伝統に縛られがちで組織の旧弊を廃せない点や組織が巨大すぎて全体としての目標が見出せていない点、教養教育が形骸化しつつある点が問題であろう。したがって10年後には時代の先端に行くフレキシブルで機動力のある組織と東大でしか受けられない教育・研究の充実が必要である。そのため、私は従来の学問の枠を越えた研究に挑もうと考えている。東大は学部・研究科といった枠を取り払った教育・交流を目指し、学部撤廃といった大規模な改革すら考慮していくべきだろう。
- 地方から東京に出て来た人にとって、東京で生活するのは経済的負担が大きすぎる。事実、自分の友人には金持ちが多い。普通の学生生活を送りたいにもかかわらず、アルバイトを強いられて貴重な時間を削られている人はたくさんいるのではないかと思います。安

価な学生寮をもっと増やすなど、貧乏な学生でも安心して来れる大学にするための対策を打ち出すべきでは？と思っています。（私はそこまでお金に困っているというわけではありませんが、アルバイトによって勉強や研究の時間がむしばまれていると感じたことはよくあります。）

- 入学時に学部・学科を決めるべし。なんとならば、入学時に方向性が決まっているか否かで勉強そのものへのモチベーションが大きく変わり、学生生活全体が全く違ったものになる。ただ、教養で今のように学部、学科横断的に自分の興味に合わせて授業を受けられるシステムは維持するのが良いと思う。
- 日本の大学教育を向上していくために、より優れた“教育”機関であるべきだと考えます。私がこの5年間の大学生活で感じたこととして、学生と教員の両方に学ぶ姿勢が見られないということがあります。学生の立場からすれば、教官の方は研究ばかりで学生を教育するつもりが感じられず、何の能力も身に付かないままに、世間に放り出される印象を持っています。また、教官は既存の考えに捕われて、他の分野を学ぶ意識がないように見えます。これからの大学は能動的に「ヒトを育てる」ことをしていくべきだと思います。
- 学生のレベルの高い、みんなが目標とする大学。教授陣の質をもっと上げてほしい。（中にはどうしてこの人が教授なのか不思議な先生もいる。研究室や学生のことをほったらかしにしているほとんど接していなかったり。逆に圧倒するような力で押しつけてくる人もいる。）先生にも査定があった方がいいと思う。

〔農女子〕

- 変化を恐れ、内部で固まるのではなく、産業界、海外との共同研究を積極的に受け入れ、世界に目を向けた発展をして欲しい。また、人材育成機関としてのつとめが果たせるよう、プレゼンテーション能力や研究を構築していく能力など、実践的な部分に力を注いで欲しい。また、学部横断的に交流できる場がもっとあってもいいと思う。現在は学生団体に任せっぱなしで、大学側が率先したハコ作りはできないのでしょうか。
- 常に全大学のトップかつリードする立場にあるべき。駒場のカリキュラム変更を望む。「幅広い教養を身につける」ことを目的としていても、実態は遊び放けるのみの2年間になりがち。教養授業があること自体は良いが、専門授業をもっと早く受け始めるべき。（理系は特に）学生ももっと意欲的に授業を受けるべき。就活や就職してから「教養学部時代にもっと学んでおけば良かった・・・」と後悔しても遅い。
- キャンパス間での施設の充実度が違いすぎて不公平さを感じる。資金は、ある程度でもいいから公平に振り分けてほしい。弥生キャンパスは非常に不便である。
- 新しい施設は、学生生活の向上にとっても重要であり、良いと思うが、東大の伝統ある風景を大切にしたい。

〔薬男子〕

- 伝統の良さを失ってほしくない。外へ外へと向かうのは私大や地方大から進んでいく傾向にあると思うので、ぶれない強さを持ってほしい。もちろん、今の流れを悪いとは思わないのだけど、行き過ぎを懸念している。ハードの面でも外観も中身も無機質な建物ばかりが建ってきて、ほとんどがこのような建物になってしまうのが寂しい。現代的なスマートさばかり追いかけて、学生が誇りをもてる味をもった建物が建ってくれることを希望する。
- 自分は理系でしたが、数学や物理で高校からのつながりがなく、ついていけませんでした。東大教授の著名な先生方も教えるのは予備校教師以下というのが現実であると思います。語学や他の科目も人が多いので少人数制を実施すべきだと思います。研究については、世界トップレベルの研究者が多く育つような環境を作りたいと思います。大学院は量より質で勝負すべきだと思います。

〔医男子〕

- 日本を代表する大学として、世界に通用する研究者を育てるような大学になってほしい。短期で成果を求めず、目立ちにくい基礎的な研究が十分に行われるような配慮が重要である。
- 国際的な位置付けが低いと思う。(現状) 今よりも盛んな交流が行われ、共同研究がより盛んであって欲しいし、国際競争力という観点で10年後を見るのであれば、基礎研究とその相互乗り入れ、そして産学の提携は外せない項目だと思う。その中における重要な人材(つなぐ方でもつながれる立場でも)として自分が存在できれば嬉しい。
- 日本にある1つの大学ではなく、東大というブランドが世界的にも通用するような大学を目指すとういと思う。他大学でも可能な結果のすぐみえる研究は他大学に任せ、より根本的で長期的な視点での基礎研究に力を注ぐ。また学生数を削減し、本当に有能な、つまり試験に合格する能力だけにたけた人間ではなく、論理的思考や手技を確実に身につけた上で将来の展望を持った人間を育成する。抽象的になってしまうが、今の世俗化した東大から脱却し、“東大ならではの”という方向性に進むべきだと考える。
- 海外の大学へ人材が流出しないと良いですね。魅力ある研究、学習環境が欧米の大学に比して貧弱ですから。狭いアカデミズムに固執していると見せかけの海外での評価さえ低下していくと考えます。
- アメリカの大学の如く、留学生を多く受け入れ、また他国の大学に留学する環境を整える。学部間交流協定がもっと充実するとよい。他に、同窓会組織を充実させるとよいと思う。
- 学びたいと思ひ努力する人たちを受け入れ、本人の学ぶ意欲を十分に生かすことができるような教育を提供することが大切だと思います。そのためには、下宿

生のための学生寮の拡充と家賃の低額化など、経済的な面での学生支援をより一層進めて欲しいと思います。また、進学振分け制度の見直しも必要です。現行制度下では、行きたい学科に入るために点数を追い求めなくてはならず、本来あるべき教養教育と駒場の実態がかけ離れてしまっています。駒場時代に進路を考え直せるのはメリットかもしれませんが、もう少し入学時に進学先が決まっているような制度に改めると良いと思います。

- 教養の充実した大学であってほしい。行動と思考と感情のバランスのとれた、自ら考える人間が育つと良いと思います。そして教養のセンスをみがくこと。そのために自分も含めて先を行く者がそういった生き方の楽しさ、豊かさを示すことが重要だと思う。

〔医女子〕

- 民営化になっても、門戸の広い、質の高い大学であってほしいと思います。大学3年になって研究レベルの高さ、学問の充実を実感しています。自分自身精一杯東大で学習できていることを生かしていきたいです。
- 奨学金制度を充実させる。決して今のような中高時代に高額な塾や私学校に通うだけで楽に東大に入れるような状況は作ってはいけない。アメリカのエッセイ制度に相当するような人格面、特に社会貢献への熱意を見る書類とその中に嘘がないか調べる制度を作れば、東大から犯罪者は出なくなるはず。

その他特に大学への要望やこの調査に対する自由な意見

〔文一男子〕

- 降年した身からすると、1学期に英語や第二外国語等を落としても第3学期に取得出来る可能性がある一方、2学期に落とした場合、進振りに間に合うようにするのは困難です。進振りに近付くにつれて、学期毎の重要度・難易度が上がっていくのは当然ですが、最初に気を抜いた人間と、途中で気を抜いた人間への救済度の違いがありすぎるように感じました。
- 私は運動会のある部活に属していますが、東大は運動会に対し、冷たいと思います。練習場所も他のサークルと競ってとらねばなりません。東大の看板を背負って真剣に活動しているのに、ひどいと思います。練習時間よりも場所とりのために他のサークルに頭を下げる時間が長く、授業時間にもかなり影響しています。体育館や音楽練習の場所の確保にもう少し優遇していただきたいものです、よろしくをお願いします。
- 大学への要望として、部活動をしやすい環境の整備を求めたいと思います。具体的には、大会参加時の公欠の認定と、取得単位数の減少です。我々運動会に所属する者は、また文化系の部に所属する者も、活動を単なる娯楽としてではなく、全精力を傾けるべきものとして考えております。確かに東京大学には日本の学問の先導という役割があることはわかりますが、だからといって部活動を軽視されるのはまことに残念であるように思われるのです。
- 全員義務制にした方が、より「本当」に近い調査結果が得られるのではないのでしょうか。
- 駒場・本郷間の交通手段が煩雑な乗り換えを含んでいて不便なので、連絡バスを交通局や民間と連携して運行して頂けるととても助かります。JRバス関東や関東バスはTXのおかげでつくば線で余剰バスが出ているはずなので、あっさり運行してくれないかと期待していますが無理でしょうか。全国各地にある大学所有の施設、土地等を長期休暇中に一般の学生向けに開放し、宿泊・野営等に使用して頂けるとありがたいです。また、そうした情報を一元的に提供する窓口や冊子があるとなおのこと喜ばしいです。最後になりましたが、授業料の大幅値上げは避けて下さい。
- 調査について：「ポイント」を拝見させて頂きましたが、せっかくの調査なのでもう少し建設的な提言を行うような（単なるデータにとどまらない）ものにして頂きたいと思います。方法についても、これだと項目が多すぎて母集団に偏りが出るおそれがあるので、もう少し気軽に答えられる形式に改めるべきだと思います。もちろん、学生もこの調査結果についてあまり知らないとは思いますが、大学関係者がこの情報をきちんと共有し、活用しているのかはきちんとご検

討いたきたいと思います。

- このように様々な機会を利用して学内外から大学の評価を行うことは大変いいことであると思う。今後とも継続すべきと思うが、肝要なのはここで得られた結果を実際の改善に活かしていくことだと思う。是非この結果を有効に活用して行ってほしい。
- 調査票をもらい、初めてこのような活動がなされていることが分かった。組織としてのPRや、アンケートの目に見える形でのフィードバックが不足しているのではないか。
- 寮の整備（学生の何割かが入居できるように）進振りの際、面接とかも導入しては？ 禁煙はやめろ。

〔文一女子〕

- より教養教育を充実させてほしいと思う。できれば、教養教育の期間を延長してほしいが、それは不可能だと思われるので、可能な範囲でより効率的に教養教育を受けさせてほしい。具体的には総合科目の数が夏と冬学期、曜日や時限によって大きく片寄っているのをバランスよく配置してほしい。取りたいと思う授業がいくつか同じ時間に重なっていたりして取りたいものを全て受講することができなかったのが心残りだ。

〔文二男子〕

- 教養学部発行の「履修の手引き」は進学振分けの点数換算の部分の説明が大変分かりづらく、読み間違える人も多いので、具体例を盛り込むなどして分かりやすくして欲しいと思います。また、学士入学制度の広報をよく行い、制度の促進を図って欲しいと思います。また、大学院入試についても法科大学院・公共政策大学院など複数の学部から学生を募集する大学院に関しては学内生向けの説明会を開催し、入試のポイントや求める人材について説明して欲しいと思います。2・3年次から奨学金の貸与・支給を希望する学生に広報をしてほしいと思います。
- 1・2年生の教養学部の中に単位取得が可能な海外の大学への留学制度を整えるべき、今すぐにあってあたりまえだと思うのだが。授業の質が極めて低い。これが日本一の大学かと正直がっかりしたものである。学校で教えられることのほとんどがすべて学内で完結してしまっていないだろうか。本当の教養とは何か今一度検討すべきだと思う。
- 個人的には経済学分野のカリキュラムも駒場の頃から充実してほしいです。というのも東大というと文系では法学に力を入れているイメージが世間的にもあるので、将来的には偏ったイメージは無くして日本の総合大学としての地位をもっとかためるべきです。また、学生生活に関してですが、やはり費用の安い学生寮は充実すべきです。勉強するために、時間を削ってアルバイトするのは本末転倒です。東京は家賃だけでも相

当の負担ですから。

- 収入・支出に関しては家計簿をつけているわけではないのでかなり大雑把です。あと、今年から科目を切れなくなったこと、不可が平均点に算入されるようになったこと、受講科目が全て平均点に反映されるようになったことがどう影響するのか不安だし、どうしてこのようなシステムにしたのか詳しい説明が聞きたい。
- 授業内容の質の改善を行ってほしい。これは非常に難しい問題だと思うが、教授のやる気等によって、授業内容の質に格差が見られるということを実感している。一定の質を担保するための、施策・工夫等を行ってもらえるとありがたい。
- 社会科学、人文科学がとれる時間が限られていて、本当にとりたいものがかぶってしまつてとれない。さらに、社会科学は授業があまりとれないわりに取得しなければならない単位数が多い。
- もっと駒場の1年生の頃から経済学部ならミクロ・マクロ・会計ぐらいは徹底して学ばせ、2年生～3年生まで1年間ゼミを開設すべき。金融や経営など専門知識が身につかない2年間だった。1年生の夏学期から専門の授業を入れ、科目も経済で言うところの経営戦略や金融・財政など専門的なものを早くから導入していいと思う。東大文系は東大理系や他大の経済系の学部と比べ、専門性が低く就活で不利。この状況では民間企業が中心となっていく時代の中で相変わらず官公庁のみ牛耳ることでしか生きていけず、民間においての東大の需要・プレゼンスは間違いなく下がる。理系の研究レベルの高さに比べ、文系（私大）は官公庁以外パツとしないのもっと専門課程を前倒しし、アメリカのように認定を厳しくして、卒業を厳しくすれば学生は勉強し、レベルUPする。
- 最近駒場においてもゼミが重要視されてきていて、大変すばらしいことだと思うが、ゼミの多くは5限に開かれているため、部活などのある人は参加できないという現状がある。大学の最も重要な行動は人との交流の場を提供することだと思うので、ゼミをもっと増やし、より多くの人達が参加できるようにしたら良いと思う。

〔文二女子〕

- 冬学期の教養学部総合科目の開講数を増やしてほしい。時間はあるのに興味を持てるものがあまりなかったり、作りたくないのに空きコマが無駄にできてしまった。また、教養にするという点ではいいのかもしれないが、語学以外の授業に関し、基礎を飛ばして応用の端くれを聞いているばかりで、非常に掴みどころのない印象を受けている。あと、施設に関して言うと座りにくい椅子が多い。でも最近お手洗いがきれいになってきているのは有難いです。

〔文三男子〕

- 従来の進学振り分けシステムでの負担に加え、カリキュラム改革により方法基礎あるいは英語演習などが加わったことで文三生の負担が非常に大きくなっている。増えた必修科目は、総合科目などで選択制にしない限り、負担が大きすぎて他科目に手が回らず幅広い教養修得に支障をきたす。より自由に学べる形にして欲しい。
- 進学振り分けでは試験の点数だけが基準となっているため、希望する学部へ進学するにはどうしても点数を気にしなければならず、自分が興味のあるものではなく、点数のとりやすさを判断基準として授業を選ばざるを得なくなることがあります。興味のある授業をとって希望の学部にいけないよりは、興味のない授業をとってでも希望の学部に行きたいと考えてしまいます。うまく授業をとって、学校へはあまり行かず、点数だけは多くとっている人もいます。頑張った人が希望の学部にいけるようカリキュラムを改善してほしいです。
- 文二、文三からの法学部への進学が文一からの進学に比べて難しすぎると思う。「入学後に進路を選べる」ことが美点のはずなのに、実際には結構難しい。文一以外からの法転は一例で、他にも文系からの理転も枠が狭いように感じる。科類分けをするならあまり進振りの意味がない。
- 文系科目が理系学生にも学びやすいのに比べて、数量を多く使う理系科目では文系学生に必ず不得手とする人が出てしまう（後期入試入学者など）。文系の視点を活かして大局を学べる理系科目をもっと多く設けてほしい。現行のカリキュラムではE・Fなどの総合科目の文系学生に対する配慮がまだ欠けていると感じる。
- 新課程は間違いなく改悪です。特に、欠席した試験を平均点に入れる制度は廃止すべき。必修科目の数も絞るべきで、情報という科目は単位に含めるのではなく別に講習会を開いた方が良い。進学振り分けも将来的には廃止の方向で進めてほしい。入学時にある程度学科を選択できるように。教養課程も1年でよい。早く専門に進んだ方が学生にとって有益である。駒場の2年目は進振りを廃止し、専門過程への準備期間とすることを強く要望する。
- 「学生の負担」という言葉は何度も叫ばれたが、経済的な問題はまだまだ改善できるはず。幸いわたしは比較的恵まれているため「負担」といえばカリキュラムのことを考える。だが、もっと根本的な悩みとしてお金を考える学生は少なくない。たとえば、かつての札幌農学校がなぜ優秀な人材を輩出できたかといえば、金はなくても気概だけはあるような若者に衣食の保証をしてやることで、「ひたすら勉強に打ち込める環境」を作れたことにある。そういう意味で「不安なく学べる」ことは大学にとっても確実にプラスになる。可能性の芽を経済的要因などで摘み取ってはいけな

い。たとえ学費増加が国の方針でも、それに流されてしまうべきではない。

- 教務課の生徒・学生への態度が酷いです。権利、義務関係からいってお客様として学生を扱えとは主張できないのかもしれませんが、それにしても随分酷い。市場化テストでもやったらどうかとも思います。愚痴っぽくなって済みませんが、そこら辺のアルバイトの方が余程礼儀正しい。あと、この他にも学生の扱いは舐めてかかっているところが見受けられる。履修進学関係の手の案内なども郵送してはどうか。
- 駐輪場に屋根をつけてください。本郷キャンパスのバイク乗り入れを規制しないでください。余計な建物をつくらないでください。
- 開成から東大に来て、失礼ながら教員の質が落ちたように思います。教員の質を高めるために、採用の際はより厳密な審査をして頂きたいです。

〔文三女子〕

- ・外国人留学生と在校生が積極的に交流できるような企画があるとよいと思います。
・進振り制度には検討の余地があるのではないかと思います。希望の学科に進めずにやる気をなくす友人がいるので。入学時に学科ごとに分けて取り、その上で特に希望する生徒で成績の優秀な者に転部・転科を若干認めるとするのがいいのではないのでしょうか。
- 文科3類生への負担が大きすぎる。今学期は必修が新たに3つ増えた上に、ちゃんとした希望の学部に入るために点数をとることを考えなければいけない。単位さえとればよいと思っている文1・2生とでは全然違う。これで希望のところへ行けなかったら最悪だ。心理的な負担も大きい。
- 文3の方法基礎イマイチです。必修を減らして、総合科目をもっととらせてほしい。時間割的に同じ時間に面白い授業集中しすぎ、授業のない時間帯多い。(木2・火4など)。
- このアンケートに対する報酬がほしいと思う。とても長いので。
- 教養学部前期課程において、幅広く教養を深めるといふ名目であるにも関わらず、実際には教官は自分の専門分野に特化した授業をしており、一般的知識・教養を身につけられる講義がとても少ないように思う。しかもその上、そういう前期課程の状況を3・4年生向けの授業を行っている教官たちは知らないことが多いように感じる。1・2年生で専門的なことをやらないことに関する良し悪しもあると思うが、現行のやり方を行うなら行うで、実際に一般的教養を深められる講義であるかどうか、大学側にもしっかり検討すべきだと感じる。
- 進学振り分け制度が点数だけで判断される仕組みであることには疑問があります。自分の進学したい学部へ行くために必要だろうと思われる教科をとり、その点数などで判断されるのならいいのですが、単純なる平均

点では良くないと思います。学生でもたまたま点数が高いから人気の学部に行き、後悔する人がいます。また大仏教師、大鬼教師という観点で授業を選択する学生が多いことも納得がいきません。ぜひ進振り制度の見直しをはかってください。

- 現在三鷹国際学生宿舎に入っているために生活費の負担が大変軽減されている。私は、住居費が1.5倍になっても良いからこのような宿舎を新たに建設し、負担を軽減した生活が、多くの学生に実現すれば良いと思う。

〔理一男子〕

- 国立大学が法人化したのが、東大も金儲けに走り過ぎているのではないかと。その姿が私には非常に醜く見えてしまう。私がおのうに思ふのであれば、いづれ世間の人もおのうになるのではないかと。また、今の東大は優秀な官僚が育つ環境であると思うが、一方で秀でた大物の学者が育ちにくい環境であると思う。理由は進学振り分けと必修科目の多さである。それが東大の方針であるのかもしれないが、ともかく、今の官民一体だとか拝金主義、成果主義といったものに流されてはいけないと思う。また、国際化を進めるのはあまり賛成できない。なぜなら、これからの時代、石油を始めとした化石燃料が枯渇していき、非国際化が進むと思うからである。
- 駒場でも入試時、及び在学時の成績詳細が開示できるようにして欲しい。机が小さい。
- この東京大学に苦勞して入っても進振りのために希望の学科に行けないのでは、東工大や京大で初めから希望の学科に行っておけばよかつたと後悔するかもしれない。そもそも皆が「東大は進振りでは好きな学科を後から選べる」と言うが、希望していても、点数が悪ければ入れないので表現が間違っている。
- ・駒場の食堂が昼、混ざつしすぎで嫌です。何とかして下さい。
・もう少し自主性を尊重するカリキュラムにしてはどうでしょう。必修科目によって総合科目の選択が大幅に狭まっています。「大学とはどういう場なのか?」という事をよく考えるべきです。
・最後にもう一度書かせてもらいますが、「進学振り分け制度」は本当にダメな制度です。もう既に東大出のすばらしい若きリーダーは皆無だと思ひます。ノーベル賞にしてもそんなに東大出は多くないです。(科学部門は)個性のない大学になってしまった一因は「進振り」にあると思ひます。
- (駒場に)屋内の喫煙スペースを設けてほしいです。外は冬は辛いので。きちんとルールを設け、minorityを排除しない姿勢こそが、真のマナー向上へとつながらないかと思ひます。歩きタバコをなくす為にはこれが一番だと思ひます。
- 必修科目をクラスごとに割り振らないで下さい。同じ科目でも教官によってえらく違うのだから、自分に

合う講義が取りたいです。時間割りの改善をお願いします。とりたい総合科目が必修のせいで取れないことも多いので。

- 教養学部へ。学生会館運営委員会に協力してあげて下さい。

学生生活委員会様へ。誠に僣越ながら、こちらとしても貴重な睡眠時間を削ってこちらのアンケートに臨んだ訳でございますから、ここは一つ、クオカードか何かを頂戴できませんでしょうか。

- 自分は本当は部活がしたいけど、実際に部活している方々を見ると、確実に勉強を妨げていて、実際多くの方々が留年をしている現実を見ると、やっぱり部活をする勇気は出ません。その為に現在は何もしたい事がなく、ただ4年間を過ごすのだろうという虚無感しかありません。このような大変みじめな思いを先輩にはして欲しくありません。どうにかして部活をしている方を助ける制度が欲しいと思います。
- 大学に入ったら好きな勉強ができると思っていました。でもそんなことはありませんでした。理系でドイツ語とかやる意味を全く感じません。教養でたしなむ程度ならよいのですが、週2日のドイツ語の授業のために毎週何時間も予習をせねばならず、その結果好きな科目（本来理系の人々が主として勉強すべき物理や数学）に時間をさけないのでは本末転倒ではないでしょうか？ たった1年の授業で身につくわけがないし、第2外国語の存在意識をもう一度考えなおしてほしいです。ドイツ語ができないせいで、物理はできるのに物理学科へ行けないとか、ばかげてます。進振り制度も見直してほしいです。
- 学生の声にもっと耳を傾けてほしい。学生の中には、熱い考えをもった人達がたくさんいる。そんな人達の声をもっと学校全体に行き渡すことができるような制度があるといいと思う。良い意見が通らないのでは話しにならない。
- 質問41には恣意性を感じる。つまり、重要度を無理に上げようとしているようなところがある。履修登録をネットで行っているが、期限をすぎたらアウトで救済措置がないのはキツいと思う。U-Taskの対応が遅く、システムも不安定で改善が必要。
- 教職科目を一年が履修できないのが何故なのか分かりません。理由をしっかりと説明してもらいたい。できれば2年次や進学後の負担が大きくなるので、一年次にも教職科目を履修できるようにしてほしい。
- 質問等があったときに教官がいる場所がわからないなどして聞けない。わからないままの時があるので、質問室のようなものを設置してほしい。
- 幅広く教養をつけさせるという当初の目的があった進振りが、点数の面でかえって学生の足枷になってしまっていることに気付いてもらいたい。
- 家がパソコンをできる環境になく、また自分自身パソコンが苦手なのでU-TASKによる登録が大変です。実際知らないうちに追試験の登録期限がすぎていて受

けられませんでした。

- 教授の方々のやる気が足りない。生徒は熱意のある人にひかれるのであり、教えたり、夢を語れない人は教壇に立たないで欲しい。
- 駒場の学食が新しくなってきれいになったのはいいのだが、スペースにまだまだ余裕があるのに、座席の数が少ないので、昼時はとても混雑していて不便である。もっと効果的な席配置にしてほしい。
- (学生団体等を通してではなく)各学生の意見を直接吸い上げられるシステムを各部署に整備すべき。(教養学部を設置された目安箱のように)。
- 新カリキュラムの欠席した科目も点数に加えるシステムは学生の好奇心の妨げになると思います。
- 集計結果を発表するのに時間がたち過ぎていると思う。
- 時間割をもっと自由に組めるようにしてもらいたい。(1、2年生時)
- インターネット上でのデータ集計にしてはどうか。U-taskなどで。
- 必修コマ数が非常に多過ぎると思うので、一部を準必修化するなどの措置をとってほしい。
- 1年冬学期があまりに忙しくて、この調査書に回答するのが大変遅れてしまいました。学生個人の生活実態は常に変化していくものなので。(例えば自分の場合、最近突然アルバイトを始めた。この調査書が届いてから回答期限の間に家庭の収入事情が急変した、等のことがあった。)より正確な実態を調査するために、もう少し調査方法を工夫する必要があるのでは、と回答してしまいました。
- 大学をよりよくしていこうという向上心があり、この調査は誠に素晴らしいものだと思います。僕にとって今の大学はとても充実した生活を過ごせる場所であり、多くの興味深い講義、また学生生活をサポートする生協や図書館等の施設が整えられた環境にあると思います。しかし、変革の時を迎える今、現状に甘んじず温故知新の心で大学がよりよくなることを期待し協力できることはしていこうと思います。
- 学生の自治を制限しすぎている節が所々見られる。もしくは大学側が(特に駒場において)学生の活動に非協力的であり、世間的にも評価が高いサークル(テニスサークルのトマトや、広告研究会など)には何か援助的なことをしても良いと思う。東大自体固いイメージを世間から持たれているし、実際に大学の対応も冷たい、事務的なものが目立つ。
- 進振りは極めて良い制度だと思いますが、そのせいで前期と後期の間でカリキュラムに一貫性がないことは問題だと思います。前期課程の必修科目には内容的にその意義を疑うものも多いです。もっと各学部との連結を考慮して頂くか、あるいは前期のカリキュラムをよりフレキシブルな制度にして頂いた方が合理的だと思います。

〔理一女子〕

- 調査を活用して、学生にとってよりよい生活が送れるようにしてほしい。特に高学費の問題やカリキュラムなどは改善してほしい。また進振りや就職についても漠然とした不安がある。説明会やガイダンスなどを充実してほしい。理一の女子は少ない。男子のみのクラスを作るなどして、1クラス当りの女子の数をもう少し増やすことはできないか？ また大学として、女性に対する広報があってもいいと思う。
- 本郷の図書館に一般書をもっと置いてください。教職をもっと取りやすくしてください。現状では理系にはムリです。

〔理二男子〕

- 入試でいい成績で入っても進振りに何も利点がないのはおかしい。理系から文系にも行けるので進振りは悪い制度ではないと思うが、大学の授業はわかりにくいし、将来つかわないことまで真剣にとりくまなければならないのはおかしい。進振りの点を上げるためにいい点のとりやすい授業をとることになり、自分の興味のある授業がとれない。もう少し考えられたシステムにすべきである。
- 必修多すぎです。取りたい総合科目が取れないことも多々あります。後、試験を受けなかったものまで1/10で点数に入れてしまうのはあまりにひどいと思う。
- 年間通して、授業の行われぬ完全な自習室（自習・談話・待機）を構内に点在させ明らかにしてほしい。自転車置場の拡張、屋根の設置。情報棟などの傘立てを更に盗難されにくいものにする。
- 大学内で紙の無駄が目立つ（アドミニストレーション棟や部活・サークルのチラシ）。もっと需要を考えるべき。
- 大学に入学するまで進振り制度はもっとフレックスなものだと思っていた。しかし、現実とは違った。今2年の自分より下の代からは全科類枠というのができるが、もっと拡大して、完全実力主義にすればいいと思う。あと、進振りの情報を地方の東大を目指す子たちに教えてあげたほうがいい。本当にやりたいことが決まっている子なら、それが学べるかわからない東大にくるよりも、学部を入学時に決めた方がよりよいってことも考えられるから。知らせないのはかわいそうだ。
- 本郷キャンパスにおいて、医学部や工学部、薬学部などは続々と新しい建設物ができていますが、文学部や農学部ではその様子が見られないように感じられます。特に農学部は他の学部から外れた場所にあるため、学生は弥生キャンパスで完結した生活を送ってしまいがちです。なので、できればもう少し居やすい環境を配慮してもらいたいです（特にトイレ！！）。
- 優・良・可でなくて、はっきり点数を出した方が面倒臭くなくて良いです。
- 海外の大学との単位互換・交換留学などの仕組みを

整えて欲しい。特に有名な理I系大学（カルフォルニア工科大、マサチューセツ工科大etc）との。

- 弥生キャンパスをもっと充実させて欲しい。
- 駒場の教務課の対応が悪すぎるので改善してほしい。

〔理二女子〕

- 進振り制度やカリキュラムに少し不満を抱く。理系の必修科目が多すぎ、また、上位16単位以外も成績に算入することによって、総合科目を自由に取ることが出来ない。教職科目を取るのも大変すぎるように思う。理II・IIIは数学が2学期まで必修化されたが、かなりの負担で、演習などは必要ないように感じた。理Iの生物は1学期で終わる点も疑問だ。理II・IIIとIとで分けているのだから、II、IIIの生物の授業を充実させてほしい。大学入試の方が難しい内容を扱っていたように思う。
- 理二の学生にとって、2学期も数学が必修になったことはかなりの負担です。特に生物で受験した場合（生物が好きで、生物系に進みたい場合）数学3コマ、電磁気学、構造化学、化学・物理実験というのは、これだけでもとても消化しきれぬ量ではありません。構造化学にはどうしてBコースがないのですか？ 高校で物理をやっていないと、振動等に関する簡単な公式も知りません。それを当たり前のように使われるので、今とてもついていけません。
- 弥生キャンパスが汚いです。せめてトイレだけでもきれいにしてください。

〔理三男子〕

- 駒場～本郷間の交通費が負担になるので駒場に通う学生でも本郷に行くための定期を取りやすくなるようにしてほしい。この調査に関しては、各設問の選択肢がどういう観点から列挙されたのかが気になる。中には自分が思う選択肢がないものがある。（ex.設問14）その他の欄も小さい。学生の側の意見を吸い上げようと思うなら、回答の書き方についてももっと神経を配って欲しい。（選択式にしないと、回答しない学生が増えるとは思われるが）
- 大学構内の清掃を学生が優先的にできる（採用される）アルバイトにしてほしい。バイトが忙しくて生活にゆとりがない人の負担を少しでも軽減できると思う。
- 自分は理科Ⅲ類で、進学振り分けにはそこまで気を取られず自分の勉強ができた。周囲が「点数」ばかりを気にし、「シケプリ」や「逆評定」で点を取るためにやっているのを見て残念に思う。文I、II、理Ⅲについては、もっと教養時代から専門を見すえた別プログラムがなくてはならないと思う。1年半、興味を持って大学入学をした分野について何も教えてもらえないのはモチベーションの低下にもつながる。教養主義の上に立った専門プログラムの新設が必要だ。

- カリキュラムをもう少し変えてほしい。具体的には（自分の場合）M2：医学科4年での負担が大きいため、現在余裕のある教養1～3学期にいくらか移行したほうが良いと思う。教養も大切かもしれないが、まず専門が必要なのは。（例えば4学期の生化学・統計学を1～3学期で終わらせる等）

〔理三女子〕

- 教養課程の授業は、理系の進みたい学科が始めから決まっている学生にとってはあまり充実していないと思う。望めば専門の勉強も進められるようにした方がよい。

〔法男子〕

- 法学部の建物が古く汚く、設備も古すぎる。教室・ゼミ室（演習室）は黒板と椅子・机しかなく、スクリーンなどを使いプロジェクターを使ったゼミ発表などできないし、読書室（1F・3F）で勉強すると体調が悪くなるという人すらいる。また、3Fの奥は何だか訳の分からない廃物がゴロゴロしていて不潔。とてもきれいで新しい設備の整った経済学部などと比較すると、同じ授業料を払っているのにこんなにも学習環境に差があっても良いのかとはなはだ疑問に思う。
- 現在法学部はバリアフリーの一環としてエレベーターの設置工事をしていますが、私はそれ以前にすべきことがあると思います。トイレの洋式化や休憩ラウンジの拡充、ペットボットの自動販売機の導入などです。他学部、特に理系学部の建物と比べると、私の所属する法学部の建物は外観の趣があるのは良いのですが、清潔感や設備の充実性で劣ることは否めません。やはり法学部は予算が少ないのでしょうか。
- ・本郷でも語学の授業を。
 - ・TOEIC900点程度で単位認定
 - ・東大生用のインターンシップ実施
 - ・ウィンドウPCの台数を増やす（マックだとリクナビ等就職で不利を受ける）
- 親の年収を聞くのはどうかと思います。アンケートに対して粗品等をいただくと、アンケートに答えた甲斐がある。
- 法学部の図書館は学部生への貸し出しをしてないので、すごく不便だ。そういう伝統なんですかね。
- 図書館の開館時間が短かすぎます。平日総合10:30、農学部で10:40PM。早稲田は24時間開いているのに。しかも土日はお環境が悪いです。総合が7:00、法学部でも9:00PMまでです。学生は使える所を探してさまよっています！！どこか一カ所、ワンフロアでいいので24時間使える自習室を作って下さい。本郷周辺の喫茶店で遅くまで勉強している友人が多いですが、私はそのために使うお金のゆとりがありません。学食や生協などの設備は二の次でかまわないので、まず学習環境を整えて下さい。お願いします。
- スポーツへの理解と援助。講演・セミナーの開

催・・・学生の問題意識や知的好奇心を喚起するにはこれ以外ないと思う。いろんな分野からいろんな人を呼んできて話をしてもらったらいと思う。アメリカの有名大学ではほぼ毎日どこかで誰かが講演セミナーをやっている状況らしいのに、何故に東大はこういうところをマネしない（で他のどうでもいいようなところにお金を費やしている）のかと不思議です。

- 教養学部、法学部の職員の皆様にはいつもお世話になっていますが、掲示関係のミスが何度かありました。窓口で直接質問・指摘した際にも、開き直りのような対応を受けたことがあり、残念でした。誰しもミスがあるのは当然のことなので、それ自体は構わないのですが、ミスがあったら何事もなかったかのように後から掲示をするのではなく、間違いがあった旨の掲示（事実の報告で充分です。決して謝罪を求めているわけではありません）をしていただくと助かります。
- 奨学金制度を充実させてほしい。現在はもらってもほとんど家賃に消え、勉強のためのお金は残らない。特に東大は都心にキャンパスがあるため、近隣の住宅事情には厳しいものがある。
- 授業としては少人数制によるゼミ形式の授業をもっとふやして欲しいと思います。就職活動をしていて感じましたが、他の大学は一、二年生を対象とした相談会や説明会がたくさんあるのに、東大にはなぜないのか疑問です。まだまだ就職活動に対するサポートが弱いように感じます。
- ・法学部の建物は他の学部比べてボロすぎる。歴史のある建物なのでやむを得ないと思うが、できるだけ改修等してほしい。
 - ・期末試験答案の返却、採点の講評などを行い、学生の勉強に役立つようにしてほしい。
- 頭ではやらないといけないことはわかっている、法学部のマス授業をわざわざ聞きに行く気にはなれない。より少人数で双方向の対話が可能となる授業を望んでいる。今のままでは理系学部と法学部で授業料がかわらないことも納得いかない、ぜひ再考してほしい。
- 大学合格直後に入学、という1つの道だけでなく、例えば合格1年後に入学できるなどの選択肢があると良いと思う。例えば、その1年の間に海外へ行くことで、向学心がぐっと湧くということもあるのではないかな。
- 法学部のトイレが異常に旧式。文学部とか新しいのだからもっと改善すべきかと。同じ大学院なのに、法科大学院だけ授業料が高すぎると思う。法学部・法科大学院ともに、学部成績や入試情報についてもう少し情報公開すべきと思う。
- 図書館、情報棟の充実を要望いたします。

〔法女子〕

- 法学部の建物内をもっときれいに改装してほしいです。今は女子トイレの便器のフタがとれてトイレの床に放置されていたりします。法学部の授業は大教室に

何百人も学生が詰め込まれ、前で教授が一人淡々と授業をしている状態です。費用がおりないからと言ってレジュメも配ってもらえません。(各自印刷しなければならぬ) 私達法学部の学生が払っている学費は一体何に使われているのでしょうか?全ての学生がなるべく均等に利益を享受できるよう、予算の配分をしていただけるとありがたいです。

- 駒場の教務課の態度がおかしい。1 サービス業として法人という意識がなさすぎる。一般企業だと絶対クビになるような人ではなく、サービスとは何か?というのをきちんと考えられる人を雇ってほしい。
- 法学部のラウンジ、トイレだけ、異常にきたないと思います。同じ学費を払っているのに、他学部があんなにきれいで腹だたしい限りです。
- 寮の自治運営には「全員が仕組みを理解した上で、等しく労力負担し、互いに協力する」という前提が不可欠です。しかし現在白金学寮では、東大全体での私費留学生の増加に伴い、入寮希望者が激増し、留学生が5割を越える中、「日本語による運営が十分に行き渡らない」「(労力負担や相互協力の前提を理解せず)ボランティアの運営委員が寮生にあらゆる便宜を図るのが当然であるかの態度で、非常識な時間に集団で押しかける」など、様々な問題が生じています。この現状に、何とか金銭的な工夫のできる日本人学生が次々と退寮し、一方で、留学生許可者に限度を設けようとすると、教授会等を通じて「選考の透明性を強く要求する」圧力がかかることから、白金学寮を脱出できない、真に貧困状態にある日本人学生に1ヵ月で1年分老ける程の極めて過大な負担がかかり、その結果、更に学業や健康な生活に重大な支障をきたす、という悪循環が生じています。それでも私達は現在、留学生と共生し、かつ、旧駒場寮の轍を踏まないよう(学外組織活動体など)非本来的な者に運営を操られることのないよう、最大限の注意と努力を以って自治運営を維持していますが、強く限界を感じています。困窮日本人学生が現実に学業と両立できる寮費・運営方式の寮と、留学生数に合った学寮準備をお願いします。
- 法学部ラウンジやロッカーの汚さ、ゴミブリをなんとかしてほしいです。

〔経済男子〕

- 東大本郷の景観が悪くなっているのが残念。新しい建物がキャンパスの雰囲気に全く馴染んでいない。新しい建物を築くなら、もっと古い建物との調和を考えると、そもそも本郷はやめて、柏に建ててほしい。建物だけでなく店舗もそうだ。普通に考えて本郷にスタバとかドトールがあるのはおかしいと思います。必要あるのかと不思議に感じる。本郷の独特の雰囲気の中にそんなどこにでもあるコーヒーショップとかコンビニ入れて意味あるんですか?それなら本郷通りに立ち並ぶ古書店とか入れた方がよっぽどためになると思いますが。

- 本郷キャンパスがどんどん統一性がなくなっている。歴史のある建物の中に法科大学院や経済学部新棟のような不均一な新しいものを入れないでほしい。英オックスフォードやケンブリッジに行ったときに感じたキャンパスの美しさを東大には感じない。
- 文I・IIも進振り制度を導入するとの話だが、結局のところ学生の関心は試験勉強に向かうのみになり、本来の勉強をするようになるとは思えない。これまで通り、ほぼ無条件に文Iなら法学部、文IIなら経済学部へ進めるようにすべきである。
- この調査自体は協力するインセンティブが、個別的にも全体的な意義としてもなさすぎる。例えば、これを書くことにより、具体的に何かが変わったという実感もなければ、図書券などの配布もない。もっと人々、組織のインセンティブ構造を考えて、システムを抜本的に変えることが東大を変え、日本の大学、高等教育をかえることにつながると思う。
- ①自習室を開放してほしい。本郷の総合図書館が閉館している日は、学部図書館が混雑していて自習できない事がある。②教務課の昼休み時間を見直してほしい。学生の休み時間と同じ時間帯に休んで、学生にいつ行けというのか。
- 教員免許の取得を考えている人にとってカリキュラムが厳しいです。教職科目の拡充をお願いします。

〔経済女子〕

- 学生アンケートが授業内容・形式の改善に生かされていないように感じる。授業に対する学生アンケートから、それ相応のフィードバックが教授陣になされるべき。(人気のない教授は訓戒等、具体的処分)

〔文男子〕

- この意見が参照されて、大学の充実に貢献できるのなら大変嬉しいです。実際に入学してみて、地方出身の自分にとっては金銭面や時間において実家生と大きな違いがあることを実感しました。皆が伸び伸び学べるよう、学生の地域差を考慮して頂き、大学の所有する比較的家賃の安いマンションなどがあると嬉しいです。帰省など地方出身者は本当に出費が多いのです。
- サークルの利用できる施設が少ない。特に本郷で活動に支障があり、困ってしまうことがよくあります。何とかして下さい。

〔文女子〕

- 入試がおわったのに同じように試験だけで判定する進振りはまちがっていると思う。受入る研究室と学生が対話してから入るように、それまでの試験結果に面接を加味すべき。駒場の事務方が権限を持ちすぎでは。又、駒場は新しさが売りだからまだしも、本郷の建造物は昔ながらの形で建ててほしい。百年先も美しく伝統ある大学でいてほしいから。今のガラス張りの建物は10年で価値がなくなります。

- 学問や研究が発展しさえすればよいのか？学生への配慮が足りなさすぎる。教務課の開室時間を見ると、例えばまれであるとはしても、全コマ授業を埋めている学生は、いつ教務課へ行けるのか。“学生がいかに学生生活に集中できるか”を軸に運営すべき。また、図書館は24時間使えるようにすべき（アメリカやヨーロッパの大学はそうなっているらしい）。

〔教育男子〕

- 東大は教職がとりにくいとされていて、実際にそう思います。介護体験等の手続きも厳しくされます。自分は本気で教師になりたく、東大という高い所で自分を磨いて教師なろうと思うのに、少し厳しすぎるように思います。教職取得希望者にもっと理解を。
- 独立行政法人化にともない東大も少しずつ変わってきた。まだまだ改善すべき点は山積みである。この調査が価値あるものでありますように。
- 前期課程に顕著だと思うが、学生へのケアが足りないと思う。特に学問の側面に関して、東大は積極的にスキル教育をしているのか。文献を検索し、適切な注をつけてレポートや論文を作成するというスキル（これは一例にすぎないが）をきちんと身につけさせているのか。私の実感では、東大の先生方は「学生は放っておいてもそのくらいできる」と考えているように思えてならない。果たして本当にそうだろうか。実態を把握してほしい。

〔教育女子〕

- 文系の実学とは呼べないような学問を大切にしてほしい。理系の学部や法・経などにばかりお金を露骨につきまかれると、悲しくなる。歴史と伝統のある強い大学だからこそ、無駄を大切にできる空間であってほしい。学生に対して、厳しい態度でのぞんでほしい。学生が求める形に大学があわせるのではなく、大学の求める姿に学生を変えていくぐらいのパワーが必要だと思う。

〔教養文男子〕

- 授業について。特に教養課程の科目のうちで基礎となる科目（文系の方法基礎など）では大学で学ぶ学問の基礎となる概論のような形で統一的な授業をしてほしい。現状では先生方が研究している細かい（マイナーな）テーマを披露する授業が多すぎると思う。教養課程なので様々な知識を得ることも需要だと思うが、専門課程に入った時点で学んでおくべき知識を授業で得るのは困難だったと思う。駒場にも就活サポートセンターのような施設を臨時でもいいので設置してほしい。
- 図書館・各施設の24時間開館

〔教養文女子〕

- 学寮の定員を増やして下さい。

- ・進振りについてですが、1、2年と3、4年のキャンパスが別で行動範囲も別、教授陣も別ということが、専門分野の選択を困難にしていると考えます。ガイダンスだけでは分からないと思います。
- ・今回このアンケートに記入してみて、自分ちがけっこう貧乏な方だということを実感しました。

〔教養理男子〕

- 教養後期（人文地理）に所属していますが、駒場図書館が殆ど役に立たず困っています。わざわざ本郷の総合図書館に出向かなければ入手できない論文が多く、駒場と本郷の格差を感じます。改善を検討願います。
- ・4年の秋・冬は卒論等で非常に忙しい時期で、精神的にも緊張の強い時期です。無作為抽出とはいえ、上記の点最も理解の深いはずである大学当局が、そういう時期にある4年生にこうしたアンケートを求めることは問題ではないでしょうか。せめて時期を外す（6～7月頃）か、4年を抽出の対象から外す等の措置を検討されるべきと考えます。
- 駒場にもバイク駐輪場を作って欲しい。

〔理男子〕

- 理学部も工学部のように英語教育について考えてほしい。普段英語教育をしていない割にエリート・プログラムといって海外の大学に行けるプログラムの参加者を決める際に英語の面接をしたり大学院入試でTOEFLを要求するのは理不尽だ。一部の帰国子女を優遇しているように思えてしまう。機会は均等になるよう配慮すべきだ。また理系学生が必要としている英語力は教養学部の英語Ⅰとはかけ離れている。このギャップをどうにかしてほしい。
- 東京大学が求める高等学校までの学習内容を提案してみてもどうか。現在のいわゆる「ゆとり教育」についてどのように東京大学が考えているかは分からないが、今後の教育の目安になるのではないか。
- ・理科三類に優秀な人間が入学するのは結構だが、才能の無駄使いが気になる。おそらく彼らも他の学問の存在を知ればそちらに興味が向かうのではないか。理科三類を廃止すると多くの落伍学生が進振りにより生じてしまうだろうから、医学部を大学院に移してはどうかと思う。
- 学力低下を懸念して演習を増やすより、実験などをすべき。あまりに学部・学科間でカリキュラム上の忙しさが異なっている現状を打破する必要がある。
- 調査の集計結果をもっと早く公表してください。傾向とその原因の分析には時間がかかると思いますが、統計的な事実のみをまとめて中間報告のような形で早い時期に公表することは可能ではないでしょうか。
- 日本は学生の経済的負担が大き過ぎるのではないかと思う。特に前期課程は授業で教える範囲も広いせい、専門外だからよく分かっていないのか、理解しづ

らい授業を行う教員が多いです。後期につながる基礎となる部分だけに、もう少し教える技術を先生自身が学んでほしいと昔思いました。

〔工男子〕

- 東京大学の学生という、一般の人にとって良くも悪くも先入観を持たれやすく、大学名を言うのに躊躇してしまう。大学の責任ではないのだけれど・・・。進学振り分けについて、進学先の学科の情報をもっと細かく公表すべき。ガイダンスのみでは全く不十分。点数だけで選び、進学後適性がないことに気づき、私はそれが理由で一度留年しました。
- 全学生に同じことを求めるのではなく、各自の事情を汲んだ対応をしてほしい。部活動に専念するということと勉学・研究環境を十全に確保するということの両立が大変難しく、個人の努力のみでは如何ともし難いのであるが、何とかなるまいか。私は実際、この事情から意欲を削がれた一学生である。
・この調査に関して、理工学生からすれば何と答えてよいかわからないものがいくつかみられました。より幅広く質問を作って頂きたいです。
- 早く研究室に入れるようにして欲しい。(3年次から入りたい。) 1、2年次のカリキュラムが緩いため、自分も含めて多くの人が勉学を怠っていると思う。他大との競争力をつけるためにも早いうちに専門課程に取り組めるようにして欲しい。
- 教養は面白いし多少は必要だと思いますが、そこまで長い時期はいらぬ。理系が文系の科目をいくつ以上とらないといけぬというのはただとればいいという裏返し、そこをもう少し考えてほしい。
- インターネットでの調査の方がアンケートを受ける方も楽です。
- この調査は分量が多く、回答者の負担が少し大きいように思います。回答者に何らかの形に見える利益が用意されていると回収率も上がるように思います。また、設問の選択肢が網羅的でないものがいくつかあり、少し気になりました。
- 大学内の景観は重要であると思っています。新しく建てる建物はよく考えて欲しい。正門横のガラス張りの建物は、あまり好ましい印象を少なくとも私は受けなかった。
- 大学4年も終わろうとするこの時期に来て、教養課程2年間の大切さと、自分がいかにさぼっていたかが身にしみている。前期教養課程への編入制度があったらぜひ利用したいと思う。
- 進路や就職について職員や先生と話す機会が欲しい。一応、場はあるのかもしれないが、よくわからないし、行きづらい。

〔工女子〕

- 研究室が狭く、環境もよくない。研究室生活がはじまってから体調を崩すことが多くなった。環境を改善

してほしい。また、昼・夜ともに食事が学食となるため、栄養バランスをもっと考えたメニューにしてほしい。学費の値上げはやめてほしい。

- 研究室の生活環境を良くしてほしい。駒場の生協前～体育館内までのエリアが汚いので、そうじの頻度をふやすなり対策してほしい。

〔農男子〕

- 学部講義の他学部聴講に関して。他学部聴講は分野を超えて広い知識と視野を得るために有意義で、できればとりたいたいと思う学生は多いと思います。しかし、異なるバックグラウンドを持つ他学部の講義の聴講は、自分の学部の講義とは違う難しさがあります。そのような中で、もう一つ壁になっているのが時間割です。学部によって講義の開始/終了時刻が10分程度ずれていて、移動時間も含めると前後の講義に影響してしまうケースがあります。実際そのためにとりたくてもとれない講義がありました。学部間で講義の時刻を統一してほしいです。
- 講義が退屈で仕方がない。知識を身につけさせたいのなら、本を読む方がずっと効率的である。良い教科書が充実している今日、教員が自分のメモを板書してそれを生徒に写させる、というやり方は時代遅れである。また、知識の暗記のみを求める試験は無意味だ。学生は一夜漬けをするだけで、将来のために得るものは無い。
- 東大、特に前期課程は、学ぶ分野が多すぎて分りにくい。興味のない講義でも単位のために取って、テスト前に少し勉強して単位だけ取り、内容が身につかないことも非常に多い。もっと、必要単位を少なくし、でも講義の内容が身につかないと単位がとれないようなカリキュラムにしてほしい。
- 進学・卒業しやすくしていただければ楽になります。卒業できるか大変不安です。大学に居場所のなさを感じて足が遠のいてしまいます。
- 建物の新築もいいですが、農学部図書館を直してあげてください。
- この調査をして、それが実際の行動に移されているのかよくわかりません。

〔農女子〕

- 農学部の図書館に勉強できるスペースをもっと設けてほしいです。
- 理系の学部生の就活に対し、非常に非協力的。情報が入らない。大多数が院進学するとは言えど、学校のフォローが欲しい。院進学を前提にカリキュラムが組まれていることが不満。研究室配属が4年時である為、就活が始まる段階では“学卒で就職すべきか、院進学するか”の判断ができない。3年生の頃から、学生実験だけでなく研究室での研究に近いような実験等が体験できれば良い。細かい話になるが、私が所属する農学部2類3年生の学生実験は研究室での研究とは全く異

なるしつまらないので、改善を求む。

〔薬男子〕

- 研究だけではなく、教育にも重点をおいてほしいと思う。このようなことが過去から何度も書かれていると思うが、改善されている様子がない。

〔医男子〕

- 一般教養科目と専門科目の線引きが過激すぎると思います。とくに私が所属する医学科は後期のカリキュラムの密度が非常に高く、理科三類の場合はその前に駒場でたくさんの時間を持て余している。進振りは最終決定ということにして、それまでにも専門科目の一部を履修できればよかったのになあといまだに思います。（もちろん、他科類からの進学者が追いつづけるシステムは必須ですが）教養学部自体はすばらしい制度と思いますが、もう少し柔軟かつ効果的に運用できる気がします。
- 正直手での記入は辛い。インターネットを利用して欲しい。
- 駒場の期間にかなり無駄が多いので、カリキュラムを見直すべき。第二外国語は不要。医学部に関して言えば、教養の科目を最低限に絞り、入学直後から（基礎）医学も学び始めるべきだと思う。学ぶべきことが膨れ上がっている現状で、最初の1年半を漫然と過ごしたことが悔やまれる。現在の制度にも医進の人が加わることによる人材の多様化などのメリットはあるだろうが、総合的に考えると、駒場で教養という名のもとに遊んで過ごすことは医療の質を低下させていると思う。
- 12月は卒業試験があり、精神的余裕がなくて、回答できませんでした。気付いた時は、締切りを過ぎていたのですが、葉書きが来たので回答させて頂きました。遅くなってすみません。12月の朝日新聞に過去の結果か何か載っていて、心苦しく思っていました。お役に立てれば、と思います。お疲れ様です。

〔医女子〕

- 大学の取組みがわかって良かったです。
- 2003、2004年よりも、2006年度になってから駒場図書館やコミュニケーションプラザの女子トイレに髪の毛が多量に落ちていて不快。利用者の他人への気遣いの低下が感じられ、残念。何か、学生のモラルを落すきっかけがあったのかと、気がかり。
- 全学統一の形式ではなく、ある程度学部をカテゴリー分類して行う方がよいと思います。学部によって進路の傾向などは全く異なると思いますので。

第56回（2006年）学生生活実態調査票

I. 基本的事項について伺います。

1. 性別	1. 男	865人	76.3%	2. 女	262人	23.1%
	無回答	7	0.6	合計	1,134	100.0
2. 科類・学部 1・2年生の方は右の01から06までの該当する番号を記入してください。	01. 文 I	71人	6.3%	02. 文 II	54人	4.8%
	03. 文 III	103	9.1	04. 理 I	223	19.7
	05. 理 II	110	9.7	06. 理 III	17	1.5
3年生以上の方は右の11から21までの該当する番号を記入してください。	11. 法学部	129	11.4	12. 経済学部	52	4.6
	13. 文学部	47	4.1	14. 教育学部	27	2.4
	15. 教養(文系)	21	1.9	16. 教養(理系)	8	0.7
	17. 理学部	45	4.0	18. 工学部	120	10.6
	19. 農学部	51	4.5	20. 薬学部	19	1.7
	21. 医学部	37	3.3	合計	1,134	100.0
	3. あなたの出身高校は、どれに該当しますか。	1. 国立(大学附属)	99人	8.7%	2. 公立	448人
3. 中高一貫型の私立		538	47.4	4. その他の私立	26	2.3
5. 大学入学資格検定		5	0.4	6. 外国学校	10	0.9
7. その他		6	0.5			
無回答		2	0.2	合計	1,134	100.0
4. 現役・浪人等		1. 現役	786人	69.3%	2. 1浪	301人
	3. 2浪以上	29	2.6	4. 学士入学	3	0.3
	5. その他()	14	1.2			
	無回答	1	0.1	合計	1,367	100.0
	5. 現在の学年	1. 1年	280人	24.7%	2. 2年	281人
3. 3年		238	21.0	4. 4年	309	27.2
5. 5年(医学・獣医)		11	1.0	6. 6年(医学・獣医)	14	1.2
無回答		1	0.1	合計	1,134	100.0
6. 入学年度		①2000年	3人	0.3%	②2001年	23人
	③2002年	57	5.0	④2003年	267	23.5
	⑤2004年	239	21.1	⑥2005年	275	24.3
	⑦2006年	270	23.8	合計	1,134	100.0
	7. 進学年度(後期課程の方のみ)	①2002年	1人	0.2%	②2003年	17人
③2004年		56	10.1	④2005年	247	44.4
⑤2006年		226	40.6			
無回答		9	1.6	合計	556	100.0

II. 入学・進学・学業について

8. 東大を受験する際に東大に入学することをどの程度希望していましたか。	1. 東大にどうしても入りたかった	620人	54.7%		
	2. 東大がだめなら他大学でもよいと思った	489	43.1		
	3. 他大学がだめなら東大でもよいと思った	22	1.9		
	無回答	3	0.3	合計	1,134

9. 東大入学の動機は、どれにあたりますか。 (主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 社会的評価が高いから	617人	54.4%			
	2. スタッフ・設備が優れているから	346	30.5			
	3. 将来の就職を考えて	325	28.7			
	4. 難関を突破したかったから	292	25.7			
	5. 私大に比べて授業料が安いから	502	44.3			
	6. 東大の伝統や雰囲気憧れて	296	26.1			
	7. 入学後に学部を選択が可能だから	477	42.1			
	8. 親・兄弟・姉妹の勧めで	96	8.5			
	9. 高校の先生や友人などの勧めで	173	15.3			
	10. その他	89	7.8			
	無回答	3	0.3	合計	1,134	100.0
10. 入学するときに進学する学部あるいは学科等を決めていましたか。	1. 学科等まで決めていた	293人	25.8%			
	2. 学部のみを決めていた	381	33.6			
	3. 学部・学科等は決めていなかった	459	40.5			
	無回答	1	0.1	合計	1,134	100.0
11. 学部・学科等の選択に際し、どのような点を重視しましたか(しますか)。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 最先端の学問・技術が学べること	189人	16.7%			
	2. 自分が惹きつけられた分野であること	927	81.7			
	3. その学部・学科等の教員に魅力を感じること	152	13.4			
	4. 社会に役立つ度合いの大きい分野であること	270	23.8			
	5. 就職の際に企業等から高く評価されること	106	9.3			
	6. 就きたい職業に必要な能力を磨けること	333	29.4			
	7. 特に重視した(する)点はない	61	5.4			
	無回答	3	0.3	合計	1,134	100.0
進学内定者及び後期課程学生に伺います。 12. 進学の決定(内定)は、希望通りでしたか。	1. 希望通り決定(内定)した	465人	83.6%			
	2. ほぼ希望通り決定(内定)した	66	11.9			
	3. 希望通りでなかった	20	3.6			
	無回答	5	0.3	合計	556	100.0
13. 現在在籍している学部・学科等(科類)に満足していますか。	1. 満足している	461人	40.7%	2. まあ満足している	378人	33.3%
	3. どちらとも言えない	126	11.1	4. やや不満である	99	8.7
	5. 不満である	45	4.0	無回答	25	2.2
	合計	1,134	100.0			
14. 進学振り分け制度についてどのように考えていますか。	1. 特に考えていることはない	321人	28.3%			
	2. 現行のままでよい	450	39.7			
	3. 入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい	136	12.0			
	4. 点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい	198	17.5			
	無回答	29	2.6	合計	1,134	100.0

15. 現在のカリキュラムに満足していますか。	1. 満足している	139人	12.3%	2. まあ満足している	448人	39.5%
	3. どちらとも言えない	196	17.3	4. やや不満である	254	22.4
	5. 不満である	78	6.9			
	無回答	19	1.7	合計	1,134	100.0
16. 現在のカリキュラムは消化できますか。	1. できる	483人	42.6%	2. まあできる	432人	38.1%
	3. 多少困難	174	15.3	4. できない	26	2.3
	無回答	19	1.7	合計	1,134	100.0
設問16で「3」または「4」と答えた方に伺います。 17. その理由はどれにあたりますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 進学・卒業に必要な単位数が多過ぎる				57人	28.5%
	2. 講義の内容が高度すぎて理解できない科目がある				105	52.5
	3. カリキュラムの組み方が不適切である				67	33.5
	4. 教育上の指導助言が十分でない				59	29.5
	5. 入試科目でないので勉強しなかった科目がある				20	10.0
	6. 高校までの勉強の仕方ではうまく適応できない				37	18.5
	7. 授業の予習と復習の時間が十分とれない				78	39.0
	8. 授業への自分の意欲や努力が足りない				91	45.5
	9. その他				13	6.5
	合計				200	100.0
18. 学部卒業後、どのような進路を予定していますか。	1. 大学院に進学する	574人	50.6%	2. 学士入学をする	10人	0.9%
	3. 就職する	351	31.0	4. 進学も就職もしない	3	0.3
	5. まだ決めていない	157	13.8	6. 起業する	3	0.3
	7. その他	16	1.4			
	無回答	20	1.8	合計	1,134	100.0
	設問18で「1」と答えた方に伺います。 19. どこまで進学を予定していますか。	1. 大学院修士課程				339人
2. 大学院博士課程					178	31.0
3. 専門職学位課程					52	9.1
無回答		5	0.9	合計	574	100.0
設問18で「1」と答えた方に伺います。 20. その理由は、次のうちどれにあたりますか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. より高度の知識・技術を身に付けるため				410人	71.4%
	2. 大学の教育職に就くため				78	13.6
	3. 大学外で研究職に就くため				64	11.1
	4. 必要な資格を得るため				82	14.3
	5. 良い就職先を得るため				92	16.0
	6. まだ社会に出たくないから				84	14.6
	7. 就職先が決まらないから				10	1.7
	8. 周囲に勧められたから				12	2.1
	9. 大学院修了ということの社会的評価が高いから				63	11.0
	10. 学部での進路指導に従って				15	2.6
	11. その他				19	3.3
	無回答	53	9.2	合計	574	100.0

Ⅲ. 就職について

21. どのような職業に就きたいと思いますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 大学・公的機関の教育・研究職	494人	43.6%		
	2. 企業等の研究職	422	37.2		
	3. 技術職	290	25.6		
	4. 事務職	246	21.7		
	5. 教育職（大学を除く）	105	9.3		
	6. 行政職（公務員）	385	34.0		
	7. 専門職（医師、法曹、公認会計士等）	393	34.7		
	8. マスコミ（新聞記者、放送記者、アナウンサー、プロデューサー等）	168	14.8		
	9. その他	67	5.9		
	無回答	9	0.8	合計	1,134
22. その職業に就きたいと考えるのは、どのような理由からですか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 人を助けたり社会に奉仕する	508人	44.8%		
	2. 安定した生活が保証されている	378	33.3		
	3. 十分な収入が期待できる	349	30.8		
	4. 自分の特技・能力や専門知識が活かせる	708	62.4		
	5. 華やかで、世間からもてはやされる	28	2.5		
	6. 社会的な地位・名声が得られる	164	14.5		
	7. 組織にしばられず、自由な活動ができる	229	20.2		
	8. 人や組織を動かすことができる	123	10.8		
	9. 独創性や創造性を発揮できる	341	30.1		
	10. その他	50	4.4		
無回答	10	0.9	合計	1,134	100.0

23. 仕事や職場を選ぶ際にどのようなことを重視しますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 給料がよい	417人	36.8%		
	2. 休みをとりやすい	104	9.2		
	3. 責任が軽い	24	2.1		
	4. 失業の心配がない	107	9.4		
	5. 福利厚生が充実している	103	9.1		
	6. 出世の見込みが多い	30	2.6		
	7. 技術や知識を身につけられる	253	22.3		
	8. 権限が大きい	40	3.5		
	9. やりがいがある	757	66.8		
	10. 能力が発揮できる	423	37.3		
	11. 人から評価される	104	9.2		
	12. 仕事を行う上で男女の差別がない	62	5.5		
	13. 将来発展する見込みがある	101	8.9		
	14. 職場が都心のオフィス街にある	16	1.4		
	15. 職場が自然環境のよい郊外にある	8	0.7		
	16. 海外勤務の機会が多い	39	3.4		
	17. 転勤が少ない	26	2.3		
	18. いろいろな人と知り合える	125	11.0		
	19. オフィスが新しくきれい	3	0.3		
	20. 職場の人間関係がよい	178	15.7		
	21. 職場が近い	19	1.7		
	22. 残業が少ない	21	1.9		
	23. 雇用が安定している	83	7.3		
	24. 世界的な仕事ができる	116	10.2		
	25. 英語(外国語)を使う機会が多い	19	1.7		
	26. 公務員である	40	3.5		
	27. その他	19	1.7		
		無回答	6	0.5	合計
24. あなたはこれまで就職活動をしたことがありますか。	1. ある	228人	20.1%	2. ない	902人 79.5%
	無回答	4	0.4	合計	1,134 100.0
設問24で「1」と答えた方に伺います。 25. 就職活動として、どのようなことをしていますか(いましたか)。 (該当するすべての項目に「1」を記入してください。)	1. インターネット等で、情報を収集する	221人	96.9%		
	2. 企業等のセミナーや説明会に参加する	210	92.1		
	3. 就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する	56	24.6		
	4. 職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する	50	21.9		
	5. その他	15	6.6		
	合計	228	100.0		

26. 就職する場所はどこを希望しますか。	1. 東京圏（東京近郊）を希望する	589人	51.9%		
	2. 東京圏（東京近郊）以外を希望する	20	1.8		
	3. 出身地に近いところを希望する	82	7.2		
	4. 東京圏、東京圏以外どちらでもよい	341	30.1		
	5. 海外を希望する	60	5.3		
	6. その他	23	2.0		
	無回答	19	1.7	合計	1,134

IV. 心身の健康について

27. 今年1月から現在までの健康状態は、どれにあたりますか。	1. 非常に良好	372人	32.8%		
	2. 良好	648	57.1		
	3. やや悪い（症状：	84	7.4		
	4. 悪い（症状：	24	2.1		
	無回答	6	0.5	合計	1,134

やや悪い・悪いと答えた方はどのような症状か具体的に記入してください

28. あなたは、朝食を食べていますか。	1. ほぼ毎日	832人	73.4%		
	2. ときどき	194	17.1		
	3. ほとんど食べない	104	9.2		
	無回答	4	0.4	合計	1,134

29. あなたは、お酒をどのくらい飲みますか。	1. ほぼ毎日	29人	2.6%		
	2. 週3・4回	51	4.5		
	3. 週1・2回	406	35.8		
	4. ほとんど飲まない	644	56.8		
	無回答	4	0.4	合計	1,134

30. あなたは、たばこをどのくらい吸いますか。	1. 1日20本以上	10人	0.9%		
	2. 1日20本未満	47	4.1		
	3. ときどき吸う程度	54	4.8		
	4. 全く吸わない	1,109	89.9		
	無回答	4	0.4	合計	1,134

31. 一日の平均睡眠時間はどれくらいですか。	1. 4時間未満	17人	1.5%		
	2. 4時間以上5時間未満	77	6.8		
	3. 5時間以上6時間未満	287	25.3		
	4. 6時間以上7時間未満	411	36.2		
	5. 7時間以上	337	29.7		
	無回答	5	0.4	合計	1,134

32. あなたは、日ごろ健康維持増進のために心がけていることがありますか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. スポーツをしている				379人	33.4%	
	2. なるべく歩くなど体を動かすようにしている				365	32.2	
	3. 自然・健康食品をとるように心がけている				89	7.8	
	4. 栄養のバランスを考え、食事の内容に注意している				443	39.1	
	5. 栄養剤、栄養飲料をとっている				98	8.6	
	6. 規則正しい生活をするように心がけている				235	20.7	
	7. 健康診断を年1回以上受けている				45	4.0	
	8. 特に心がけていることはない				205	18.1	
	9. その他				13	1.1	
	無回答	6	0.5	合計	1,134	100.0	
33. 右の各項目について、4段階の中から該当する番号を○で囲んでください。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答	平均
	(上段:人数、下段:%)	4	3	2	1		
	1. 毎日が充実している	286 25.2	589 51.9	203 17.9	52 4.6	4 0.4	3.0
	2. ところから楽しいと感じるときがある	538 47.4	411 36.2	155 13.7	26 2.3	4 0.4	3.3
	3. 大学入学前後を比べ、自分の成長を感じる	436 38.4	407 35.9	209 18.4	77 6.8	5 0.4	3.1
	4. よく眠れて、朝は爽やかな気分で目覚める	102 9.0	370 32.6	501 44.2	156 13.8	5 0.4	2.4
	5. 朝起きて夜眠る生活のリズムが乱れている	249 22.0	340 30.0	329 29.0	212 18.7	4 0.4	2.6
	6. いつも頭がボンヤリしている	44 3.9	240 21.2	589 51.9	257 22.7	4 0.4	2.1
	7. 自分のしていることに自信がもてない	151 13.3	381 33.6	418 36.9	180 15.9	4 0.4	2.4
	8. 自分の将来といっても現実感がない	247 21.8	461 40.7	265 23.4	157 13.8	4 0.4	2.7
9. 自分が本当になにをやりたいのかわからない	198 17.5	352 31.0	356 31.4	224 19.8	4 0.4	2.5	

34. 現在の学生生活の中で右の各項目について、どの程度悩んだり不安を感じたりしていますか。 (それぞれの項目について、4段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	平均
	(上段:人数、下段:%)	4	3	2		
1. 勉学 (成績・単位など)	262 23.1	466 41.1	313 27.6	91 8.0	2 0.2	2.8
2. 学部進学や大学院進学	270 23.8	387 34.1	282 24.9	193 17.0	2 0.2	2.6
3. 就職	315 27.8	437 38.5	270 23.8	111 9.8	1 0.1	2.8
4. 将来の進路や生き方	460 40.6	460 40.6	161 14.2	51 4.5	2 0.2	3.2
5. 友人との対人関係	134 11.8	366 32.3	461 40.7	169 14.9	4 0.4	2.4
6. 性・異性・恋愛・結婚	222 19.6	423 37.3	355 31.3	133 11.7	1 0.1	2.6
7. 経済的なことや経済的自立	230 20.3	465 41.0	342 30.2	95 8.4	2 0.2	2.7
8. 自分の性格	218 19.2	382 33.7	372 32.8	161 14.2	1 0.1	2.6
9. 自分の体調や健康	107 9.4	288 25.4	483 42.6	255 22.5	1 0.1	2.2
10. 人生の意義・目標	248 21.9	400 35.3	340 30.0	145 12.8	1 0.1	2.7

35. あなたは、不安や悩みを感じたときどのように対処していますか。 (それぞれの項目について、4段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答	平均
	(上段:人数、下段:%)	4	3	2		
1. 他人に相談する	117 15.6	428 37.7	330 29.1	198 17.5	1 0.1	2.5
2. 友人と雑談などで気を紛らわす	235 20.7	516 45.5	256 22.6	126 11.1	1 0.1	2.8
3. 趣味・スポーツなどで気を紛らわす	331 29.2	491 43.3	221 19.5	90 7.9	1 0.1	2.9
4. 勉学、研究に打ち込むことで気を紛らわす	93 8.2	285 25.1	479 42.2	276 24.3	1 0.1	2.2
5. 旅に出るなど環境を変えてみる	127 11.2	226 19.9	380 33.5	399 35.2	2 0.2	2.1
6. お酒を飲んだり食事をしたりして気を紛らわす	136 12.0	378 33.3	302 26.6	317 28.0	1 0.1	2.3
7. 宗教や自己啓発セミナーなどの活動に参加する	6 0.5	12 1.1	74 6.5	1,041 91.8	1 0.1	1.1

36. あなたは、不安や悩みを感じたとき誰に相談したり話し合ったりしますか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 父親				118人	10.4%
	2. 母親				360	31.7
	3. 兄弟姉妹				72	6.3
	4. 恋人				247	21.8
	5. 大学の教員・職員				14	1.2
	6. 学内の友人・知人				622	54.9
	7. 学外の友人・知人				384	33.9
	8. メル友、インターネット上の友人				17	1.5
	9. 学外のカウンセラー、精神科医				9	0.8
	10. 学生相談所、保健センター				10	0.9
	11. 相談できる相手がいない				105	9.3
	無回答	33	2.9	合計	1,134	100.0

V. 学内施設の利用について

37. 次の学内施設を、授業の合間、昼休み、放課後などにどの程度利用しますか。 その利用度について、該当する施設に下記の番号を記入してください。	ほとんど毎日	週数回程度	週1回程度	月1回程度	全くない	無回答
	(上段:人数、下段:%)	1	2	3	4	5
		1	2	3	4	5
A. 総合図書館（本郷）	59 5.2	118 10.4	133 11.7	292 25.7	525 46.3	7 0.6
B. 学部等の図書館・図書室	80 7.1	228 20.1	224 19.8	275 24.3	321 28.3	6 0.5
C. 研究室	122 10.8	35 3.1	29 2.6	30 2.6	910 80.2	8 0.7
D. 情報基盤センター（本郷）	0 0.0	7 0.6	18 1.6	69 6.1	1,033 91.1	7 0.6
E. 各学部の端末室・情報処理室（本郷）	36 3.2	68 6.0	80 7.1	103 9.1	841 74.2	6 0.5
F. 情報教育棟（駒場）	22 1.9	134 11.8	186 16.4	223 19.7	561 49.5	8 0.7
G. 総合図書館の談話室・ラウンジ（本郷）	7 0.6	26 2.3	23 2.0	80 7.1	991 87.4	7 0.6
H. 学部の談話室・ラウンジ・学生控室	84 7.4	103 9.1	76 6.7	96 8.5	769 67.8	6 0.5
I. 学生部センター（本郷）	1 0.1	3 0.3	10 0.9	44 3.9	1,069 94.3	7 0.6
J. 学内食堂・喫茶室	322 28.4	347 30.6	180 15.9	148 13.1	132 11.6	5 0.4
K. サークル部室	107 9.4	111 9.8	60 5.3	75 6.6	774 68.3	7 0.6
L. 学生会館（駒場）	31 2.7	54 4.8	64 5.6	189 16.7	788 69.5	8 0.7
M. 御殿下記念館（本郷）	11 1.0	51 4.5	85 7.5	134 11.8	846 74.6	7 0.6
N. 屋外運動場（テニスコート、野球場等を含む）	48 4.2	63 5.6	60 5.3	52 4.6	905 79.8	6 0.5
O. 体育館（駒場）	22 1.9	67 5.9	136 12.0	48 4.2	854 75.3	7 0.6
P. その他	29 2.6	18 1.6	10 0.9	5 0.4	306 27.0	766 67.5

38. それぞれの施設の利用のしやすさについて、どれくらい満足していますか。その満足度について該当する施設に下記の番号を記入してください。

1. 満足している
2. まあ満足している
3. どちらとも言えない
4. やや不満である
5. 不満である
6. 利用していないのでわからない

	満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用していないのでわからない	無回答
	1	2	3	4	5	6	
A. 総合図書館（本郷）	198 17.5	293 25.8	73 6.4	75 6.6	39 3.4	449 39.6	7 0.6
B. 学部等の図書館・図書室	211 18.6	382 33.7	102 9.0	98 8.6	62 5.5	274 24.2	5 0.4
C. 研究室	71 6.3	89 7.8	56 4.9	23 2.0	32 2.8	851 75.0	12 1.1
D. 情報基盤センター（本郷）	14 1.2	49 4.3	55 4.9	27 2.4	41 3.6	939 82.8	9 0.8
E. 各学部の端末室・情報処理室（本郷）	47 4.1	125 11.0	79 7.0	63 5.6	38 3.4	774 68.3	8 0.7
F. 情報教育棟（駒場）	164 14.5	359 31.7	127 11.2	71 6.3	25 2.2	377 33.2	11 1.0
G. 総合図書館の談話室・ラウンジ（本郷）	24 2.1	69 6.1	70 6.2	20 1.8	31 2.7	910 80.2	10 0.9
H. 学部の談話室・ラウンジ・学生控室	66 5.8	132 11.6	91 8.0	71 6.3	63 5.6	701 61.8	10 0.9
I. 学生部センター（本郷）	11 1.0	25 2.2	42 3.7	6 0.5	27 2.4	1,012 89.2	11 1.0
J. 学内食堂・喫茶室	157 13.8	448 39.5	160 14.1	189 16.7	71 6.3	104 9.2	5 0.4
K. サークル部室	58 5.1	131 11.6	87 7.7	85 7.5	62 5.5	699 61.6	12 1.1
L. 学生会館（駒場）	22 1.9	76 6.7	132 11.6	132 11.6	122 10.8	638 56.3	12 1.1
M. 御殿下記念館（本郷）	116 10.2	153 13.4	44 3.9	17 1.5	28 2.5	768 67.7	9 0.8
N. 屋外運動場（テニスコート、野球場等を含む）	73 6.4	102 9.0	50 4.4	27 2.4	30 2.6	841 74.2	11 1.0
O. 体育館（駒場）	47 4.1	115 10.1	132 11.6	82 7.2	46 4.1	646 57.0	66 5.8

VI. 学内情報のメディアについて

39. 学生生活においてどのようなメディアを利用していますか。 (主なものを5つまで選び、番号を記入してください。)	1. 学内広報	42人	3.7%		
	2. 学部報	46	4.1		
	3. 東京大学新聞	381	33.6		
	4. 運動会報	32	2.8		
	5. 掲示板	680	60.0		
	6. 立看板・ビラ	203	17.9		
	7. 図書館の目録検索 (OPAC)	522	46.0		
	8. 情報基盤センターの電子掲示板	51	4.5		
	9. 進学情報センター (駒場のみ)	93	8.2		
	10. 東京大学ホームページ	380	33.5		
	11. 学部ホームページ	440	38.8		
	12. 電子メール	483	42.6		
	13. インターネットによる文献検索 (文献データベース検索)	297	26.2		
	14. 東京大学情報ネットワークシステム (Utnet)	74	6.5		
	15. 学生が作るホームページ (UT-Life)	71	6.3		
	無回答	41	3.6	合計	1,134

VII. 大学への要望

40. 大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. カリキュラムの改革	383人	33.8%		
	2. 教室の充実	243	21.4		
	3. 実験室や実習室の充実	124	10.9		
	4. 教育スタッフの充実	176	15.5		
	5. 進学振分け制度の改善	205	18.1		
	6. 少人数教育の実施	212	18.7		
	7. 授業の方法の工夫・改善	429	37.8		
	8. 単位認定や学年試験を緩やかに	186	16.4		
	9. 単位認定や学年試験を厳しく	40	3.5		
	10. キャンパスの拡大・移転・統合	45	4.0		
	11. 図書館の充実	206	18.2		
	12. カウンセリング・相談体制の充実	54	4.8		
	13. 学生自治に対する適切な助成と助言	17	1.5		
	14. 学生自治の尊重	22	1.9		
	15. 奨学金 (育英資金) ・育英貸付金などの拡充や増額	290	25.6		
	16. 就職対策の充実	254	22.4		
	17. その他	60	5.3		
無回答	28	2.5	合計	1,134	100.0

41. 現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。 (それぞれの項目について、5段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)	非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	平均
	(上段:人数、下段:%)	5	4	3	2		
1. 社会的貢献を促進するために、授業の外部開放を進める	72 6.3	132 11.6	364 32.1	430 37.9	119 10.5	17 1.5	2.6
2. 社会的貢献を促進するために、産学協同をより推進する	189 16.7	360 22.9	437 38.5	189 16.7	41 3.6	18 1.6	3.3
3. 社会的貢献を促進するために、直接的に社会的要請の高い研究を推進する	114 10.1	204 18.0	390 34.4	301 26.5	108 9.5	17 1.5	2.9
4. 社会的貢献を促進するために、(むしろ)基礎研究を充実させる	217 19.1	381 24.8	456 40.2	144 12.7	17 1.5	19 1.7	3.5
5. 研究の国際化を推進するため、研究者の交流をより積極的に進める	359 31.7	403 35.5	300 26.5	42 3.7	10 0.9	20 1.8	4.0
6. 研究の国際化を推進するため、国際共同研究をより推奨する	310 27.3	356 31.4	369 32.5	65 5.7	16 1.4	18 1.6	3.8
7. 教育の国際化を推進するため、日本から外国へ留学する機会をもっと拡大する	394 34.7	312 27.5	300 26.5	91 8.0	19 1.7	18 1.6	3.9
8. 教育の国際化を推進するため、外国からの留学生をより一層受け入れる	262 23.1	281 24.8	397 35.0	141 12.4	35 3.1	18 1.6	3.5

Ⅷ. 大学が行っている学生生活に係る事柄について

42. 東京大学が行っている右の事柄を知っていますか。 (それぞれの項目について、3段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)	よく知っている	聞いたことがある	まったく知らない	無回答	平均
	3	2	1		
1. 東京大学憲章	26	516	586	6	1.5
2. アクション・プラン	13	168	947	6	1.2
3. 東京大学セクシャル・ハラスメント防止宣言	132	677	320	5	1.8
4. 東京大学アカデミック・ハラスメント防止宣言	96	537	495	6	1.6
5. 東京大学基金	30	274	825	5	1.3
6. 東京大学総長賞	245	612	272	5	2.0
7. 全学授業カタログ	288	226	615	5	1.7
8. 東京大学学生生活関連規程集	12	136	981	5	1.1
9. 東京大学学生懲戒処分規程	14	200	915	5	1.2
10. 学生相談所	247	781	101	5	2.1
11. キャリアサポート	145	646	338	5	1.8
12. バリアフリー支援室	58	535	535	6	1.6
13. ハラスメント相談所	64	694	369	7	1.7
14. オープンキャンパス	447	594	89	4	2.3
15. キャンパスツアー	268	589	273	4	2.0
16. 学生が作るホームページ (UT-Life)	189	435	506	4	1.7
17. 東京大学国際学術交流活動等奨励事業	8	161	959	6	1.2
	0.7	14.2	84.6	0.5	

Ⅸ. 家庭の状況について

43. 家庭の所在地はどこですか。	A. 地区					
		1. 東京都	284人	25.0%	2. 関東	356人
	3. 北海道	15	1.3	4. 東北	45	4.0
	5. 中部	150	13.2	6. 近畿	96	8.5
	7. 中国	48	4.2	8. 四国	33	2.9
	9. 九州・沖縄	91	8.0	10. その他	4	0.4
	無回答	12	1.1	合計	1,134	100.0
	B. 都市規模					
	1. 大都市=人口100万人以上				419人	36.9%
	2. 中都市=人口10万人以上				425	37.5
	3. 小都市=人口10万人未満				124	10.9
	4. 郡部				50	4.4
	無回答	116	10.2	合計	1,134	100.0
都市規模が不明の場合は具体的に都市名を記入してください。	具体的都市名				市	

44. 主たる家計支持者はだれですか。	1. 父	996人	87.8%	2. 母	77人	6.8%	
	3. 本人	5	0.4	4. 兄弟姉妹	1	0.1	
	5. 祖父母	0	0.0	6. 配偶者	1	0.1	
	7. だれと一口には いえない	34	3.0	8. その他 ()	5	0.4	
	無回答	15	1.3	合計	1,134	100.0	
	45. 主たる家計支持者の職業はどれにあたりますか。						
	1. 専門的、技術的 職業	例えば（以下の選択肢についても同様）、科学研究者、技術者、医師、薬剤師、裁判官、検察官、弁護士、公認会計士、税理士、芸術家、宗教家、著述家、記者、俳優、職業スポーツ家、プログラマーなどの方				261人	23.0%
	2. 教育的職業	大学（研究所）、短大、高専の教授・助教授などの方、小・中・高校の教員（校長・副校長・教頭を含む。）、その他の教員（私塾等）				153	13.5
3. 管理的職業	会社役員、課長以上の会社員、課長以上の公務員などの方				427	37.7	
4. 事務	一般事務（上記3を除く）の方				78	6.9	
5. 販売	小売店主、卸売店主、飲食店主、行商人、保険代理人、販売店員などの方				45	4.0	
6. 農・林・漁業					11	1.0	
7. 生産工程・採掘 作業	金属工業、機械工業、繊維工業などの工程従事者の方、洋服仕立職、大工、印刷工、菓子製造工などの方、建設作業員、倉庫作業員、運搬作業員、配達作業員などの方、採掘作業員の方				54	4.8	
8. 運輸・通信・保 安・サービス	鉄道・自動車の運転手、車掌、船舶乗組員、無線通信士、電話交換手などの方、自衛官、警察官、消防士、守衛などの方、理容師、美容師、料理人、クリーニング職、給仕、下宿・アパート等の管理人、清掃員などの方				44	3.9	
9. 無職	不動産収入・金利・年金生活者などを含む。				25	2.2	
0. その他					21	1.9	
無回答	15	1.3	合計	1,134	100.0		
46. 主たる家計支持者の勤務先（設問45の職業分類）の規模はどれにあたりますか。 (設問45で無職の場合は「0」と記入してください。)	A. 職業が「1及び3～8」の方は次の中から選んでください。						
	1. 従業員が1,000人以上の企業及び官公庁					421人	37.1%
	2. " 1,000人以上1,000人未満の企業					202	17.8
	3. " 10人以上100人未満の企業					136	12.0
	4. " 10人未満の企業					143	12.6
	B. 職業が「2. 教育的職業」の方は次の中から選んでください。						
	5. 大学（研究所）、短大、高専の教授・助教授					57	5.0
	6. 小・中・高校の校長・副校長・教頭					22	1.9
	7. 上記5、6以外の教員					64	5.6
	0. 無 職					25	2.2
	無回答	64	5.6	合計	1,134	100.0	

47. 主たる家計支持者の雇用形態は大きく分けてどれにあたりますか。 (設問45で無職の場合は「0」と記入してください。)	1. 自分1人 (だれにも雇用されていない、まただれも雇用していない。)	79人	7.0%		
	2. 民間企業に勤務 (民間企業・団体の職員等)	613	54.1		
	3. 官公庁に勤務 (国・自治体、公共企業体の職員等)	248	21.9		
	4. 経営者・役員又は人を雇用している	136	12.0		
	0. 無職	25	2.2		
	無回答	33	2.9	合計	1,134
48. 主たる家計支持者の年収(税込み)はどれくらいですか。 (給与生活者の場合はボーナスも含めてください。)	年収を単位「十万円」で記入してください。……………	935人	99.28十万円		
			(十万円未満は、四捨五入して記入)		
	無回答	119	17.5	合計	1,134
49. あなたの家族の世帯年収(税込み)はどれくらいですか。 (給与生活者の場合はボーナスも含めてください。)	年収を単位「十万円」で記入してください。……………	923人	114.76十万円		
			(十万円未満は、四捨五入して記入)		
	無回答	211	18.6	合計	1,134

X. 生活費の状況について

50. 右の各欄に金額を記入してください。
(最近3ヶ月の実績から、平均1ヶ月の収支額を記入してください。)

(注)

食費

自宅生は外食代(費)を記入する。

勉学費

勉学に必要な書籍代、実習材料費、文房具代、実習旅費等(授業料等の学校納付金を除く。)

教養・娯楽費

教養・娯楽費のための書籍代、サークルの支出、勉学以外の旅行の費用、交友費、スポーツ代、映画・演劇・音楽会の入場料等。

雑費

理・美容代、タバコ代、化粧品代、ガソリン代、電話代、医療費、水・光熱費等。

家庭からの仕送り・小遣い

親・兄弟・親類等からの仕送り、又は小遣い等。

1ヶ月の支出額を単位「千円」で記入してください。

衣料費	889人	11.88千円
食費	1,053	25.93
住居費	538	68.50
勉学費	997	9.78
教養・娯楽費	1,030	14.90
通学費	850	7.77
雑費	989	11.61
支出額合計	1,064	111.05

1ヶ月の収入額を単位「千円」で記入してください。

家庭からの仕送り・小遣い	935	77.09千円
奨学金	246	59.93
アルバイト・雑収入	726	44.27
収入額合計	1,060	112.37

51. 授業料はどのように負担していますか。

1. 家庭からの仕送り	966人	85.2%
2. 奨学金	60	5.3
3. アルバイト・雑収入	9	0.8
4. 授業料免除	37	3.3
5. その他	20	1.8
無回答	42	3.7
合計	1,134	100.0

X I . 通学・住居について

52. 現在どこに住んでいますか。	1. 足立・葛飾・荒川	46人	4.1%	} 各 区		
	2. 江戸川・江東・墨田	13	1.1			
	3. 台東・文京・豊島	234	20.6			
	4. 千代田・中央・港	20	1.8			
	5. 板橋・練馬・北	77	6.8			
	6. 中野・杉並・新宿	114	10.1			
	7. 世田谷・渋谷・目黒	144	12.7			
	8. 品川・大田	20	1.8			
	9. 東京都（23区外）	172	15.2			
	10. 横浜市	93	8.2			
	11. 川崎市	28	2.5			
	12. 神奈川県（「10」・「11」を除く）	22	1.9			
	13. さいたま・川口・蕨の各市	29	2.6			
	14. 埼玉県（「13」を除く）	37	3.3			
	15. 千葉・船橋・市川・習志野の各市	32	2.8			
	16. 千葉県（「15」を除く）	34	3.0			
	17. その他の県	10	0.9			
無回答	9	0.8	合計	1,134	100.0	
53. 居住形態はどれにあたりますか。	1. 自宅	544人	48.0%	2. 自宅外	583人	51.4%
	無回答	7	0.6	合計	1,134	100.0
54. ◎自宅外の方に伺います。現在住んでいる住居の区分はどれにあたりますか。	1. 分譲マンション	14人	2.4%			
	2. 賃貸マンション・アパート（バスつき）	422	72.4			
	3. アパート（バスなし）	16	2.7			
	4. 下宿	17	2.9			
	5. 東大寮・三鷹国際学生宿舎	47	8.1			
	6. その他の寮	54	9.3			
	7. その他	12	2.1			
	無回答	1	0.2	合計	583	100.0
55. 多少入居者の負担が増えても学寮・学生宿舎等の建設を促進すべきだと思いますか。	1. そう思う	493人	43.5%	2. そうは思わない	151人	13.3%
	3. どちらとも言えない	310	27.3	4. 自分には関係がない	159	14.0
	5. その他	9	0.8			
	無回答	12	1.1	合計	1,134	100.0

56. あなたが通学に利用している交通機関を記入してください。 (移動時間の多いものを選び、番号を記入してください。)	1. 電車	840人	74.1%	2. バス	3人	0.3%
	3. 自家用車	1	0.1	4. バイク	10	0.9
	5. 自転車	230	20.3	6. 徒歩のみ	43	3.8
	7. その他 ()	1	0.1			
	無回答	6	0.5	合計	1,134	100.0
	57. 片道の通学所要時間はどれくらいですか。 (分単位で記入してください。)					
	所要時間					1,134人

XII. 奨学金について

58. 日本学生支援機構又は他の団体から定期的に奨学金を受けていますか。	1. 受けている	256人	22.6%		
	2. 受けたいが受けられなかった	179	15.8		
	3. 受けたくない	52	4.6		
	4. 受ける必要がない	636	56.1		
	無回答	11	1.0	合計	1,134
設問58で「2」または「3」と答えた方に伺います。 59. その理由はどれに当てはまりますか。	1. 出願はしたが採用されなかった	34人	14.7%		
	2. 書類を期限までに整えられなかった	14	6.1		
	3. 貸与なので申請しなかった	62	26.8		
	4. 事務手続きが煩雑だから	16	6.9		
	5. 掲示等に気がつかなかった	29	12.6		
	6. 資格がない	55	23.8		
	7. その他 ()	18	7.8		
	無回答	3	1.3	合計	231
設問58で「2」または「3」と答えた方に伺います。 60. これから受けたいと思えますか。	1. 受けたい	138人	59.7%	2. 受けたくない	60人 26.0%
	無回答	33	14.3	合計	231 100.0
奨学金を受けている方に伺います 61. どの奨学金を受けていますか。 (該当する番号を記入してください。)	1. 日本学生支援機構第一種奨学金 (無利息奨学金)	139人	54.3%		
	2. 日本学生支援機構第二種奨学金 (利息付奨学金)	97	37.9		
	3. 公益法人等・地方公共団体等の奨学金	62	24.2		
	無回答	4	1.6	合計	256 100.0
62. 奨学金はどんな面で役に立っていますか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 家庭の経済的負担が軽減される	197人	77.0%		
	2. 多少ともゆとりのある生活ができる	73	28.5		
	3. アルバイトが軽減される	43	16.8		
	4. 奨学金があるので生活が成り立っている	88	34.4		
	5. 定期的な収入になるので助かる	45	17.6		
	6. その他 ()	5	2.0		
	無回答	0	0.0	合計	256 100.0

奨学金を受けている方に伺います

63. 奨学金の主たる支出目的(用途)はどれにあたりますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 生活費(衣・食・住居費)	193人	75.4%		
	2. 授業料	92	35.9		
	3. 勉学費	123	48.0		
	4. 教養・娯楽費	99	38.7		
	5. 旅行(帰省旅行も含む)	10	3.9		
	6. 技術・資格等取得の費用	5	2.0		
	7. 耐久消費財購入費用	8	3.1		
	8. 貯金	32	12.5		
	9. その他()	7	2.7		
	無回答	2	0.8	合計	256

XIII. アルバイトについて

64. 過去一年間にアルバイトをしましたか。	1. 継続的(1ヶ月以上)アルバイトをした	609人	53.7%		
	2. 臨時(1ヶ月未満)アルバイトをした	132	11.6		
	3. 継続的+臨時アルバイトをした	153	13.5		
	4. しなかった(「4」を選んだ方は設問71に進んで下さい。)	237	20.9		
	無回答	3	0.3	合計	1,134

アルバイトをした方に伺います

65. そのアルバイトの種類はどれにあたりますか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 家庭教師	333人	37.2%		
	2. 塾講師	298	33.3		
	3. 試験監督・採点	136	15.2		
	4. 特殊技術(翻訳、通訳、プログラミング等)を要すること	62	6.9		
	5. 一般事務	109	12.2		
	6. 販売・セールス・サービス業	247	27.6		
	7. 肉体労働	105	11.7		
	8. 宿直・警備	10	1.1		
	9. その他()	59	6.6		
	無回答	1	0.1	合計	894

66. アルバイトに費やす時間と収入額はどれくらいでしたか。	A. 時間 (往復時間を含め、一週間当たりの平均時間を記入してください。)	874人	97.8%	11.43時間	
	無回答	20人	2.2%	合計	894人 100.0%
	B. 収入額 (1ヶ月当たりの平均額を単位「千円」で記入してください。)	878人	98.2%	48.84千円	
	無回答	16人	1.8%	合計	894人 100.0%

アルバイトをした方に伺います

67. アルバイトの紹介者は誰でしたか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 大学の担当事務	91人	10.2%			
	2. 研究室 (指導教員も含む)	19	2.1			
	3. 内外学生センター	39	4.4			
	4. 新聞広告・アルバイト広告誌	154	17.2			
	5. インターネット	316	35.3			
	6. 友人・知人等	350	39.1			
	7. アルバイト先と直接	217	24.3			
	8. スーパー・銀行等の伝言板	2	0.2			
	9. その他 ()	37	4.1			
	無回答	1人	0.1%	合計	894人	100.0%
68. アルバイトをした理由はどれにありましたか。	1. 生活費を稼ぐため	287人	32.1%			
	2. 勉学費を稼ぐため	45	5.0			
	3. 学生生活を楽しむため	307	34.3			
	4. 社会経験のため	219	24.5			
	5. その他 ()	32	3.6			
	無回答	4人	0.4%	合計	894人	100.0%
69. アルバイトの収入は何に使っていましたか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 生活費 (衣・食・住居費)	440人	49.2%			
	2. 授業料	17	1.9			
	3. 勉学費	96	10.7			
	4. 教養・娯楽費	608	68.0			
	5. 旅行 (帰省旅行も含む)	173	19.4			
	6. 技術・資格等取得の費用	17	1.9			
	7. 耐久消費財購入費用	28	3.1			
	8. 貯金	188	21.0			
	9. その他 ()	9	1.0			
	無回答	26人	2.9%	合計	894人	100.0%
設問64で「1」または「3」と答えた方に伺います。 70. 継続的アルバイトは勉学の妨げになりませんか (でした) か。	1. かなり妨げになる (なった)	68人	8.9%			
	2. 多少妨げになる (なった)	322	42.3			
	3. 妨げにならない (なかった)	265	34.8			
	無回答	107人	14.0%	合計	762人	100.0%
71. 現在の暮らし向きについてどうお考えですか。	1. かなり楽な方	285人	25.1%	2. やや楽な方	243人	21.4%
	3. 普通	389	34.3	4. やや苦しい方	157	13.8
	5. 大変苦しい方	22	1.9	6. 分からない	4	0.4
	無回答	34	3.0	合計	1,134	100.0%

学生生活委員会学生生活調査室

平成19年11月現在

調査室長	森 建 資 (大学院経済学研究科・経済学部)
副調査室長	下 山 晴 彦 (大学院教育学研究科・教育学部)
室 員	高 原 明 生 (大学院法学政治学研究科・法学部)
◇	森 憲 作 (大学院医学系研究科・医学部)
◇	渡 辺 紀 徳 (大学院工学系研究科・工学部)
◇	下 田 正 弘 (大学院人文社会系研究科・文学部)
◇	福 山 寛 (大学院理学系研究科・理学部)
◇	小 川 和 夫 (大学院農学生命科学研究科・農学部)
◇	竹 村 文 彦 (大学院総合文化研究科・教養学部)
◇	金 井 求 (大学院薬学系研究科・薬学部)
◇	佐々木 司 (保健センター)
◇	矢 野 由 美 (本部統括長 (教育・学生支援系))
◇	千 明 賢 治 (本部学務グループ長 (教育・学生支援系))

調査集計担当 本部学務グループ (教育・学生支援系)

◆ 表紙写真 ◆

- 左上 KALS(駒場アクティブラーニングスタジオ)
撮影 IZUTSU CHIEKO
- 左下 漕艇部130周年記念大会 (戸田橋艇庫)
- 右上 バリアフリー支援室
- 右下 薬学系研究科有機合成化学研究室

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。

No.1366 2007年12月7日

東京大学広報委員会

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報グループ

TEL：03-3811-3393

e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

<http://www.u-tokyo.ac.jp>